

■「認知症に関する市民意識調査」の概要について

① 調査目的

令和6年1月に認知症基本法が施行されたことにもない、奈良市における「認知症施策推進計画」を策定するうえでの基礎資料とするため、市民の皆さまの認知症に対するイメージ等を把握し、今後の認知症施策への参考とします。

② 調査対象

基準日(令和7年1月9日)時点で**20歳以上70歳未満**の奈良市民計**700名**(無作為抽出)
【内訳】各年代(20代から60代の計5区分)**140名**(男性:70名、女性:70名)ずつ

③ 調査期間

令和7年2月21日(金)～令和7年3月24日(月)

④ 調査方法

対象者宛に調査票を郵便で送付。回答方法は、調査票の返送もしくはWEB回答*の選択式の二択。

※WEB回答はLoGoフォームを活用

⑤ 回答状況：回答率:35%（有効回答数:245）

◆全体(年代別)

	調査対象	回答数	回答率
20歳～29歳	140	32	22.8%
30歳～39歳	140	46	32.9%
40歳～49歳	140	39	27.9%
50歳～59歳	140	46	32.9%
60歳～69歳	140	74	52.9%
年代無回答	—	8	—
計	700	245	35%

◇年代別・男性

	調査対象	回答数	回答率
20歳～29歳	70	12	17.1%
30歳～39歳	70	22	31.4%
40歳～49歳	70	15	21.4%
50歳～59歳	70	14	20%
60歳～69歳	70	29	41.4%
年代無回答	—	—	—
計	350	92	26.2%

◇年代別・女性

	調査対象	回答数	回答率
20歳～29歳	70	19	27.1%
30歳～39歳	70	23	32.8%
40歳～49歳	70	21	30%
50歳～59歳	70	31	44.3%
60歳～69歳	70	40	57.1%
年代無回答	—	1	—
計	350	135	38.5%

◇年代別(性別無回答)

	回答数	割合(各年代の回答数に占める割合)
20歳～29歳	1	3.1%
30歳～39歳	1	2.2%
40歳～49歳	3	7.7%
50歳～59歳	1	2.2%
60歳～69歳	5	6.8%
年代無回答	7	—
計	18	7.3%

※回答率・割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値を表示

⑥ 集計方法

・次ページ以降の◆「認知症に関する市民意識調査」の結果についてにおける各設問の集計で示しているパーセント(%)の表記は、全て小数点第2位を四捨五入しています。

・紙媒体での回答について、いずれにもチェックがついていないものについては、「回答しない」という選択肢を選択したものとして計上しています。

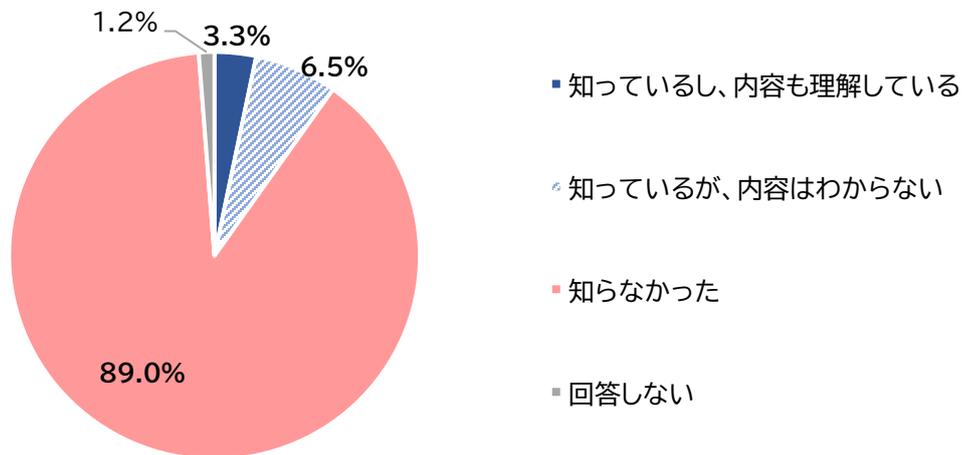
◆ 「認知症に関する市民意識調査」の結果について

1. 認知症基本法や「新しい認知症観」について

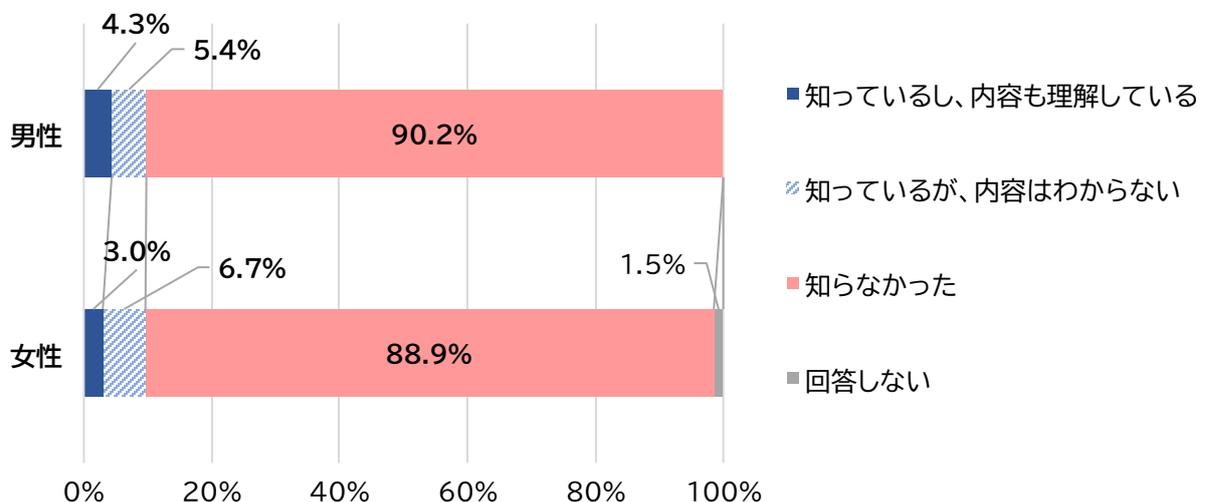
設問① 令和6年1月1日に「認知症基本法^{※1}」が施行されたことを知っていますか。

※1 令和6年1月1日に、認知症基本法が施行され、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を目指していくことが示されました。

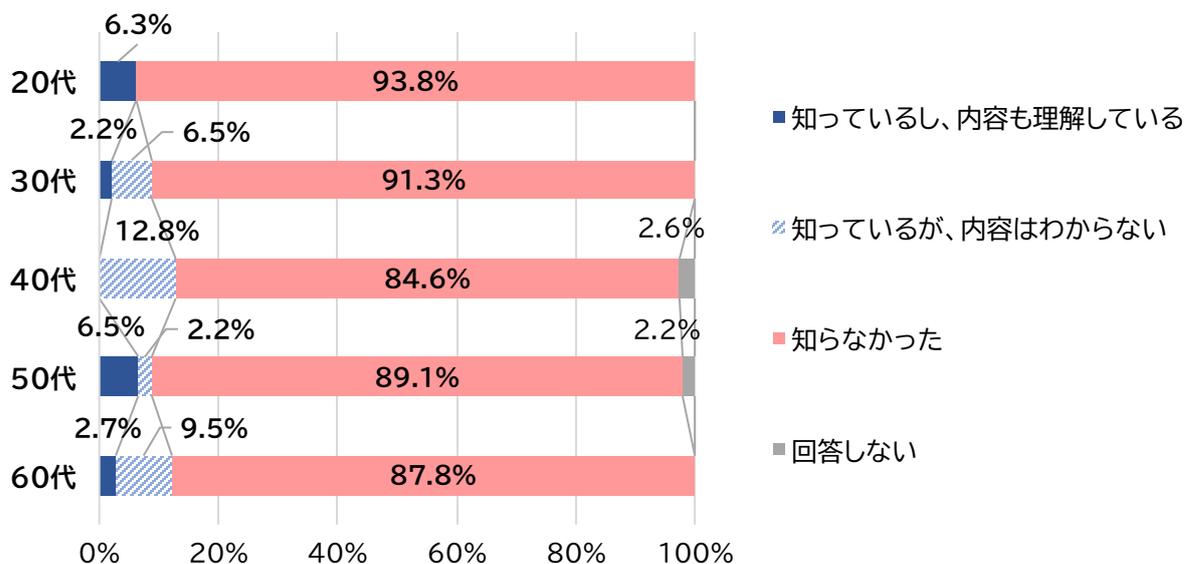
認知症基本法を知っているか尋ねたところ、「知っているし、内容も理解している」と回答した人が8名(3.3%)、「知っているが、内容はわからない」と回答した人が16名(6.5%)、「知らなかった」と回答した人が218名(89.0%)となりました。「回答しない」を選択した人は3名(1.2%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



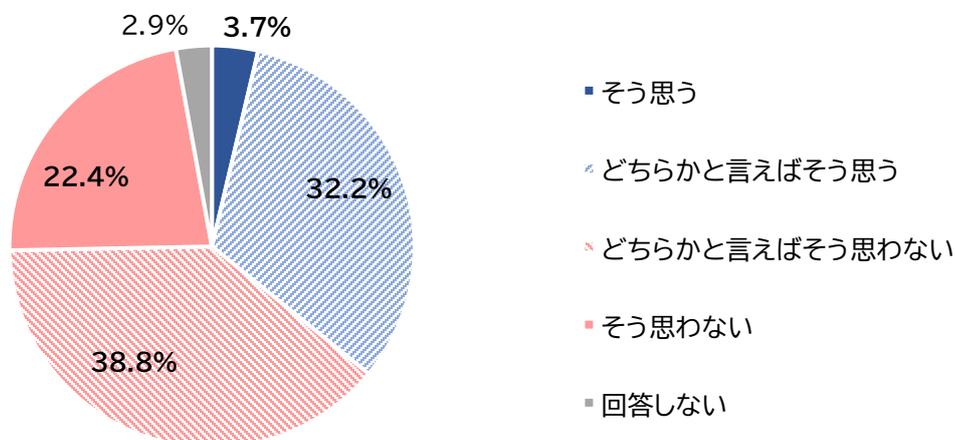
年代ごとの集計結果は、下記のグラフのとおりです。



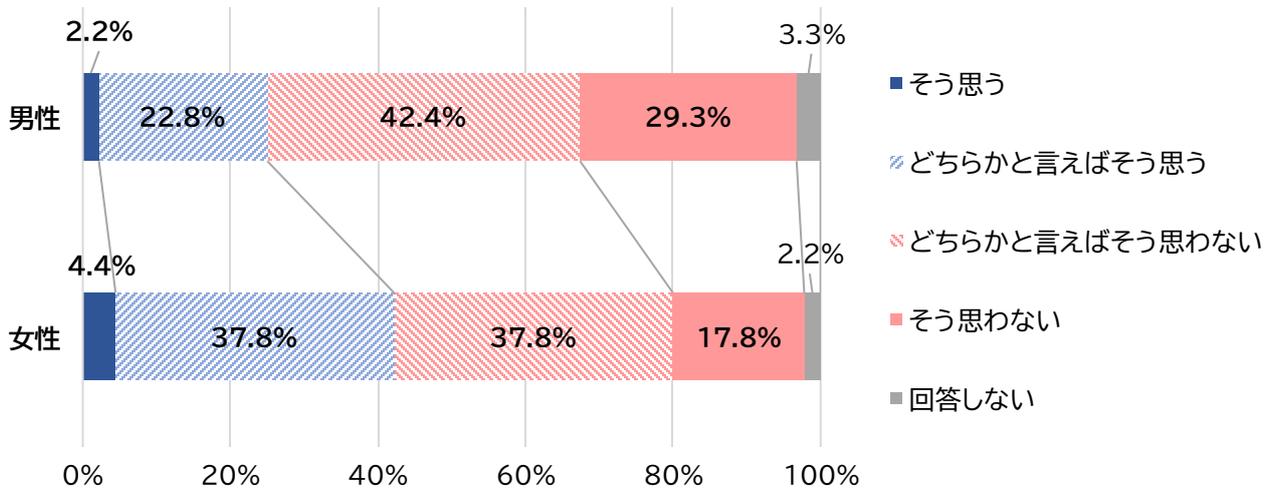
設問② 令和6年12月に「認知症施策推進基本計画」において示された、「新しい認知症^{※2}」に関してお尋ねします。「認知症になったら何もできなくなるのではなく、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」と思いますか。

※² 新しい認知症観：認知症になったら何もできなくなるのではなく、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方

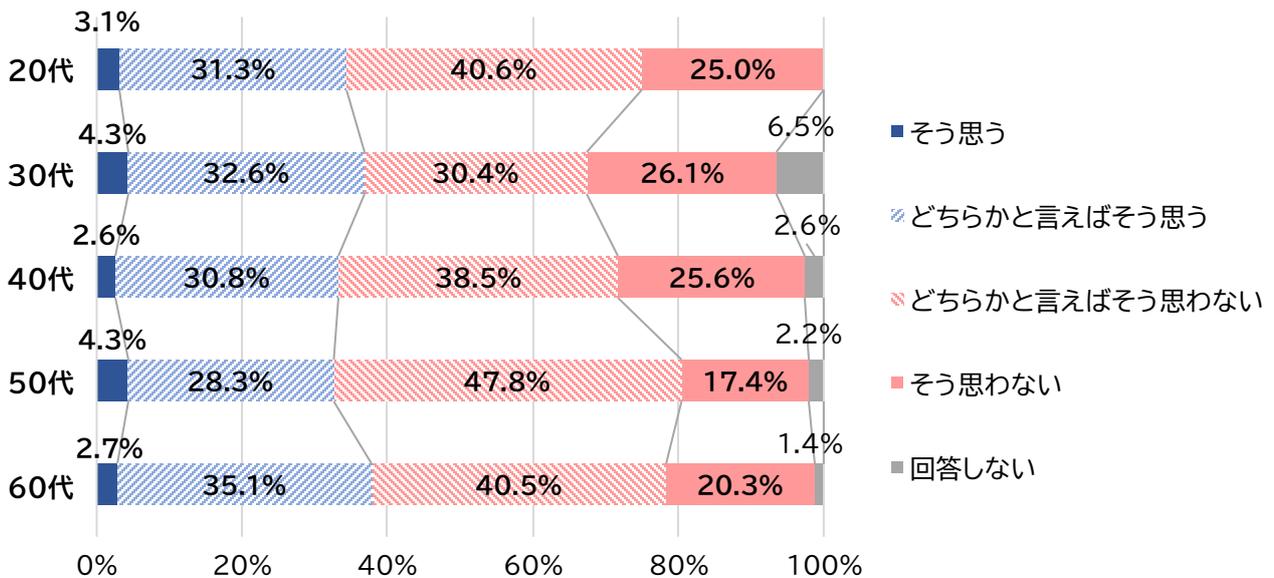
設問②は、令和6年12月に厚生労働省が発表した「認知症施策推進基本計画」に掲げられた「新しい認知症観」という考え方についての認識を尋ねた項目でした。「そう思う」と回答した人が9名(3.7%)、「どちらかと言えばそう思う」と回答した人が79名(32.2%)、「どちらかと言えばそう思わない」と回答した人が95名(38.8%)、「そう思わない」と回答した人が55名(22.4%)となりました。「回答しない」を選択した人は7名(2.9%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



年代ごとの集計結果は、下記のグラフのとおりです。



設問③ 上記(②)の回答の理由を教えてください。(自由記述)

上記の設問②で選択した回答の理由を自由記述で尋ねたところ、**147名**から回答が得られました。以下、回答内容ごとにいくつかのカテゴリに分類し、主な回答を掲載します。
 ※年代、性別で「回答しない」を選択されている方は、「-」と表記しています。

■カテゴリ①:実体験や実際に見聞きした立場から

□主な回答

設問②の回答	年代	性別	回答
そう思う	50代	女性	テレビ等で認知症になられた方が、地域の人と一緒に楽しく過ごされている姿を目にすることがあるので、希望を持って暮らしていけると思う。
どちらかと言うと そう思う	20代	女性	認知症の人の話を聞いて、実際に生活をおくれていることを知ったから。
	—	—	実母も軽い認知症ですが、おかげさまでうまくやっています。
そう思わない	20代	男性	祖母が認知症になってから、どんどんと何もできなくなっていく様子を見ていたから。
	40代	女性	認知症の人と関わる仕事をしているので、普段から関わっているから。
どちらかと言うと そう思わない	60代	女性	認知症の父の介護をして大変な想いをしたから。

家族に認知症の人がいる、仕事で認知症の人と関わっているなど、認知症の人と実際に接した経験や、認知症の人の話を聞いた、テレビ等の媒体で認知症の人の特集を見たといった実際に見聞きした経験からの回答をまとめたものです。実際の経験から「新しい認知症観」に共感する声がある一方、自身の経験から持つ認知症の人へのイメージと、「新しい認知症観」との乖離を感じている人もいました。

■カテゴリ②:認知症の症状や自身の持つイメージとの照らし合わせ

□主な回答

設問②の回答	年代	性別	回答
どちらかと言うと そう思う	60代	女性	”何もできなくなるのではない”ということ。
	60代	女性	人によって、症状の違いがあり、コミュニケーションの取り方を工夫すれば、それぞれのできることで助け合うことができる。
そう思わない	30代	男性	認知機能低下することで、自分らしさが失われるとイメージする。一方、この考えが広く社会で共有されることは、意義があるだろう。
どちらかと言うと そう思わない	20代	女性	認知症になったら自分らしさを忘れてしまいそうで、自分らしく暮らし続けられないと考えた。
	50代	女性	認知症になると、自分の考えが正しく伝えられなくなるから。
	50代	男性	知識と経験のない、一般の健常者とコミュニケーションをとることが難しいと思うから。

回答者自身の認知症の人へのイメージや具体的な症状と、「新しい認知症観」を照らし合わせている回答をまとめたものです。カテゴリ①と同様、「新しい認知症観」に共感する声もある一方で、認知症のイメージや具体的な症状から、「新しい認知症観」が掲げる“自分らしく希望を持って”や“住み慣れた地域で仲間とつながりながら”といった状況が想像しにくいと感じている人もいました。

■カテゴリ③: 認知症の程度・進行具合やその人の置かれた状況による

□主な回答

設問②の回答	年代	性別	回答
どちらかと言うと そう思う	20代	男性	認知症の程度は個人によって差があるので手助けがあれば地域で生活できると思う。
	50代	女性	認知症の程度によると思う。初期であればできるであろうが徘徊などが始まる段階になると近所の理解と協力がどれほど得られるかだと思う。
	60代	-	認知症の程度は個人差があり、接し方により自分らしく暮らすことは可能な場合があると考えている。
そう思わない	40代	女性	認知症の進行度によると思う。
どちらかと言うと そう思わない	20代	女性	周りにサポートしてくれる人がいるとしないのでは人によって大きく違いがあると思うから。
	30代	女性	認知症の進行度合いによって、新しい認知症観は変わってくると思うから。
	60代	女性	自分でできること、できないことや、助けが必要になるその時、助けてくれる人がやってくれるならできると思う。助けてくれなかったらできない。

「新しい認知症観」はその人の状況によって異なるものであり、一概には言えないといった趣旨の回答をまとめたものです。設問②の選択肢が何であったかに関わらず、「認知症の程度や、その人が周囲からのサポートを受けられる状態かどうかによって変わってくる」といった回答がありました。

■カテゴリ④: 社会の理解や制度・サービスに関する回答

□主な回答

設問②の回答	年代	性別	回答
そう思う	20代	女性	家族はもちろん、周囲の皆が認知症について理解していれば、自分らしく、住み慣れた場で暮らせると思うから。
	30代	男性	今は社会資源も充実してきている。地域の支援の輪も広がっている。
どちらかと言うと そう思う	40代	-	地域内に包括支援センターやデイサービス等周りにつながって過ごせる環境が昔よりは整っているから。
	50代	男性	地域で支える仕組みがあれば、生きがいを見つけて楽しく生活できるかも。
	60代	男性	昔より認知症の認識が広く伝わり、互いに思いやりをもって接することができる地域になりつつあるから。
そう思わない	30代	男性	社会がそのように整っていないから。
どちらかと言うと そう思わない	20代	男性	理想はそうありがたいが、世間一般の認知症への偏見があるから。
	40代	女性	住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていくためには、周りの人々の協力が必要だが、そこまで家族以外の協力を得ることは難しいのではないかと考える。

	40代	女性	地域性がそんな感じではないから。行政のいろんなことが不明瞭でわかりにくく、手間がかかるから。
	60代	女性	地域で自分らしく暮らしていける体制が整っているとは思えない。

社会の理解や制度・サービスに関して言及している内容をまとめたものです。「昔と比べて社会の理解がすすんでいる」、「制度やサービスを利用できる環境にある」という意見がある一方、「まだまだ認知症への偏見がある」、「家族以外の協力が得られそうにない」、「社会が整っていない」といった意見もありました。

■カテゴリ⑤:周りの人に負担をかけることへの懸念

□主な回答

設問②の回答	年代	性別	回答
どちらかと言うと そう思う	20代	女性	ケアをする側には何らかの負担が出てくるだろうから。
そう思わない	20代	男性	自分はそういう希望を持っていても、周りの人たちの負担が大きすぎるから。
	40代	男性	迷惑をかけることにより、周りとの関係はむしろ悪くなりそうな気がする。
どちらかと言うと そう思わない	40代	女性	新しい認知症観で暮らしていくには、必ず誰かの助けが必要になる。
	40代	女性	認知症のレベルにもよりますが、効く薬がない以上、周りに知らず知らずの間に迷惑をかけるかもしれない。自分は希望をもって周りが失望するかもという不安がある。しっかりとした医師監視のもと、安全に過ごしたいです。
	40代	男性	認知症の人に対応やケアするのに負荷が大きくなってしまい、本当につながって生きていけるのか、現在認知症ではない自分からみて若干懐疑的だから。

認知症の人を取り巻く周りの人への負担に関する言及をまとめたものです。自分は希望を持っていたとしても、周りの人に負荷がかかるのではないかという懸念する声がありました。

■カテゴリ⑥:そうあってほしいという希望

□主な回答

設問②の回答	年代	性別	回答
どちらかと言うと そう思う	40代	女性	そう思うではなく、そうでありたいといった希望の思いです。そのために、地域・社会で何ができるかを考えていきたいです。
	40代	女性	希望。
	50代	男性	認知症の程度にもよりますが、できそうな気がするし、そういう世の中であってほしいと思うので。
	60代	男性	そうしていきたいと思う。

	60代	女性	重度によるが、そうしたい。
--	-----	----	---------------

「新しい認知症観」のとおりになってほしいという希望を込めた回答をまとめたものです。「そう思う」ではなく、「そうあってほしい」といった意見がありました。

■カテゴリ⑦:自分や家族が認知症になったら

設問②の回答	年代	性別	回答
どちらかと言うと そう思う	30代	男性	自分の性格的に人に当たることはなさそうなので。
	40代	女性	子供の保護者同士、自治会の知人など、地域とのつながりが多少あるから。
	40代	女性	今、地域やママ友など、周りの仲間たちと支え合いながら生活ができていますので、これから先、自分の友人たちが認知症になっても、そのつながりは同じだと思うので、自分が認知症になっても皆と支え合いながら生活していくと思う。
そう思わない	50代	女性	近隣のつながりは薄い。 家族がいない、または身近に肉親がいない。
	60代	男性	地域とのつながりが無い。
どちらかと言うと そう思わない	20代	女性	自分や家族が認知症になったら前向きな心構えでいられる気がしない。
	40代	男性	仲間と呼べる近所のつながりが希薄なので。
	50代	男性	地域やご近所との関係性は疎遠になっているため。
	60代	男性	近くに友達がいない。

「今の状況で自分が(家族が)認知症になったらどうか」という視点からの回答をまとめたものです。現在の自身の地域とのつながりの有無を踏まえ回答され、「地域とのつながり・近所づきあいがあるから」と声や、「地域とのつながり・近所付き合いが希薄だから」といった意見がありました。

■カテゴリ⑧:その他の回答

□主な回答

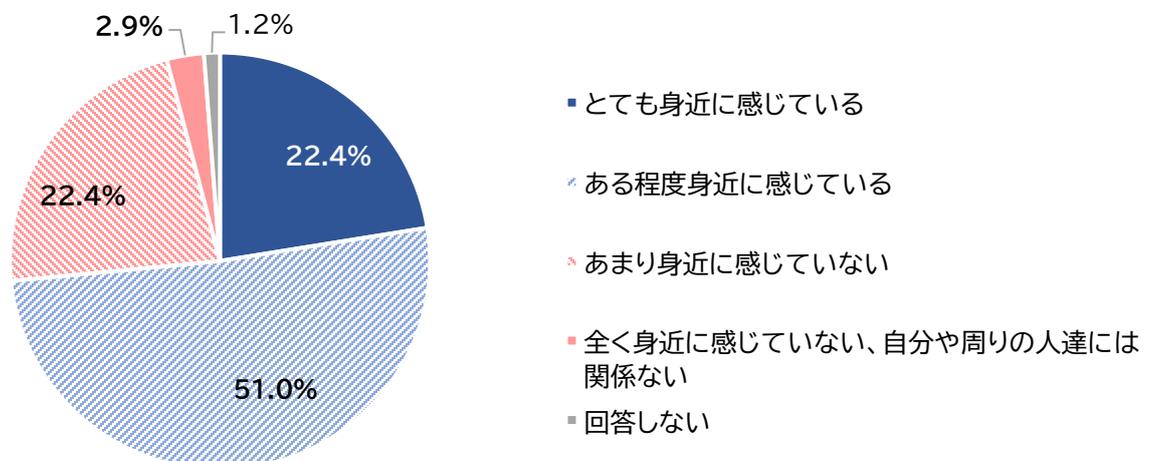
設問②の回答	年代	性別	回答
そう思う	40代	女性	認知症と言っても、日によっては、冴えている時もあるし、刺激によって少し回復したりするし、なんと言っても進行を止めれると思う。
どちらかと言うと そう思う	20代	男性	「希望を持って」とは何を指すのかわからないが、住み慣れた地域で認知できる仲間等とつながりながら自分らしく暮らし続けることはできると思う。
	30代	男性	最終的にはたどり着くと思うが、それまでに時間がかかると感じたから。

どちらかと言うと そう思わない	20代	男性	認知症になって介護等が必要になり、また家族の助けを得るのが難しい場合は施設に入所するなどこれまでの暮らし方を変えなくてはならない状況が発生しそうだから。
	40代	女性	仲間とのつながりは認知症になる前から自分でつながっておかないといけないと思う。
	50代	男性	具体的な情報がないので、そのように楽観的に考えられない。

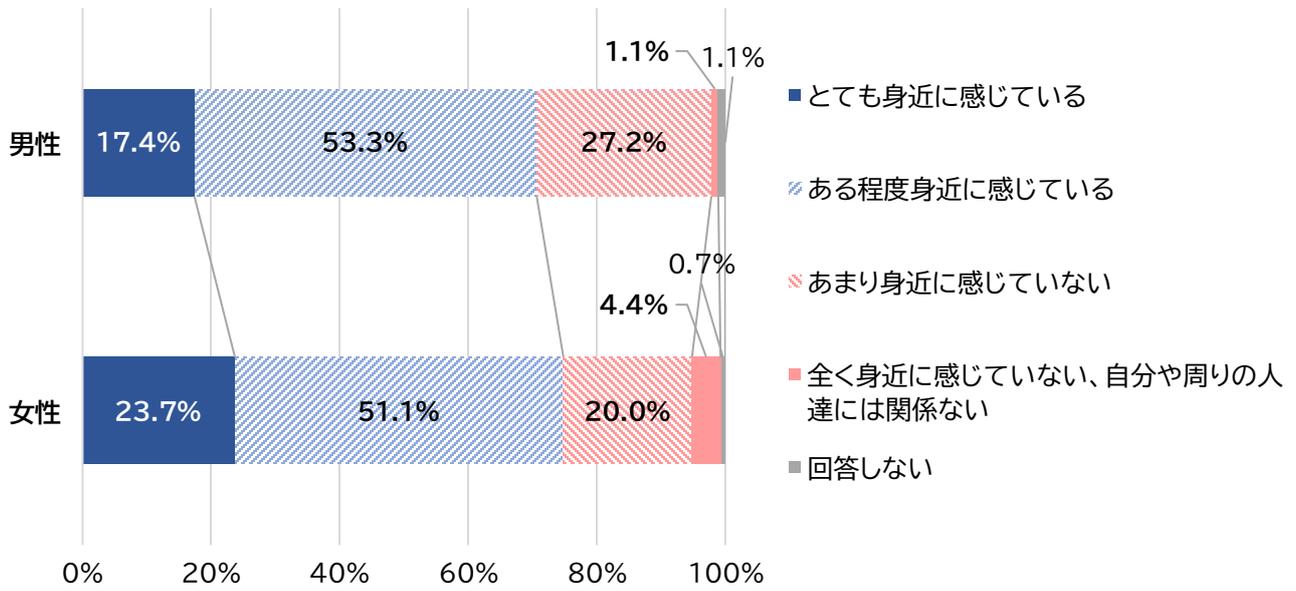
このカテゴリは、他のカテゴリに分類されなかった回答をまとめたものです。認知症の進行を止めることへの期待や、「新しい認知症観」に到達するまでには時間がかかるといった意見等、様々な角度からの回答がありました。

設問④ 認知症をどれくらい身近に感じていますか。

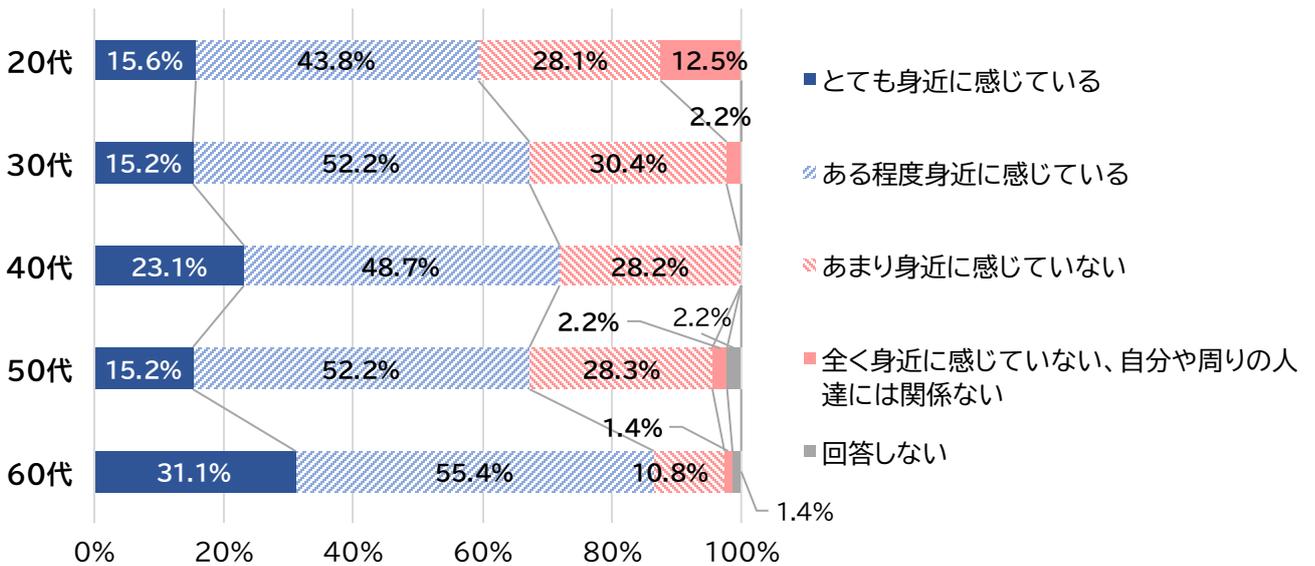
認知症をどれくらい身近なものと感じているかを尋ねたところ、「とても身近に感じている」と回答した人が55名(22.4%)、「ある程度身近に感じている」と回答した人が125名(51.0%)、「あまり身近に感じている」と回答した人が55名(22.4%)、「全く身近に感じている、自分や周りの人達に関係ない」と回答した人が7名(2.9%)となりました。「回答しない」を選択した人は3名(1.2%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

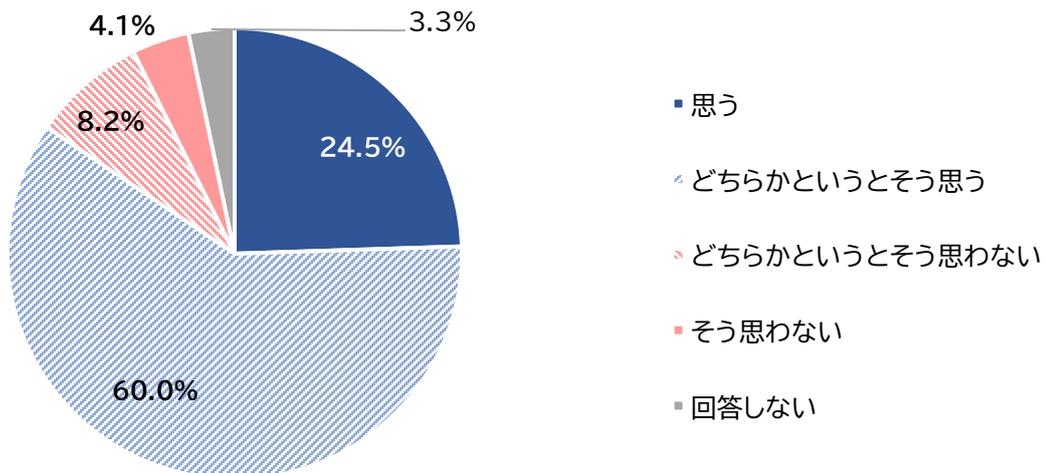


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

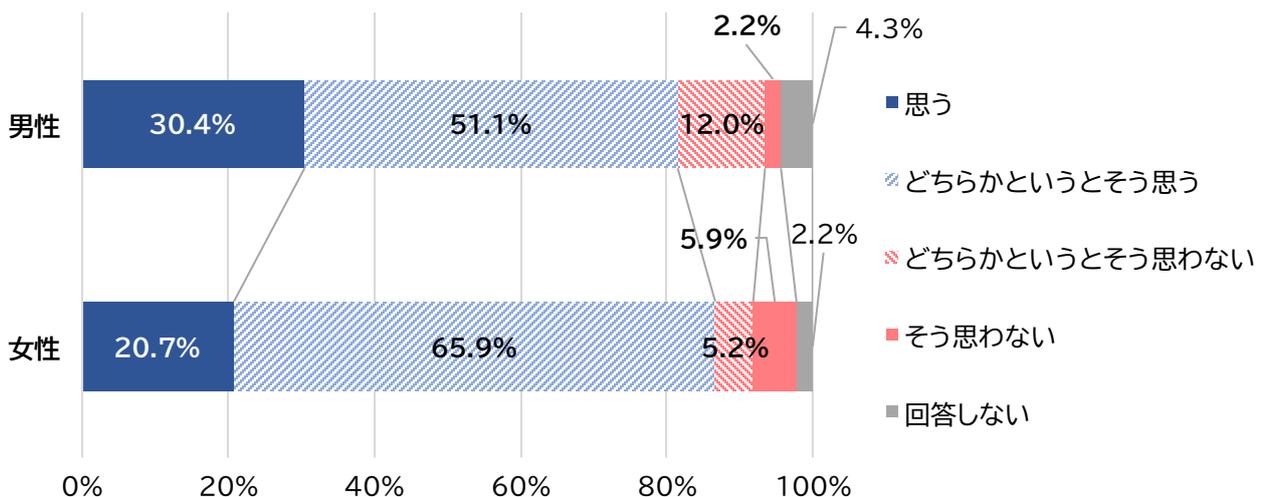


設問⑤ 認知症について知りたい、学びたいと思いますか。

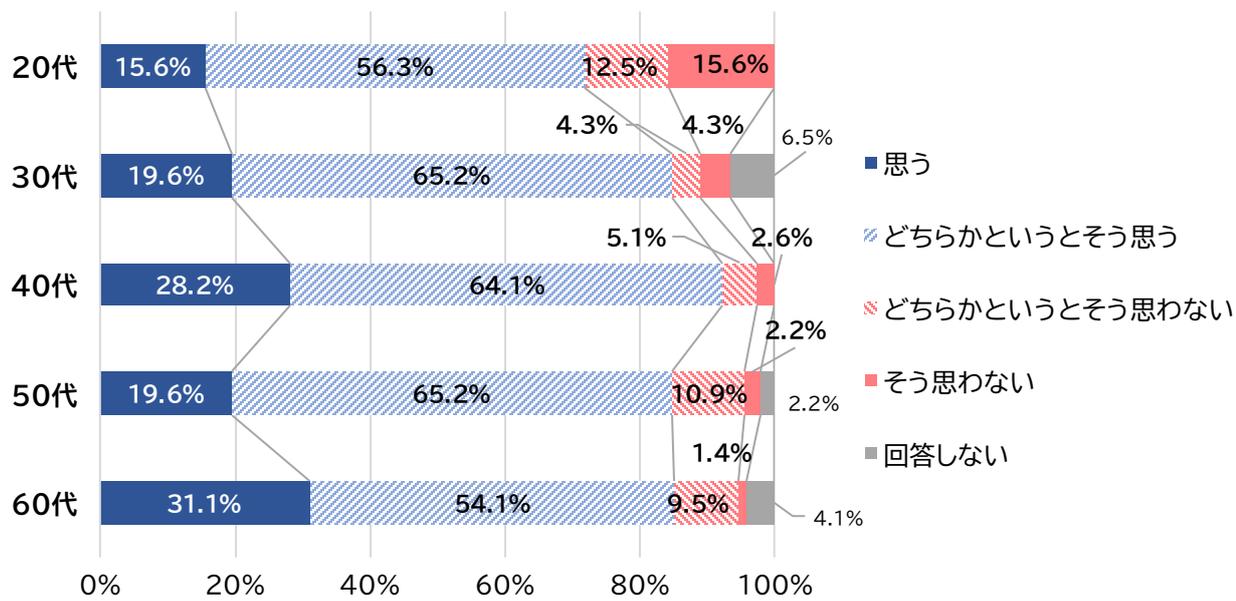
認知症について知りたい、学びたいかを尋ねたところ、「思う」と回答した人が60名(24.45%)と「どちらかというと思う」回答した人が147名(60.0%)、「どちらかというと思わない」と回答した人が20名(8.2%)、「そう思わない」と回答した人が10名(4.1%)となりました。「回答しない」を選択した人は8名(3.3%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

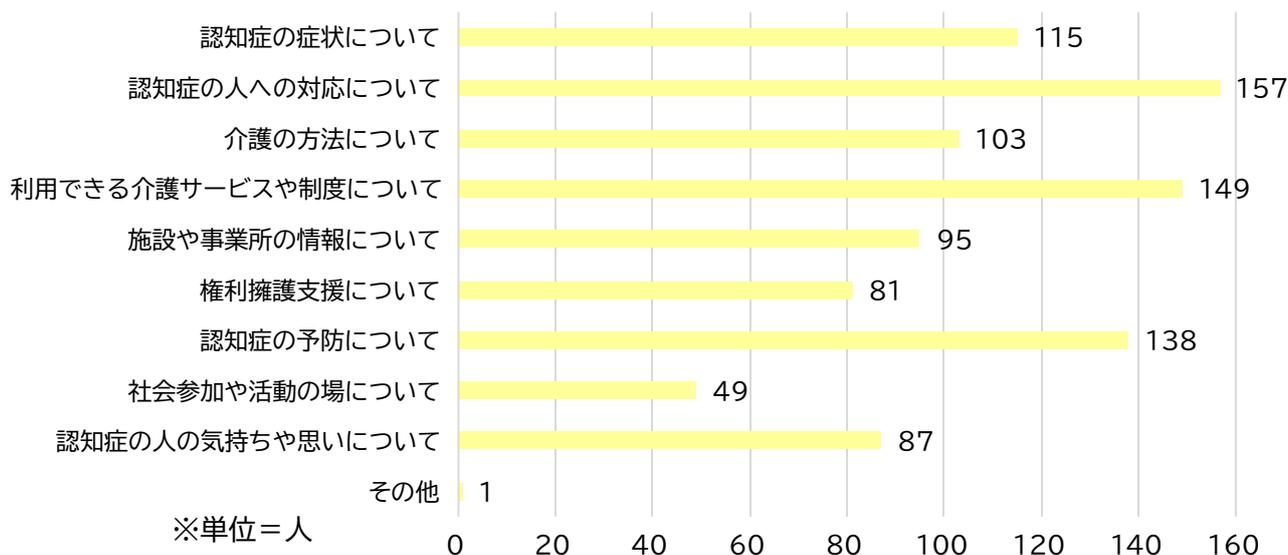


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



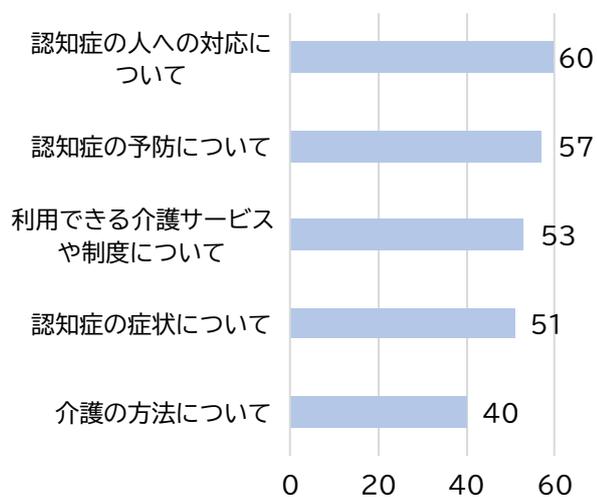
設問⑥ 上記(⑤)で「思う」・「どちらかというと思う」と回答された方にお尋ねします。認知症に関するどのようなことを知りたい、学びたいと思いますか。(複数選択可)

設問⑤で「思う」・「どちらかというと思う」と回答した計 207 名に、認知症についてどのような分野に関心があるかを複数選択可で尋ねたところ、「認知症の人への対応について」と回答した人が最も多く157名、続いて「利用できる介護サービスや制度について」と回答した人が149名、「認知症の予防について」と回答した人が138名となりました。「その他」と回答した人が1名となり、その内容は「町や県がどんな対応をとっているのか。」でした。

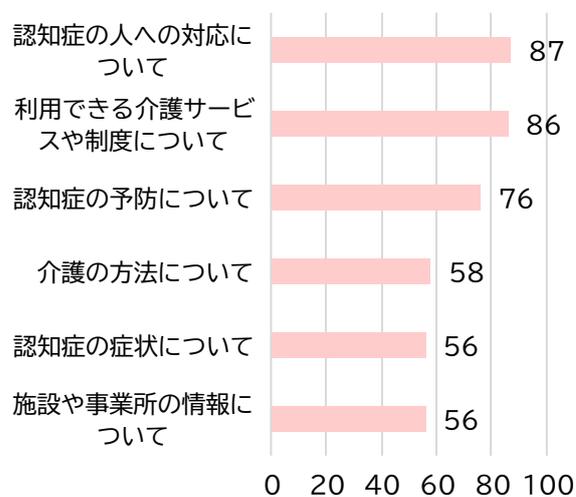


性別・年代ごとの集計結果(上位5項目)は下記のとおりです。

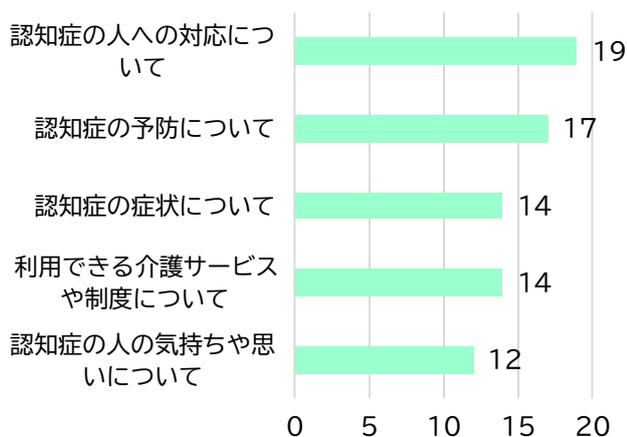
男性 上位5項目 計92名



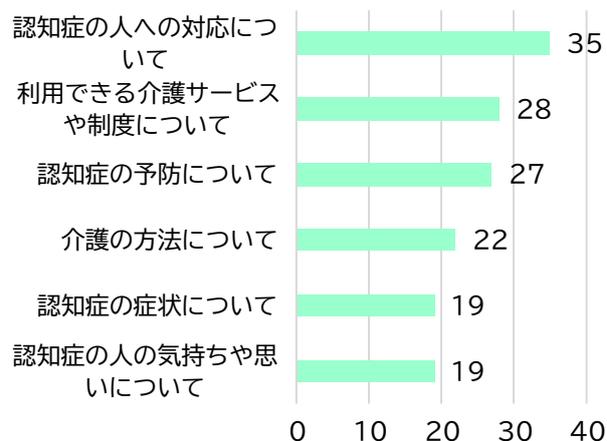
女性 上位5項目 計135名



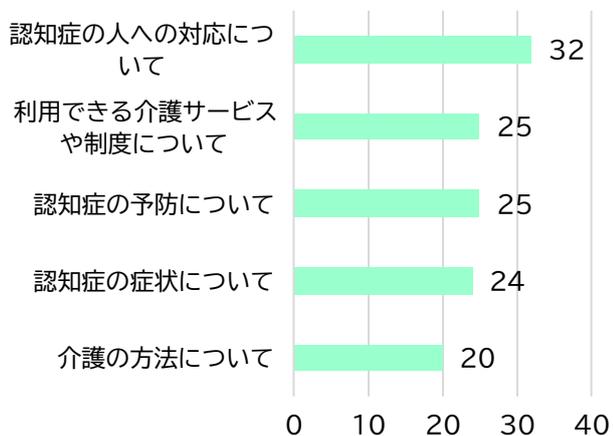
20代 上位5項目 計32名



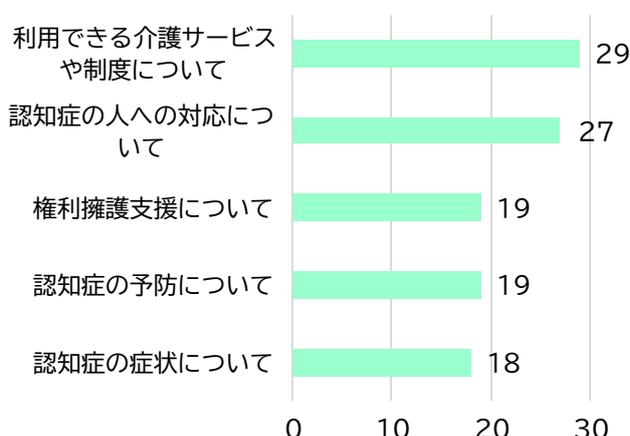
30代 上位5項目 計46名



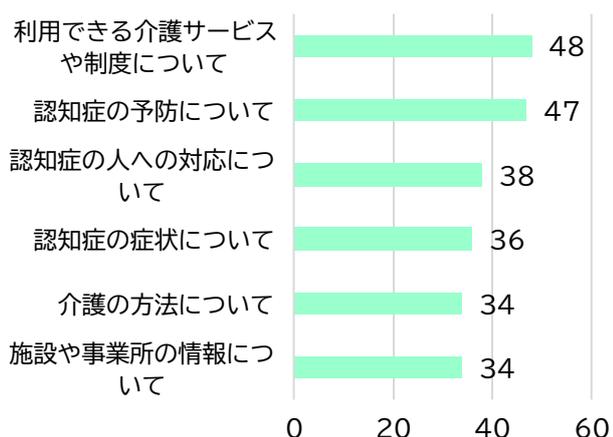
40代 上位5項目 計39名



50代 上位5項目 計46名



60代 上位5項目 計74名

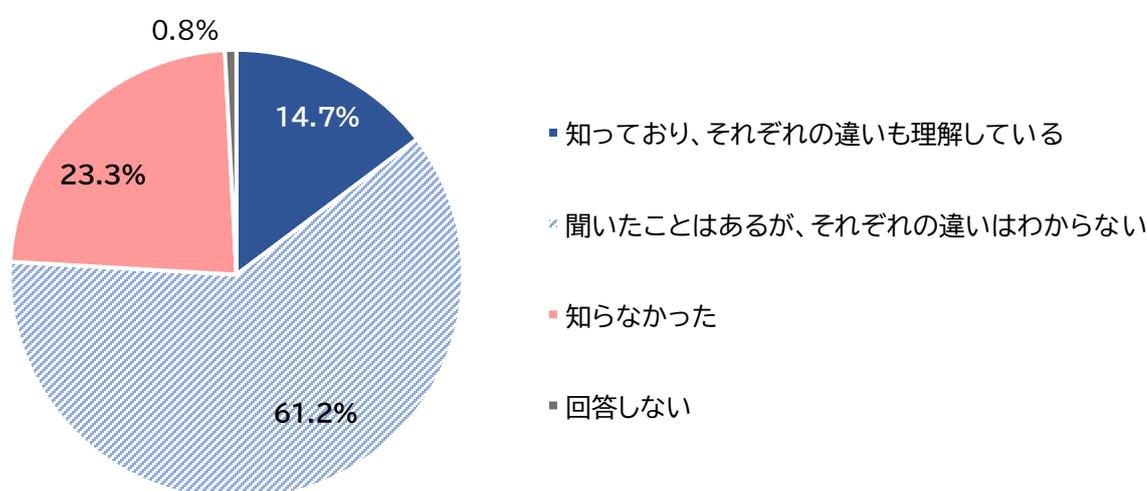


男性、女性、20代～40代ごとの集計で、「認知症の人への対応」の項目が最も多く、50代、60代でも上位3位以内に入っていました。「認知症の予防について」についても、全ての分類で5位以内に入る形となりました（50代以外の分類では上位3位以内）。「利用できる介護サービスや制度について」も、全ての分類で5位以内に入り、そのうち50代・60代では1位と最も関心が高い項目となっていました。

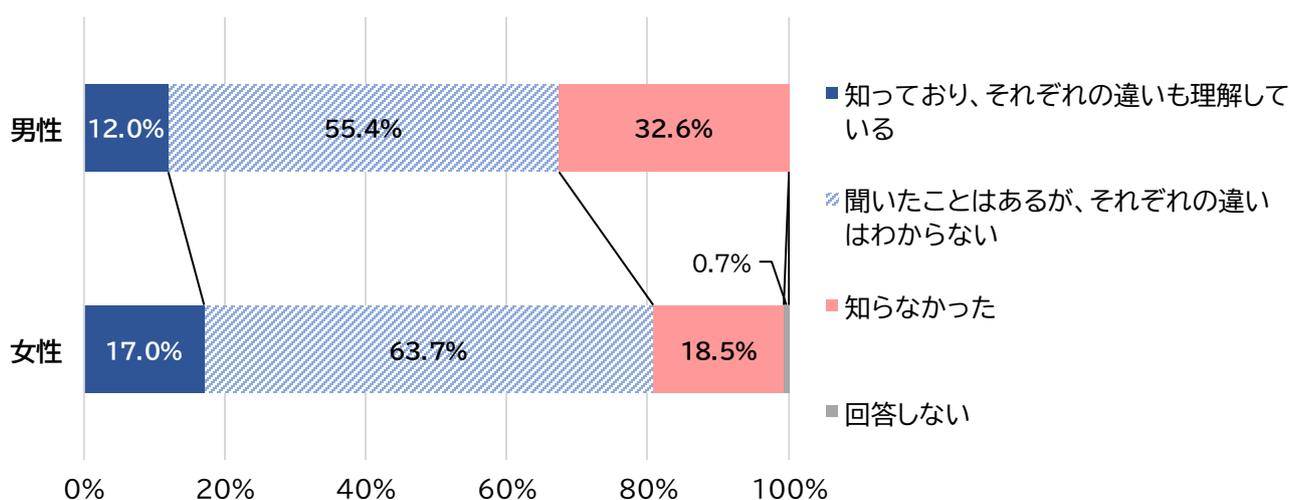
2. 認知症に関する知識について

設問⑦ 認知症には、「アルツハイマー型認知症」をはじめ、「脳血管性認知症」、「レビー小体型認知症」、「前頭側頭型認知症」といった、原因や症状が異なる複数の種類があることを知っていますか。

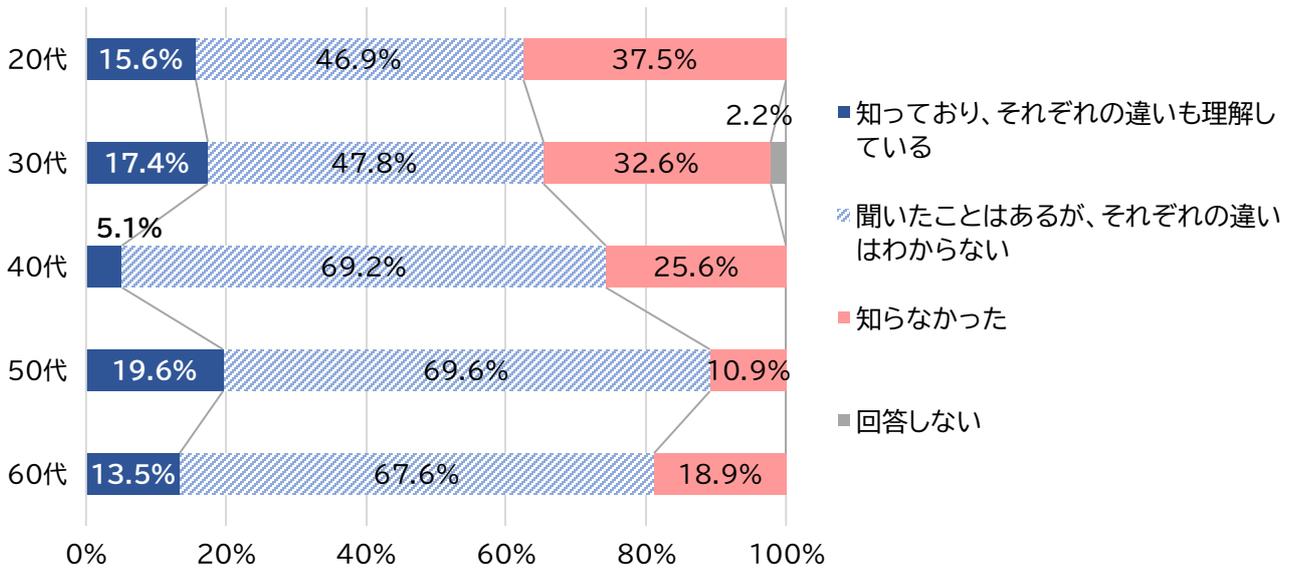
認知症には複数の種類があることを知っているかについて尋ねたところ、「知っており、それぞれの違いも理解している」と回答した人が 36 名(14.7%)、「聞いたことはあるが、それぞれの違いはわからない」と回答した人が 150 名(61.2%)、「知らなかった」と回答した人が 57 名(23.3%)でした。「回答しない」を選択した人は 2 名(0.8%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

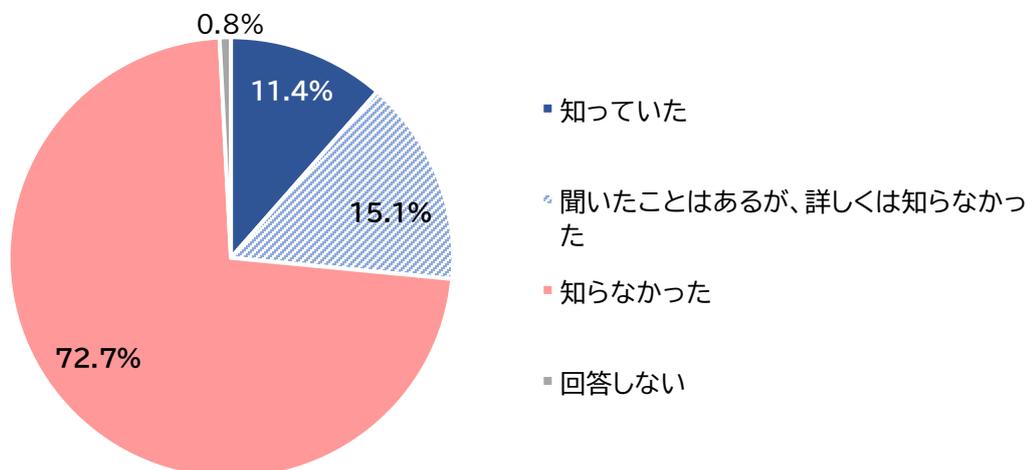


設問⑧ 認知症の症状は、「中核症状^{※3}」と「行動・心理症状(BPSD)^{※4}」の2種類があることを知っていましたか。

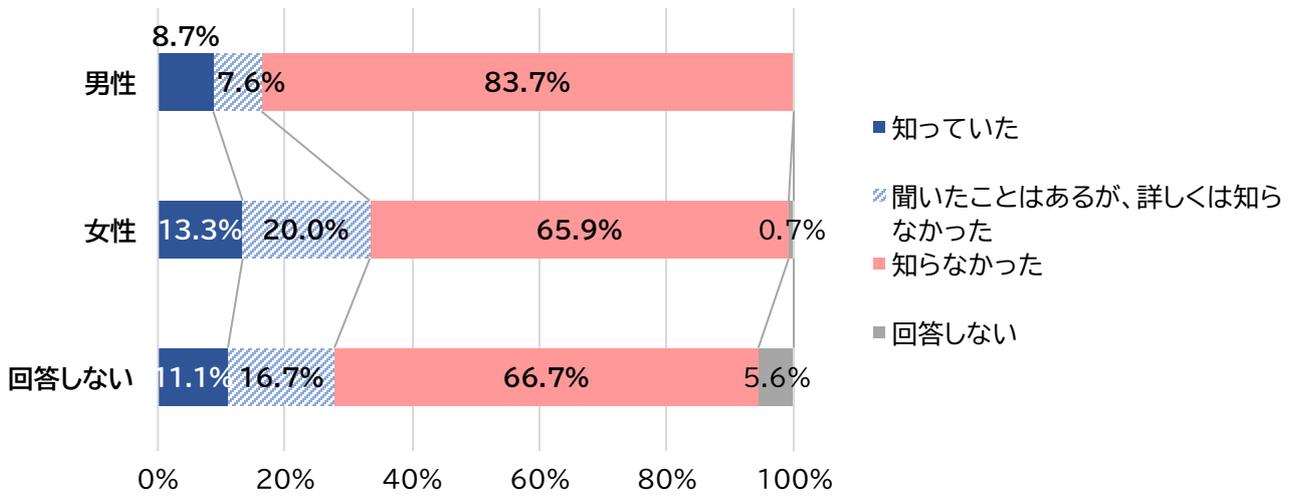
※³ 中核症状:脳細胞が壊れることによって働きが悪くなった結果、直接起こる症状。もの忘れ等の記憶障害、見当識障害(時間や場所が分からなくなる)、理解・判断力の低下など。

※⁴ 行動・診療症状:何らかの体調不良や、不適切な介護や環境、介護者の介護ストレスなど様々な原因が複雑に絡みあうことで、本人の不安や心身のストレスがたまり起こる症状。暴言・暴力、うつ状態・不安、幻覚、妄想、ひとり歩きなど。

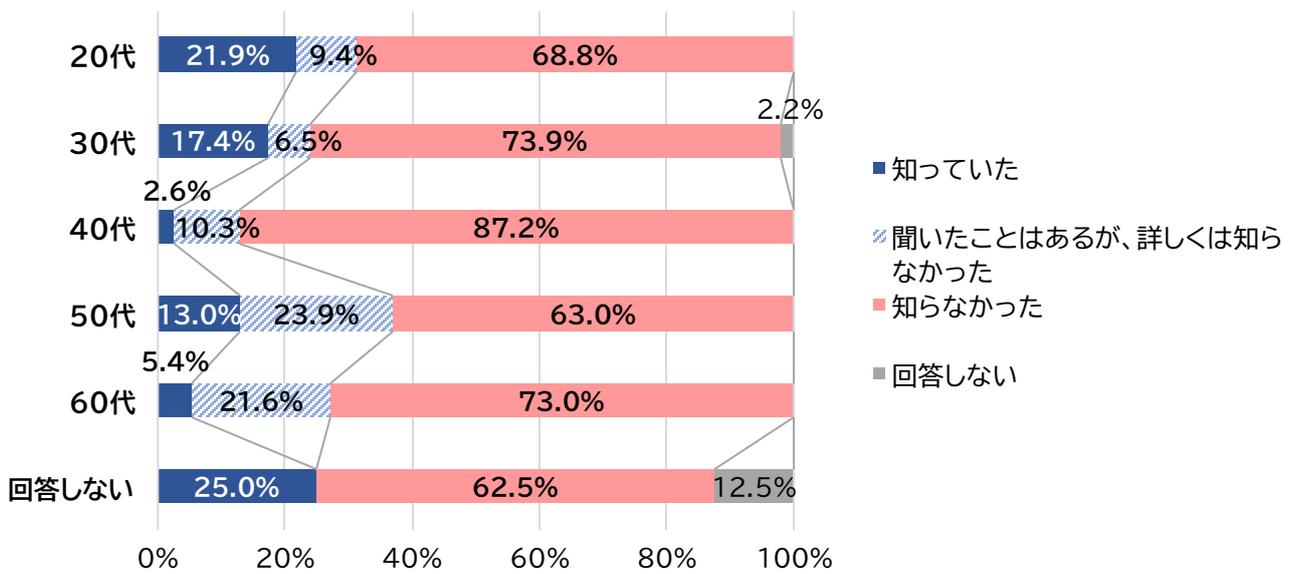
認知症の症状は、「中核症状」と「行動・心理症状(BPSD)」の2種類があることを知っているかを尋ねたところ、「知っていた」と回答した人が **28 名(11.4%)**、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」と回答した人が **37 名(15.1%)**、「知らなかった」と回答した人が **178 名(72.7%)**でした。「回答しない」を選択した人は **2 名(0.8%)**でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



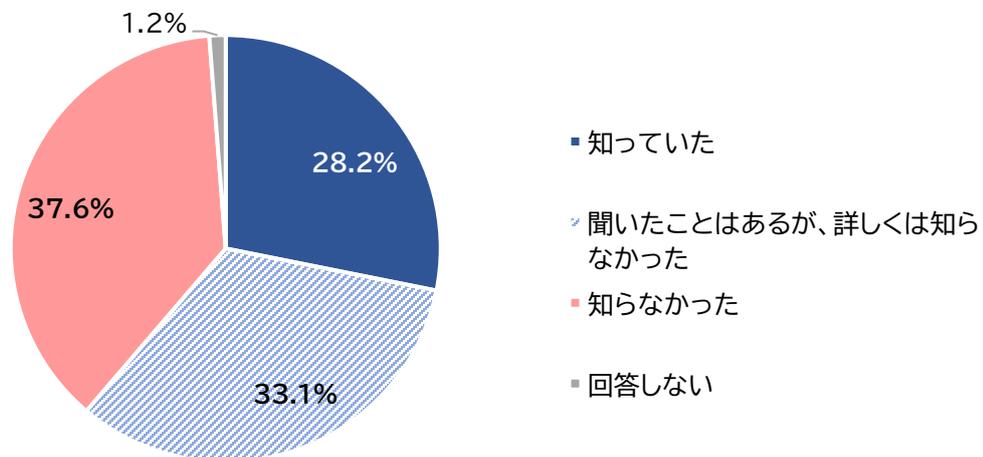
年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



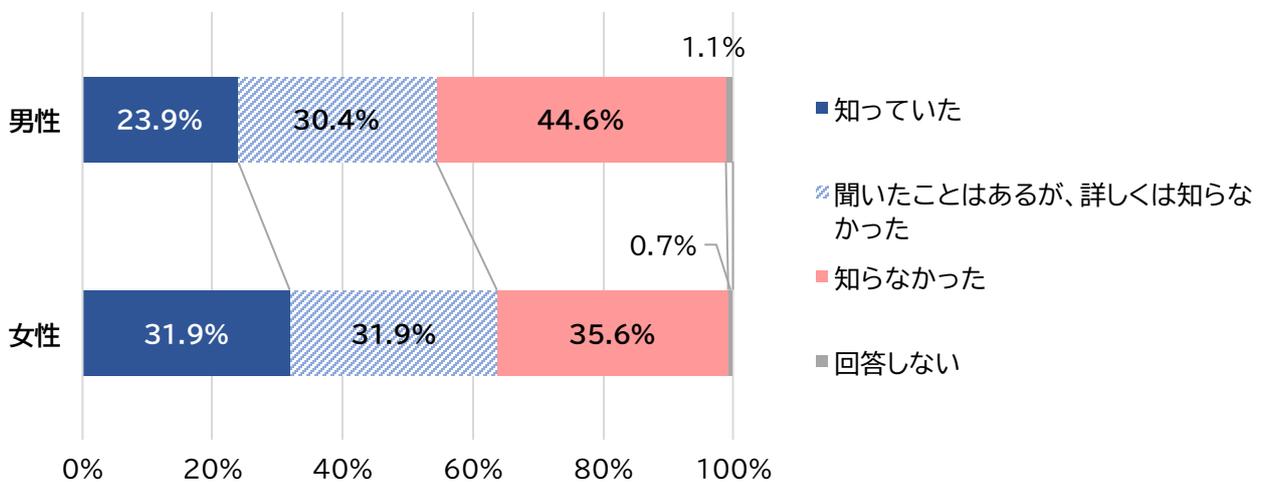
設問⑨ 認知症の発症には、「高血圧」「糖尿病」「脂質異常症」等の生活習慣や病気が深く関係しており、脳に刺激を与える活動的な生活を心がけ、生活習慣病を予防すること^{※5}が大切であるとされていることを知っていましたか。

※5 生活習慣病の予防に効果的なこと：ウォーキングや体操などの有酸素運動、栄養バランスのとれた食事、健康診断を受けること（年1回以上）・かかりつけ医を持つこと、適量の飲酒、禁煙、歯磨きなどの口腔ケアをきちんと行うことなど

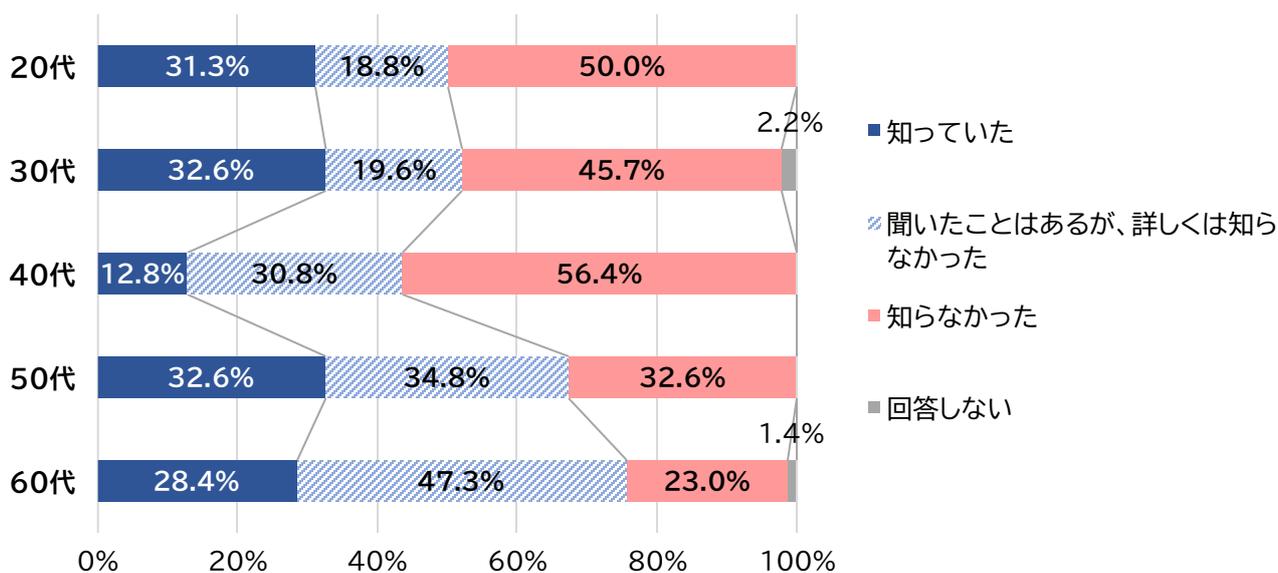
認知症の発症と、生活習慣病との関連について知っているかを尋ねたところ、「知っていた」と回答した人が69名(28.2%)、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」と回答した人が81名(33.1%)、「知らなかった」と回答した人が92名(37.6%)でした。「回答しない」を選択した人は3名(1.2%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

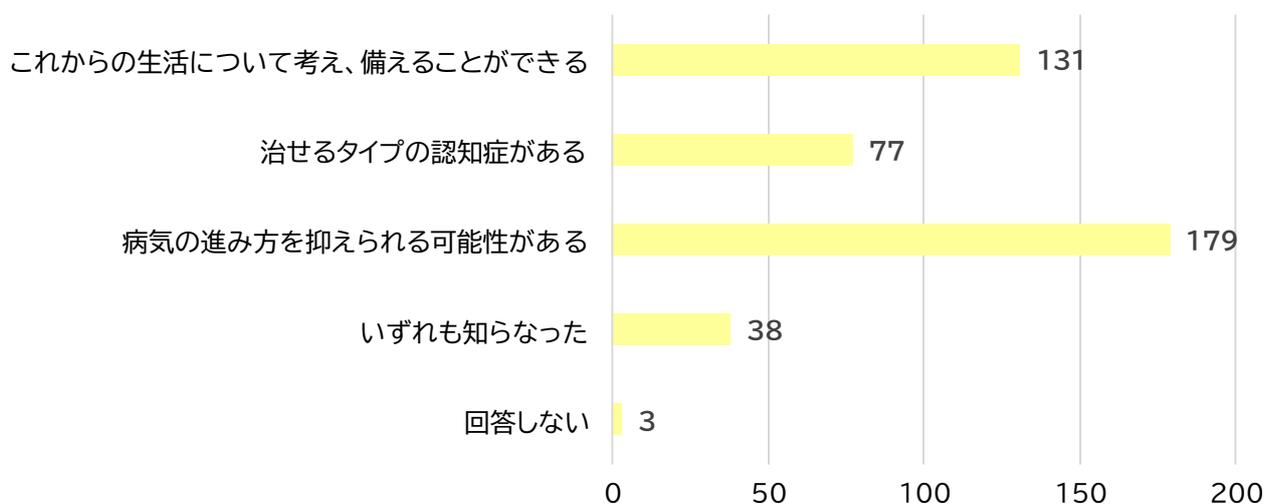


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



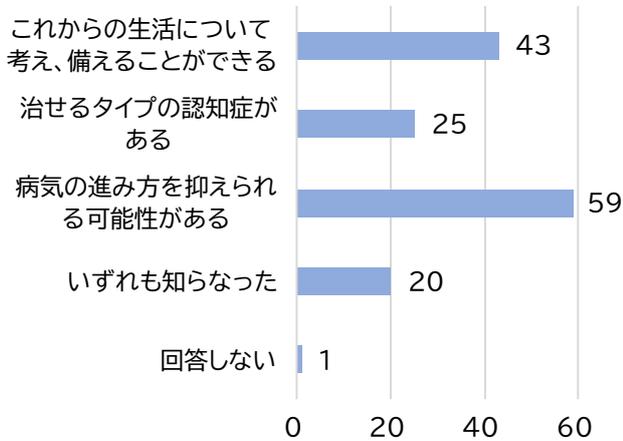
設問⑩ 認知症は他の病気と同様、早期診断と早期対応が大切な病気です。早期発見により、以下のメリットがあるとされていますが、知っていたことを教えてください。（複数選択可）

認知症を早期発見することのメリットについて知っていることについて尋ねました。「これからの生活について考え、備えることができる」を知っていたと回答した人は**131名(53.5%)**、「治せるタイプの認知症がある」と回答した人は**77名(31.4%)**、「病気の進み方を抑えられる可能性がある」と回答した人は**179名(73.1%)**、「いずれも知らなかった」と回答した人は**38名(15.5%)**となりました。「回答しない」を選択した人は**3名(1.2%)**でした。

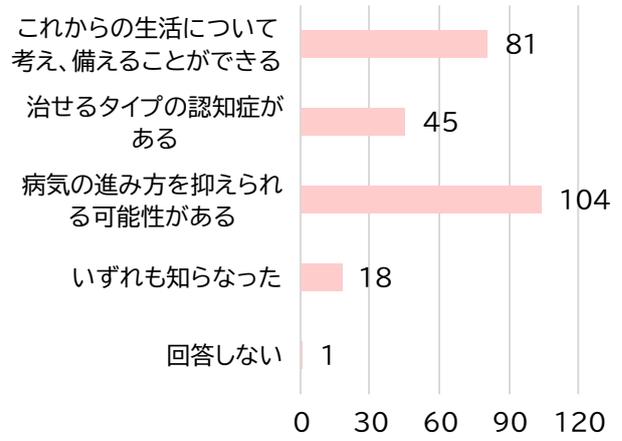


性別、年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

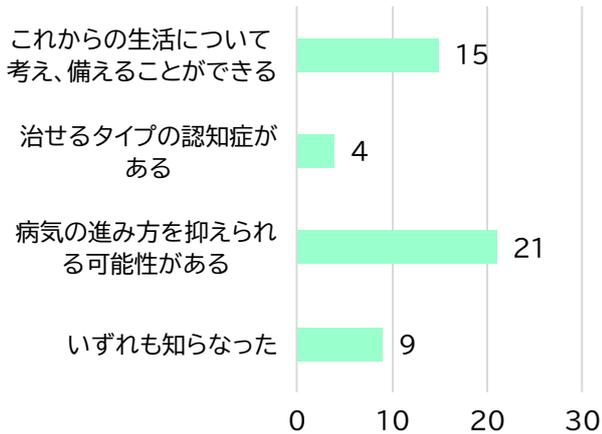
男性 計92名



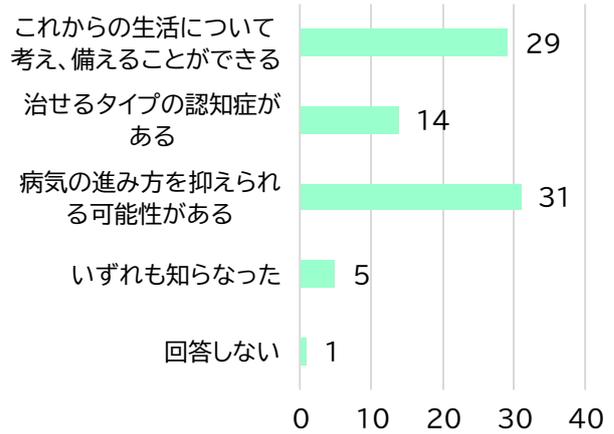
女性 計135名



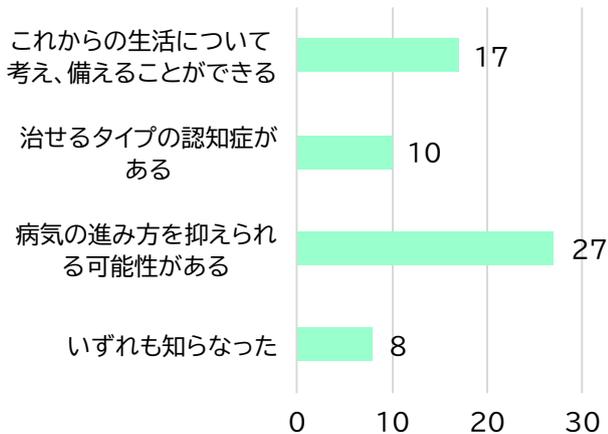
20代 計32名



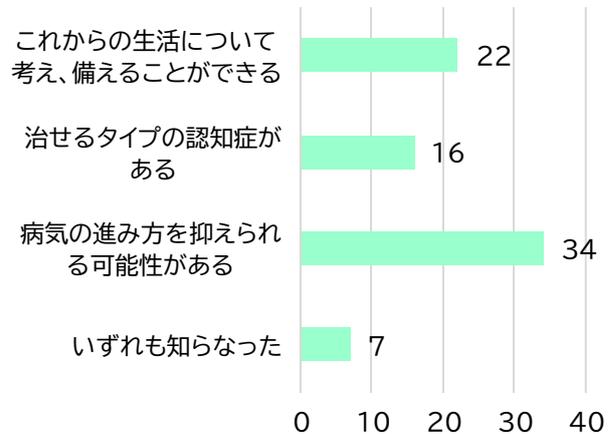
30代 計46名



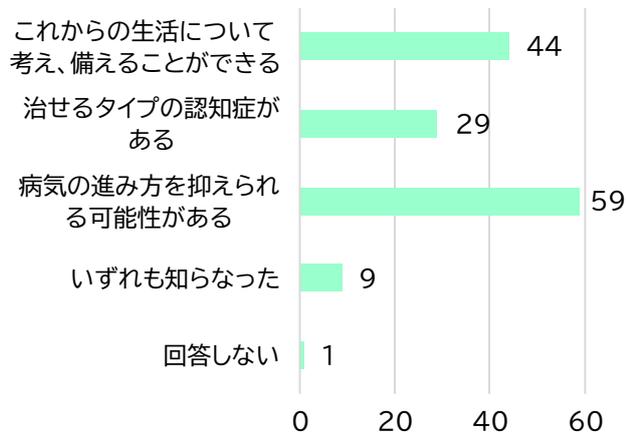
40代 計39名



50代 計46名



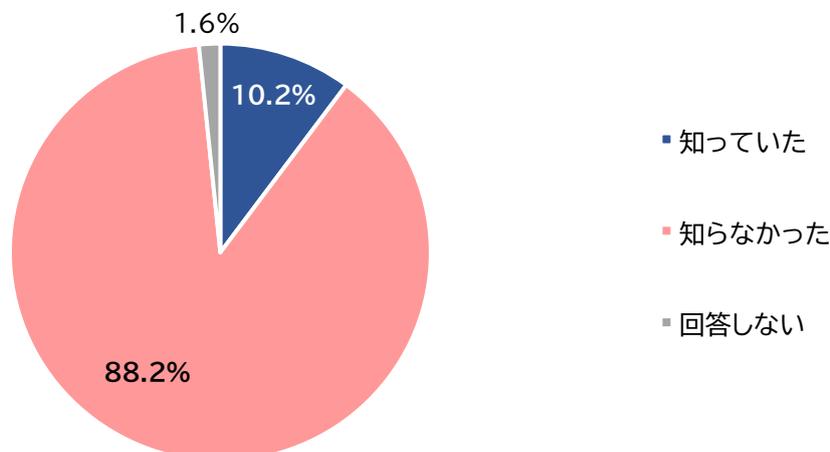
60代 計74名



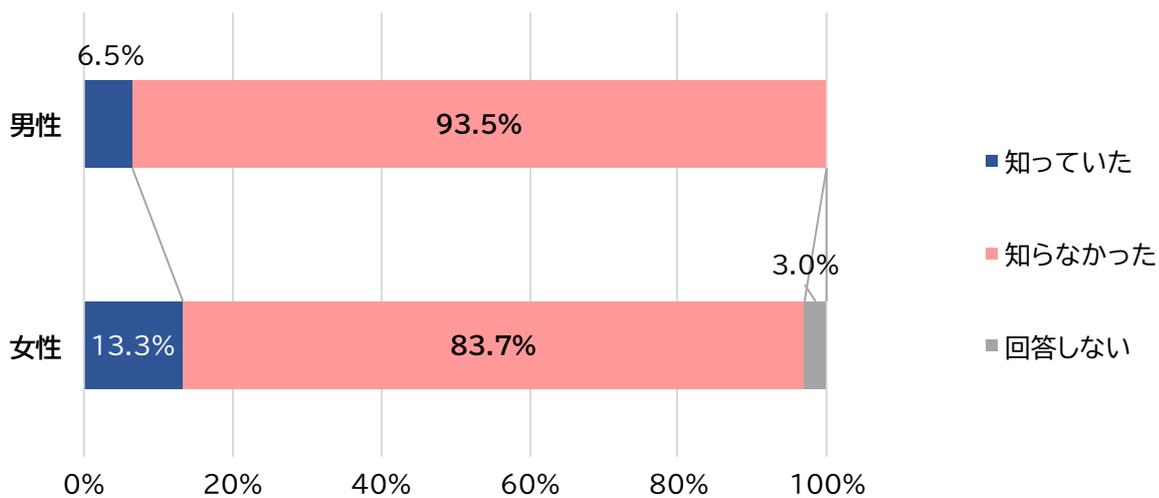
全ての分類において、「病気の進み方を抑えられる可能性がある」というメリットを知っていたと回答した人は、全体の半数を超える形となりました。また、「これからの生活について考え、備えることができる」を回答した人は、女性、30代、60代の分類で半数を超えました。一方、「治せるタイプの認知症がある(正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症など)」については、どの区分においても半数を下回る結果となりました。

設問⑪ 日本における認知症支援に関するシンボルカラーはオレンジ色であることを知っていましたか。

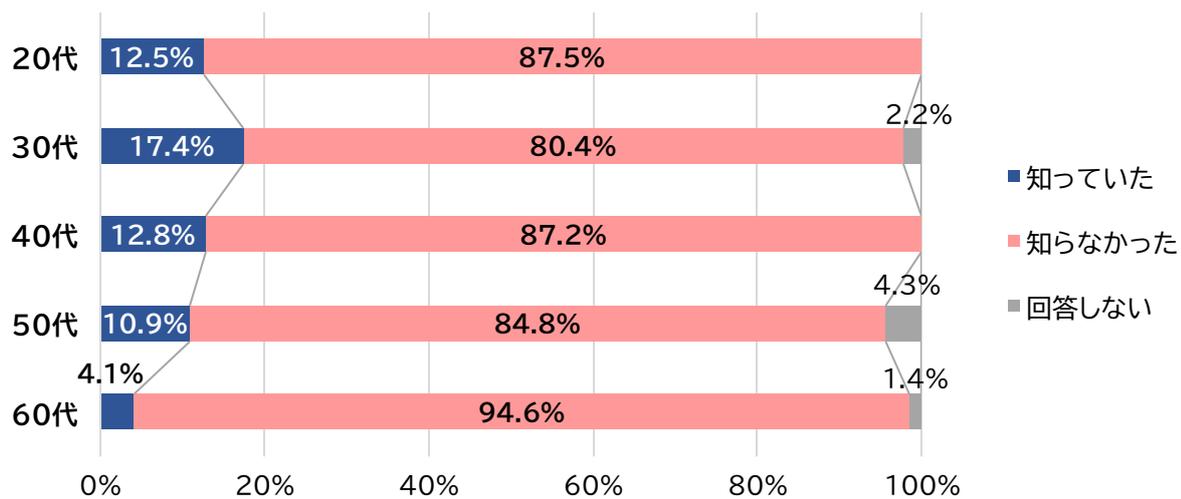
オレンジ色が日本における認知症支援に関するシンボルカラーであることを知っているかを尋ねたところ、「知っていた」と回答した人が25名(10.2%)、「知らなかった」と回答した人が216名(88.2%)となりました。「回答しない」を選択した人は4名(1.6%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



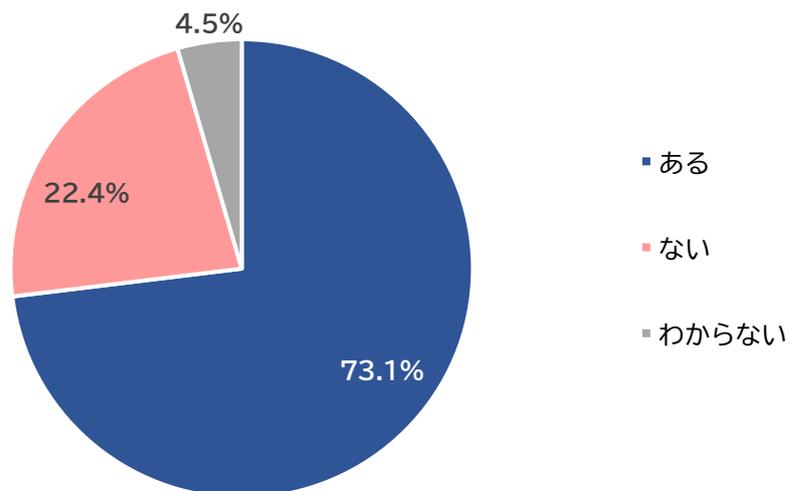
年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



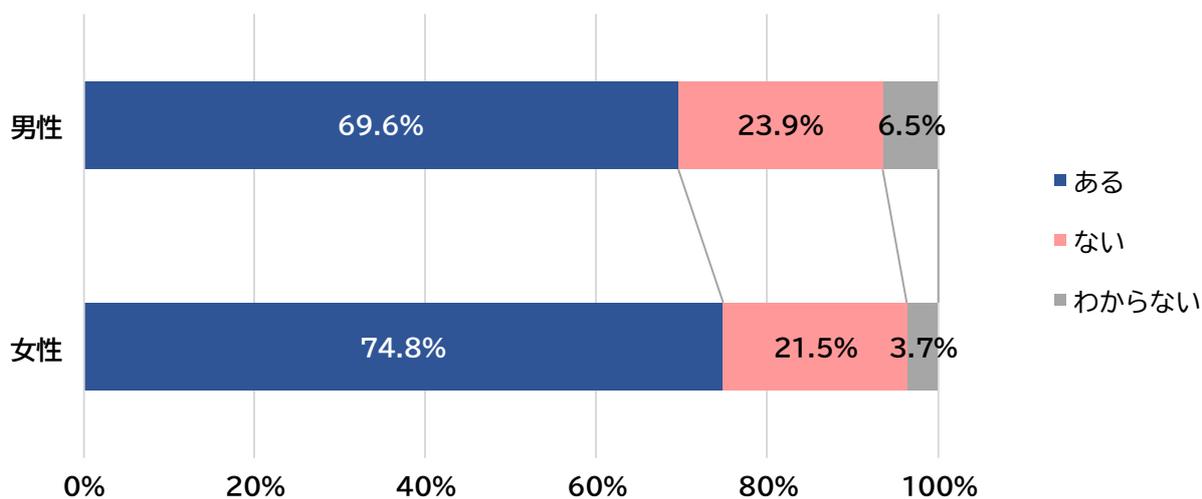
3.認知症の人と関わった経験や接点について

設問⑫ あなたは今までに認知症の人もしくは認知症と思われる人と接したことがありますか。（注 ご自身が認知症であると診断されている場合は、「ある」を選択してください。）

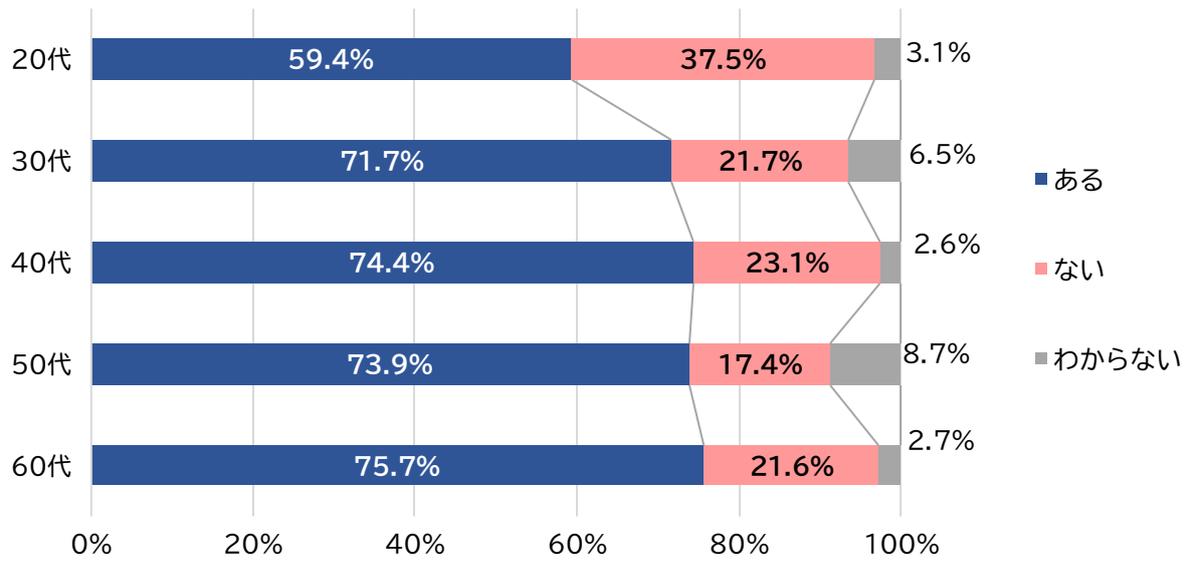
認知症の人と関わった機会の有無を尋ねたところ、「ある」と回答した人が 179 名(73.1%)、「ない」と回答した人が 55 名(22.4%)、「わからない」と回答した人が 11 名(4.5%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



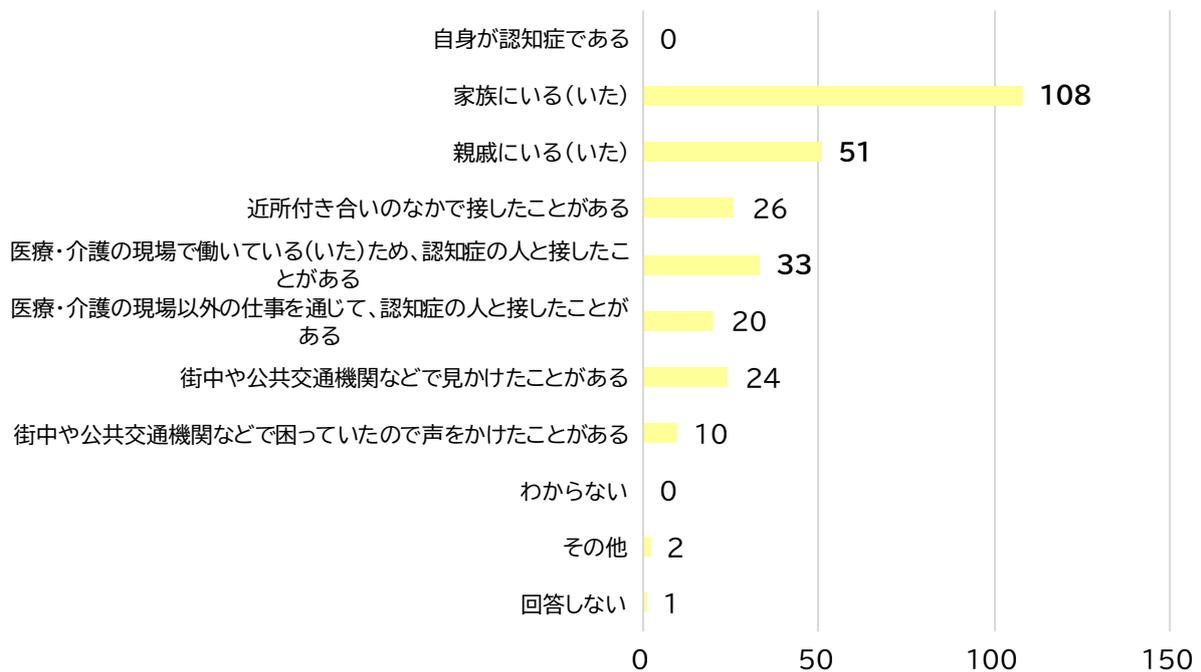
年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



設問⑬ 上記⑫で、「ある」と回答された方にお尋ねします。認知症の人もしくは認知症と思われる人と接したのはどのような場面や状況ですか。（複数選択可）

設問⑫で「ある」と回答した人に、具体的にどのような状況や場面であったのかを、複数選択で尋ねました。「家族にいる(いた)」と回答した人が最も多く 130 名(当調査対象者全体の 53.1%)、次いで「親戚にいる(いた)」と回答した人が 73 名(当調査対象者全体の 29.7%)となりました。「その他」を選択した2名のうち、1名は「知り合い」という回答があり、もう1名は回答がありませんでした。

全体 計179名



性別、年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

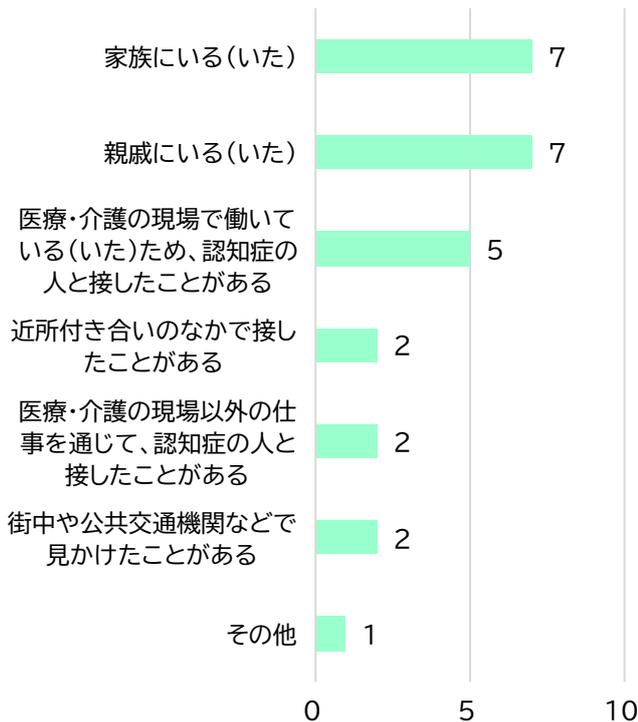
男性 計64名



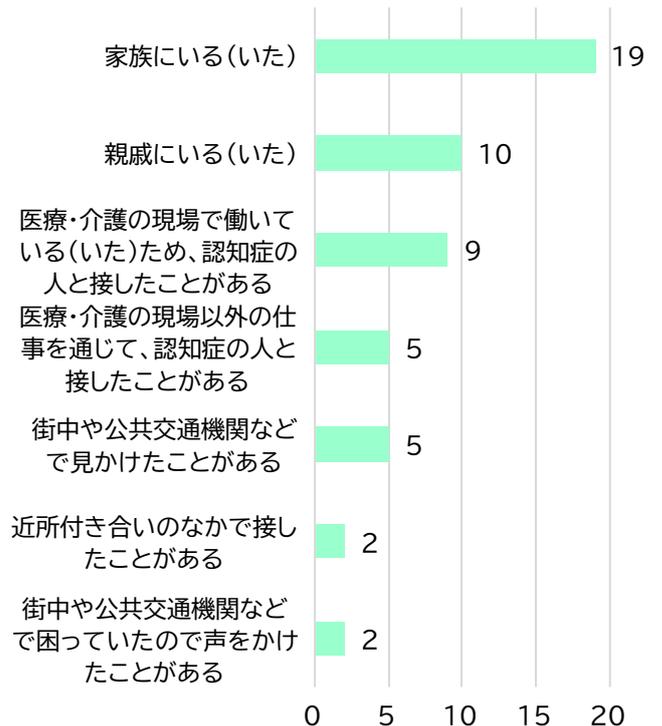
女性 計101名



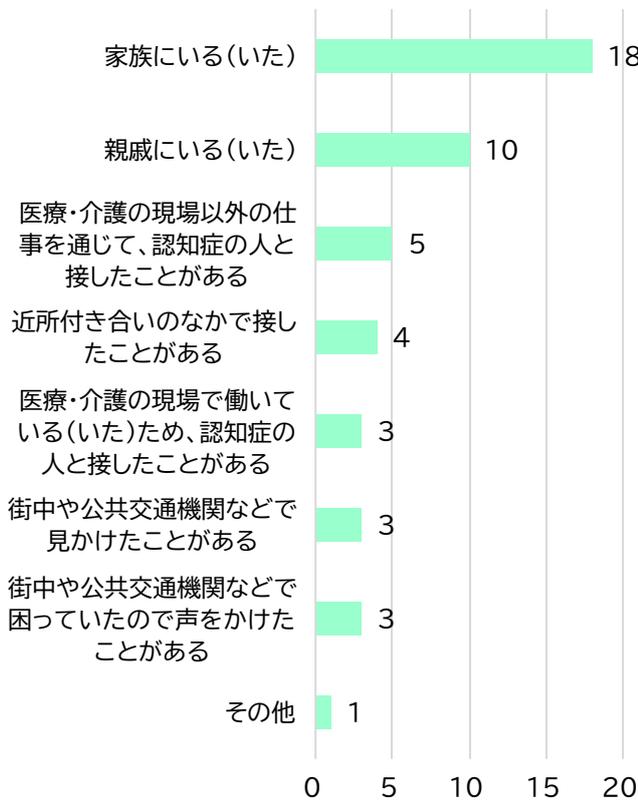
20代 計19名



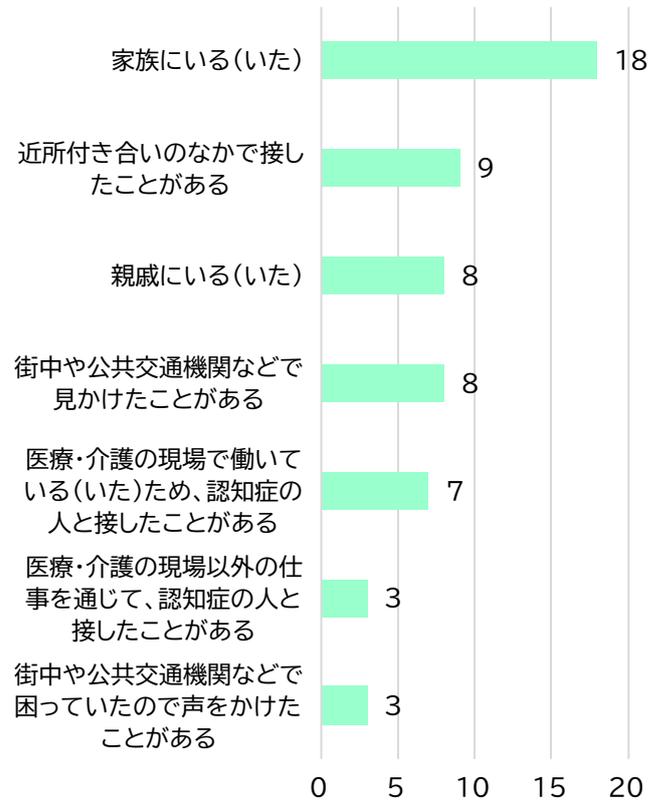
30代 計33名



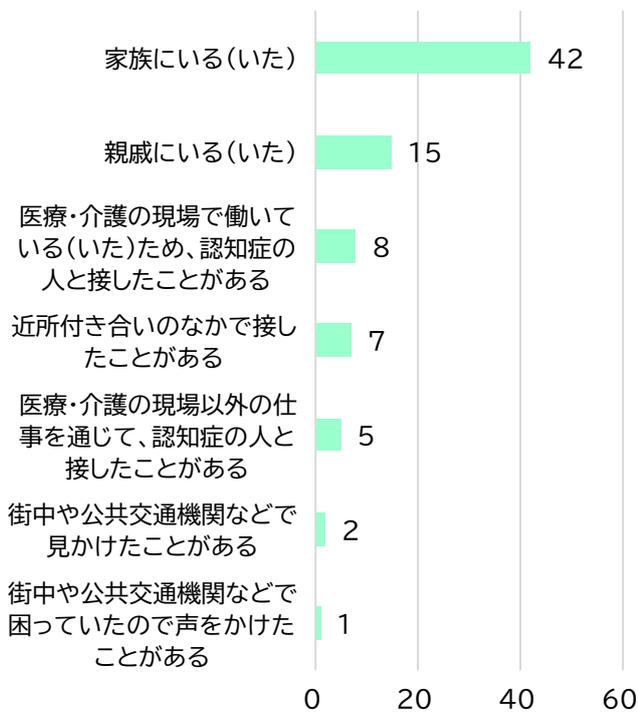
40代 計29名



50代 計34名



60代 計56名

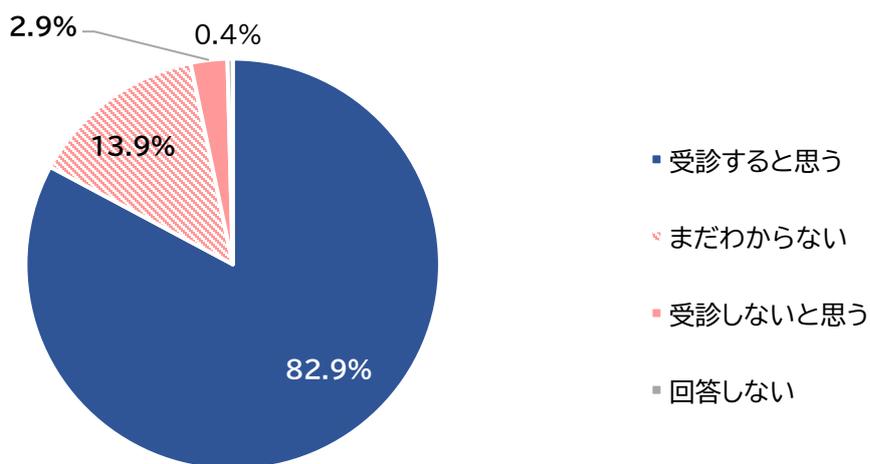


性別、年代ごとの結果でも、全ての分類において「家族にいる(いた)」が最も多くなりました。「親戚にいる(いた)」は50代を除く全ての区分で2番目に多く、各分類で全体の集計と同様の傾向が見られました。

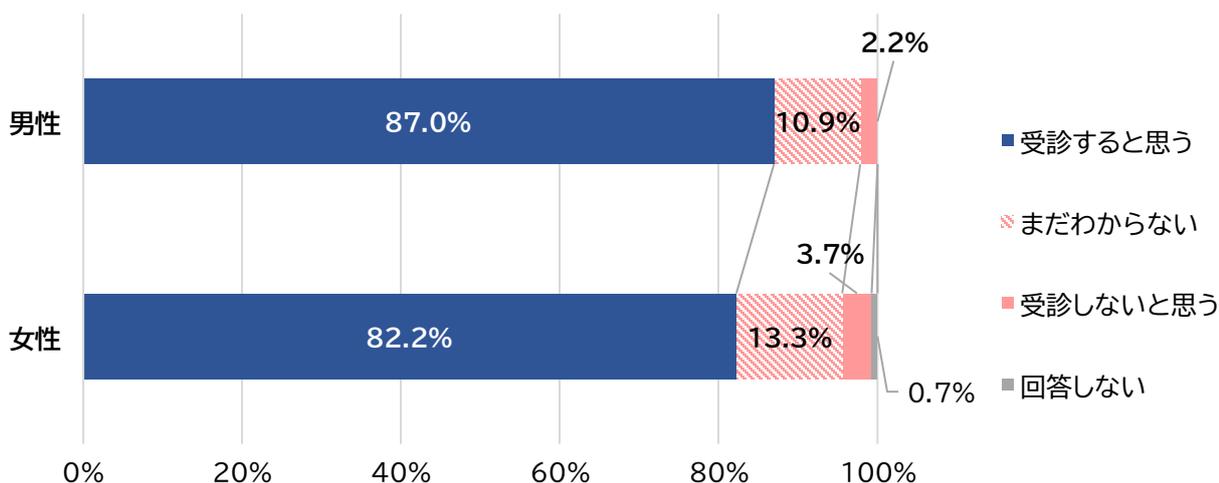
4. 自分や身近な人が認知症になったら

設問⑭ もしあなたが、自分のことを「認知症かもしれない」と思ったり、周りの人から受診を勧められたら、医療機関を受診すると思いますか。

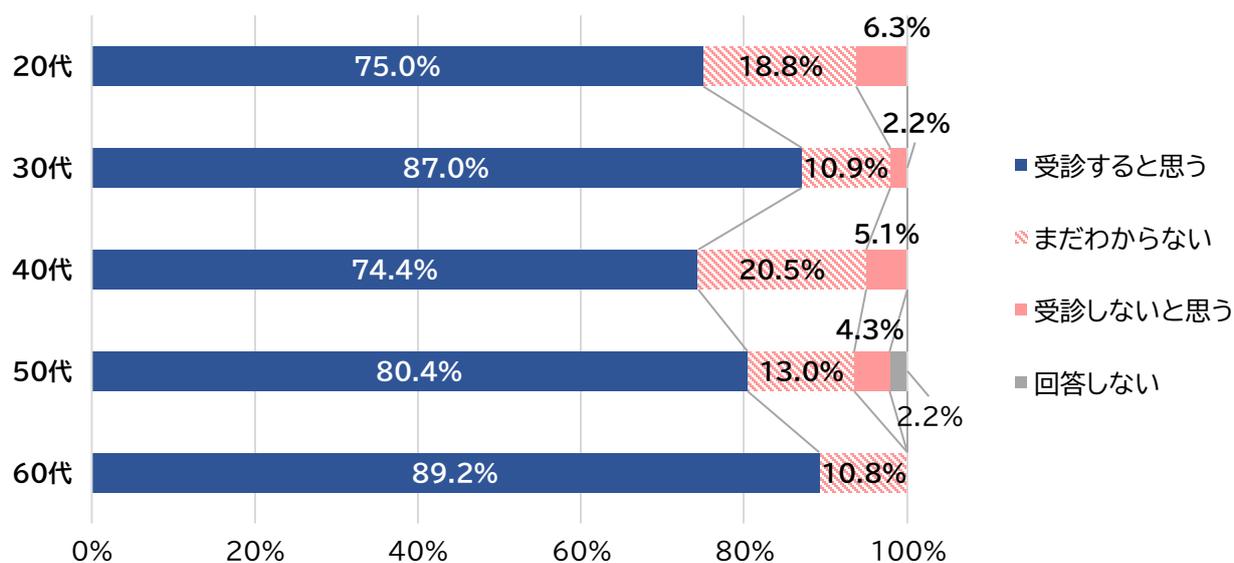
自分が「認知症かもしれない」という状況になったとき、医療機関を受診するかどうかを尋ねました。「受診すると思う」と答えた人が 203 名(82.9%)、「まだわからない」と答えた人が 34(13.9%)名、「受診しないと思う」と答えた人が7名(2.9%)となりました。「回答しない」を選択した人は1名(0.4%)でした。



性別ごとの集計結果は下記の表のとおりです。



年代ごとの集計結果は下記の表のとおりです。



設問⑮ 上記(⑭)の回答の理由を教えてください。(自由記述)

設問⑭の回答の利用を自由記述で、尋ねたところ、156名から回答がありました。

いくつかの回答を抜粋して掲載します。

※年代、性別で「回答しない」を選択されている方は、「-」と表記しています。

■設問⑭で「受診すると思う」と答えた主な理由(回答数:134)

年代	性別	回答
50代	女性	できるだけ家族に迷惑をかけたくないので、早めに受診したい。
-	-	自分が認知症かも？と思うのは難しいと思います。でも、家族にもし私が認知症かもしれないと思ったら医療機関へ行かせてほしいとお願いしておきます。
50代	女性	早期に発見されれば、自分や家族が症状や今後の生活に対し備えることができるから。
30代	男性	認知症になるのは珍しいことではなく、自分もなる可能性があると思っているからです。
60代	男性	正確なことを知って早く対処したいから。
30代	女性	知らないまま苦しむより、診断を受けて対処した方が良いと思うので。
40代	女性	認知症であれば対策が必要だし、認知症でなければ安心できるから。
40代	-	早期の対策を行うことが、自分や家族のためになるだろうから。
40代	男性	専門家に話を聞かなければ、今後のことについて何の判断もできないから。

20代	女性	これから周囲へ掛けるであろう苦労や自身が感じるであろう苦痛を少しでも和らげるために受診すると思う。
50代	女性	自分の置かれた状況を知りたいと思う。状況を知ることにより、医療機関を通じて、対応策(介護支援など)など、人のサポートを受ける手段を得ることができると考える。
20代	女性	亡くなった祖父母が認知症だった。祖父は自身がいろいろ忘れていってしまうことには気付いていたようだが特に治療は受けておらず、いなくなってしまうと警察にお世話になったこともあった。祖母は祖父ほどではなかったし治療を受けていたが、体調を崩し入院した際に普段飲んでいる薬を持って来るよう病院から指示があったので家に探しに行ったところ、処方されている認知症の薬をほとんど飲んでいなかったことが発覚した。退院後施設に入るのも一筋縄ではいかなかった。そういう思い出があるので、自分が認知症の疑いがあれば早めに受診したい。
60代	女性	自覚がなくても、検診して検査する。
60代	男性	進行するのが嫌だから。今後の対応策を知りたいから。
50代	女性	薬で進行を抑えられる可能性があるし、家族にも知っておいてもらいたい。
40代	男性	自分の行動に自信が持てなくなり、何らかの対処をせねばならないと思うが、まずは現状を確認する必要があると思うだろうから。
50代	女性	受診することのメリットを知っているから。
30代	女性	少しでも早く受診することで、進行を遅らせることができるかもしれないから。
30代	女性	自分の状態を知ってくれている人が多いと助かるから。周りが勧めたり、違和感を抱くころには進行が進んでいると思うから。
20代	男性	がんのように、早期発見が大事であるため。
50代	男性	介護に関わってるので、認知症を発症している可能性があるのなら認知能力があるうちにできることをしておきたいからです。
20代	女性	早期受診により、治療を行ったりすることで、自分自身も周囲も困ることを減らせると思うから。
40代	男性	認知症であれば、家族や身近な人に迷惑をかけてしまう可能性が高いので。
40代	男性	有効な投薬処方や治療など、早めに受けたいと思うから。
30代	男性	自分の症状の原因がわかれば対処方法がわかるかもしれないから。自分でも気を付けられることもあるかもしれないし。
50代	女性	自分で自分の病気のことを理解したいから。
60代	女性	早期発見で可能な限り進行を防ぎたい。家族に悲しい思いをさせたくないため。
20代	女性	はっきり診断されたい。
30代	男性	早めの受診が病気の進行に良い影響を与えているから。何もわからず不安でいるより、わかったうえでその先の予定を立てたほうが安心できるから。

■設問⑭で「まだわからない」と答えた理由(回答数:17)

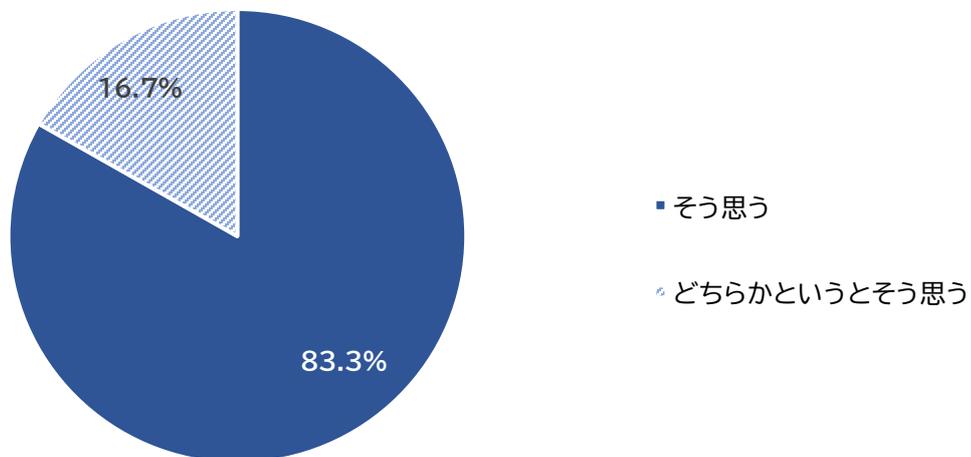
年代	性別	回答
20代	男性	冗談であるか、真剣な提案であるかはその時の会話の流れによるのでわからない。
50代	—	おそらく受診すると思うが、その時になってみないと自分の気持ちがどうなるのかわからないから。
30代	男性	病院に通うのが億劫な性格のため。
30代	女性	すぐには受け入れられないと思う。
40代	女性	認めるまで時間がかかりそう。
50代	男性	周りの人の勧めが誰かによる。受診するにも費用がかかるだろうし、診断結果によりどのような状況になり得るのかの備えも必要なので、ただ周りに言われただけでは、受診するかどうかわからない。
40代	女性	もしかしたら否定したいと思って受診をいやがるのかなと思った(そのような話を聞いた気がする)
40代	女性	大半の認知症の人が精神科に受診することになり、それに対して抵抗する人が多いように思う。
50代	女性	専門家でない人の意見は信用できないから。
40代	—	その時になってみないとわからないため。
40代	男性	今のところ実感がない。
40代	女性	怖い。
20代	女性	認知症だと診断されたら怖い。
60代	—	認知症を自覚することは難しいと思うので。
30代	男性	施設に入るための金がないし、ヘルパーなどに頼る金もない。生活で精一杯だから。
60代	男性	自分で自覚がなければ病院に行く機会がない。
60代	男性	認知症が自分で判断できるとは、思えない。

■設問⑭で「受診しないと思う」と答えた理由(回答数:5)

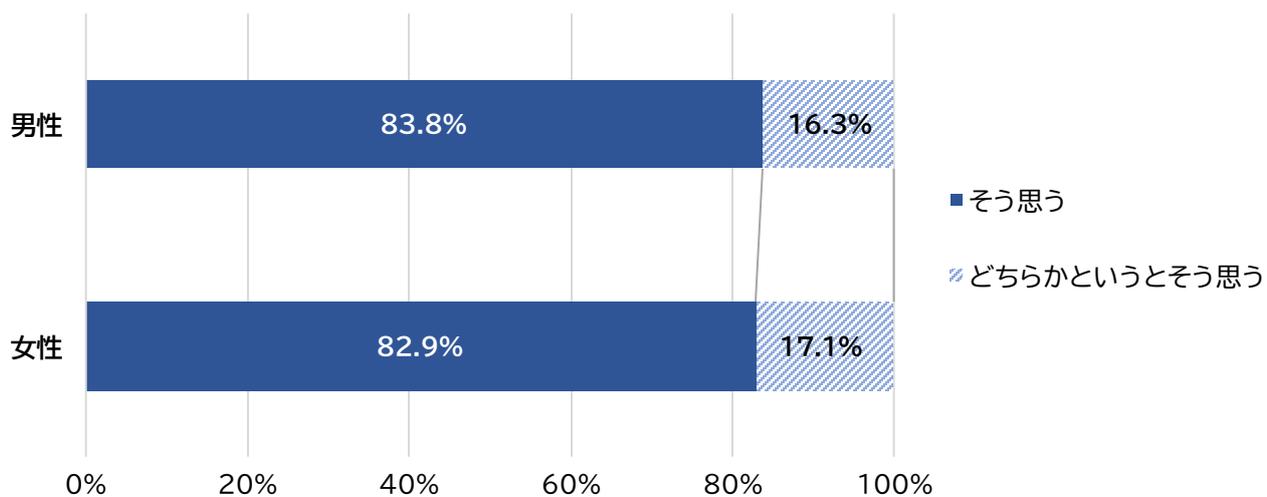
年代	性別	回答
50代	男性	自身で行くことは考えられない。
50代	女性	恥ずかしい。人に知られたくないから。
40代	女性	困ったことがなければ自分では行かないかもしれない
30代	女性	自分が認知症の疑いがあることを認められないと思うから。
40代	男性	認めたくないから、また、早期治療の、メリットをわかっていないから。

設問⑯ 上記(⑭)で「受診すると思う」と回答された方にお尋ねします。結果の告知を受けたいと思いますか。

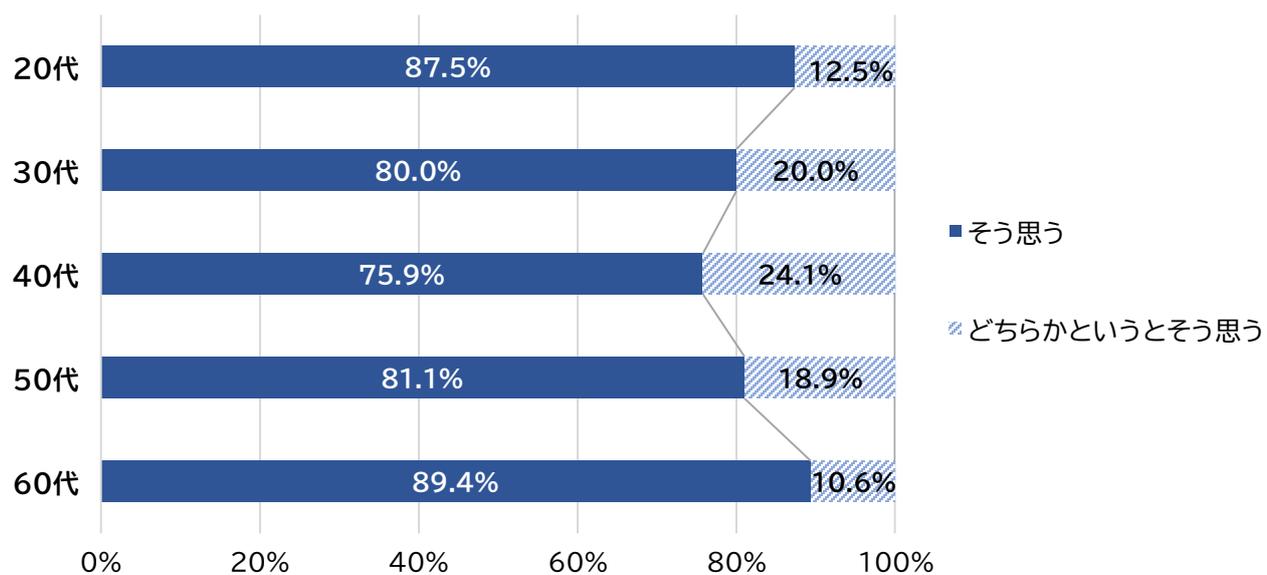
設問⑭で、「受診すると思う」と回答した人に対し、結果の告知を受けたいかを尋ねたところ、「そう思う」と回答した人が 169 名(83.3%)、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人が 34 名(16.7%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです

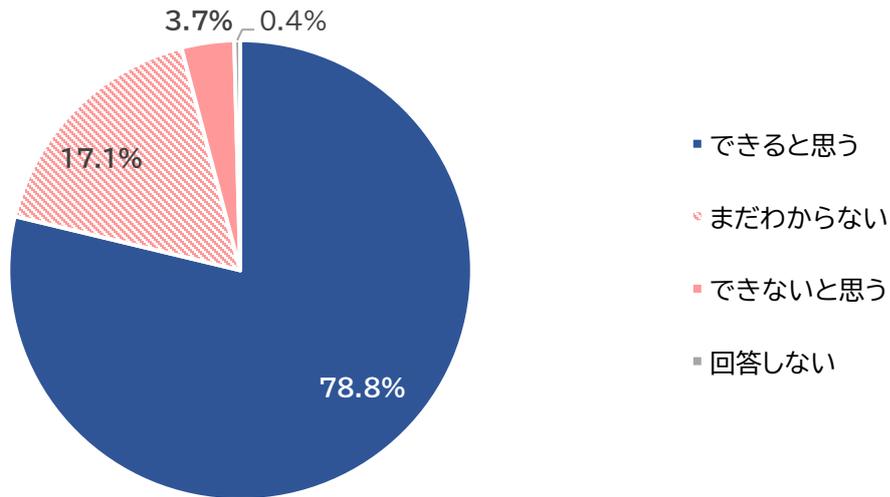


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです

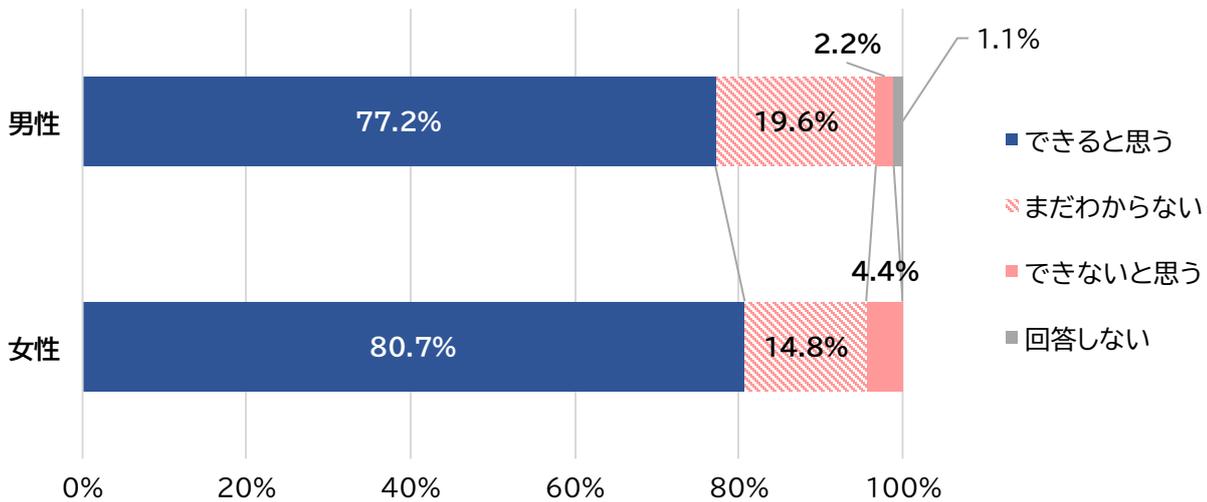


設問⑰ もし、あなたの家族や身近な人について、「認知症かもしれない」と思ったとき、あなたは医療機関への受診を勧めることができますか。

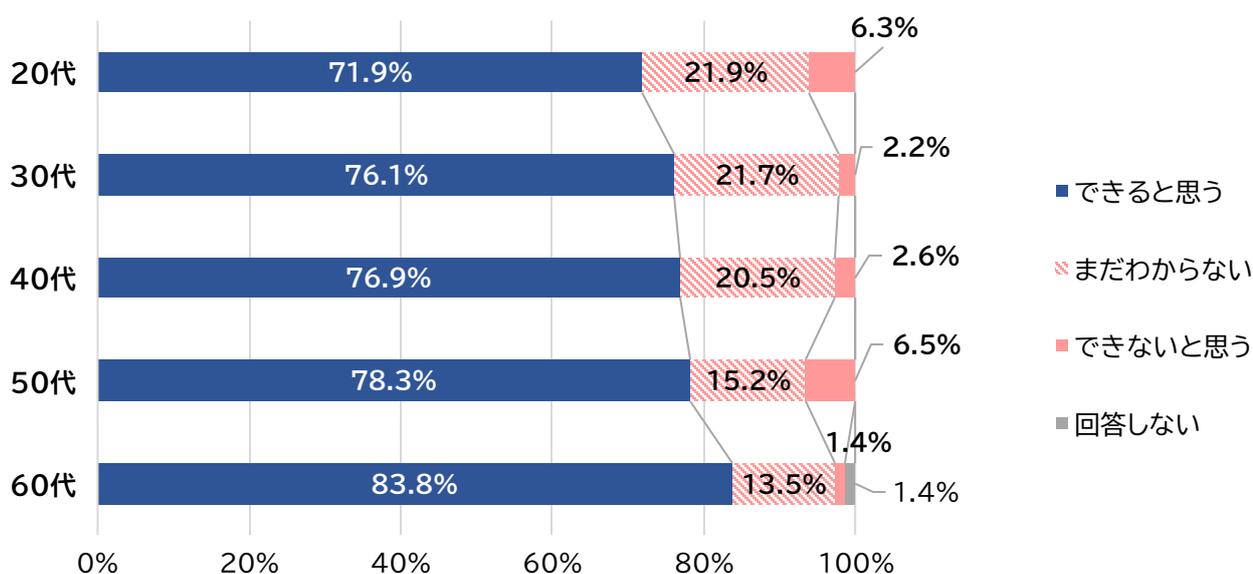
家族や身近な人が認知症になったとき、受診を勧めることができるかを尋ねたところ、「できると思う」と回答した人が 193 名(78.8%)、「まだわからない」と回答した人が 42 名(17.1%)、「できないと思う」と回答した人が 9 名(3.6%)でした。「回答しない」を選択した人は 1 名(0.4%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



設問⑱ 上記(⑰)の回答の理由を教えてください。(自由記述)

設問⑰の回答の利用を自由記述で、尋ねたところ、147名から回答がありました。いくつかの回答を抜粋して掲載します。
 ※年代、性別で「回答しない」を選択されている方は、「-」と表記しています。

■設問⑰で「できると思う」と答えた主な理由(回答数 121)

年代	性別	回答
20代	男性	そうする他にない。
50代	女性	早めの受診で進行を遅らせることができると思うから。
-	-	受診はさせたいです。暴れたりしてどうにもできないとなった時、助けになる人がいないのでかなり心配ではありますが、相談窓口があればぜひ行って相談させていただきたいです。
50代	女性	早期に発見されれば、自分や家族が症状や今後の生活に対し備えることができるから。
30代	男性	認知症がどんな症状かについてはある程度理解しており、可能性を感じたら本人のためにも勧めると思います。
-	-	山本学さんの件を聞いて、早めの対策で進行を抑えることが可能だから。
60代	女性	実母を医療機関に連れて行ったから。
50代	男性	矛盾しているが、自分でなければ勧めるかもしれない。

50代	女性	実際に勧めた。そして検査を受けました。
30代	女性	知らないまま関わる方がストレス。
20代	－	知っているほうが、それに対してベストな対策を行えるため。
40代	－	長期で考えて、受診を勧めることが、本人、まわりを含めて最善の気がするのです。
40代	男性	専門家に話を聞かなければ、今後のことについて何の判断もできないから。当人に、受診する意思があるのかどうかはさせておき、受診を勧めるということはする。
50代	女性	薬を処方してもらえるレベルなら本人にとっても家族にとっても生活に不安を及ぼしたくないため。
20代	女性	Q15と同様の理由で、早めに受診して適切な治療や支援を受けてほしい。
30代	男性	大切な人だから。
20代	女性	今後支えていく側になる私自身のためにも、早期診断したい。
30代	女性	隠されるのは嫌がると思うから、正直に伝えていってもらおう。
50代	女性	認知症ではなく、大きな病気(脳腫瘍など)になっているかもしれないし、認知症であったなら、早いうちから対処できると思うから。
30代	女性	自分の親なら可能です。義理の家族には言い方に気を遣います。
40代	女性	受診し、告知されてその人に一番良い治療や接し方をしたいから。
40代	男性	おそらく、強く勧めるということはないと思うが、たとえ軽くであっても、受診を勧めてくる人が何人か現れてくると当人の気持ちや考えも変わってくると私は考えるから。
20代	男性	自分と同様、身近な大切な人にも認知症にならず、毎日希望を持って楽しく生きて欲しいから。
20代	男性	安心するから
50代	男性	当然のこと。
40代	女性	その仕事をしているので、ちゃんと説明して連れて行っています。
30代	男性	自身の生活の見直しの一つとして考えてほしいから。
40代	男性	心配だから勧める。
60代	女性	まずは確認した方が良いと思う。
20代	女性	早期発見が大事であるならば、可能性があると感じれば受診を勧めたい。

50代	男性	大切な人がその疑いがある場合、必死で説得するのが当たり前だと考えているから。
60代	女性	早く受診してその人の自由な時間を少しでも長くしたいと考える。
60代	男性	日頃から話題にしているから。
—	—	恥ずかしい病気ではないから。よくある話。
60代	男性	母が認知症だったが、私が病院に連れて行ったことがなかったが、症状が出た初期の段階で受診していたら、もっと楽しく過ごせたと思ったので、これからはそのような後悔はしたくない。
60代	女性	治せるものなら治したい。家族に悲しい思いをさせてほしくない。
30代	男性	ケアする側に回った際は精一杯フォローしたい。
20代	女性	認知機能低下が軽度のときに勧めるのは難しく、認め難いかもしれないが、早期発見が大事だと感じるため。
60代	女性	実際、家族に病院に行くことを勧めたし、早めに行ったせいで家族の進行も遅くなったし、進行する間に私も介護の覚悟やヘルパーの学習もできた。

■設問⑰で「まだわからない」と答えた理由(回答数:19)

年代	性別	回答
30代	男性	軽い症状もわからないくらいコミュニケーションが疎遠なため。
40代	女性	勧めたいが、本人の気持ちを考えるとわからない。
50代	女性	別件で医療機関で受診をする時に、ついでに、認知症の件をお聞きするぐらいならできると思う。本人が「認知症かもしれない」と思っていない状況下においては、医療機関を勧めることはできないと考える。 但し、地域包括センターなどに相談に行く可能性はある。
50代	男性	各自できる簡単なテスト(ちゃんとしたもの)や、第三者の意見(対象者の行動を見て感じてる内容)などを総合して判断できるものがあれば、本人を説得できると思うが、そうでないとただ対象者を邪魔者扱いにしているように思われぬか、誤解されないか、気になって言いにくい。
40代	女性	勧めた相手が受け入れてくれるか、不安があるから。
60代	女性	症状により、できるかもしれないし、できないかもしれない。
40代	女性	「認知症かもしれない」は、年を重ねるごとに起こる「物忘れ」と区別できるか自信がないから。
50代	女性	言われた人が気を悪くすると思うから。
20代	女性	本人の意識によっても変わるため、進んで勧められるかわからない。

40代	—	いざと言う時に、勧めても本人が聞き入れるかその時にならないと判断できないため。
40代	男性	身近な人などがいない。
40代	女性	自分の頭の中で混乱しているから。
50代	女性	親は頑固なので説得できるかわからない。
30代	女性	身近に感じていないから。
30代	女性	個人の意志を尊重したいと思うから。
30代	男性	面倒をみる余裕がない。自分のことで精一杯。
30代	男性	病院での受診や診断結果を受けることに抵抗を感じている人がスムーズに話を受け入れてくれるとは思えないから。
20代	男性	ショックを与えたくないから、悩む。
20代	男性	普通と比べておかしなところがあれば指摘してあげたいが、受診を勧めるということは面と向かって「あなたは変だ」と言ってるようで気が引けるから。

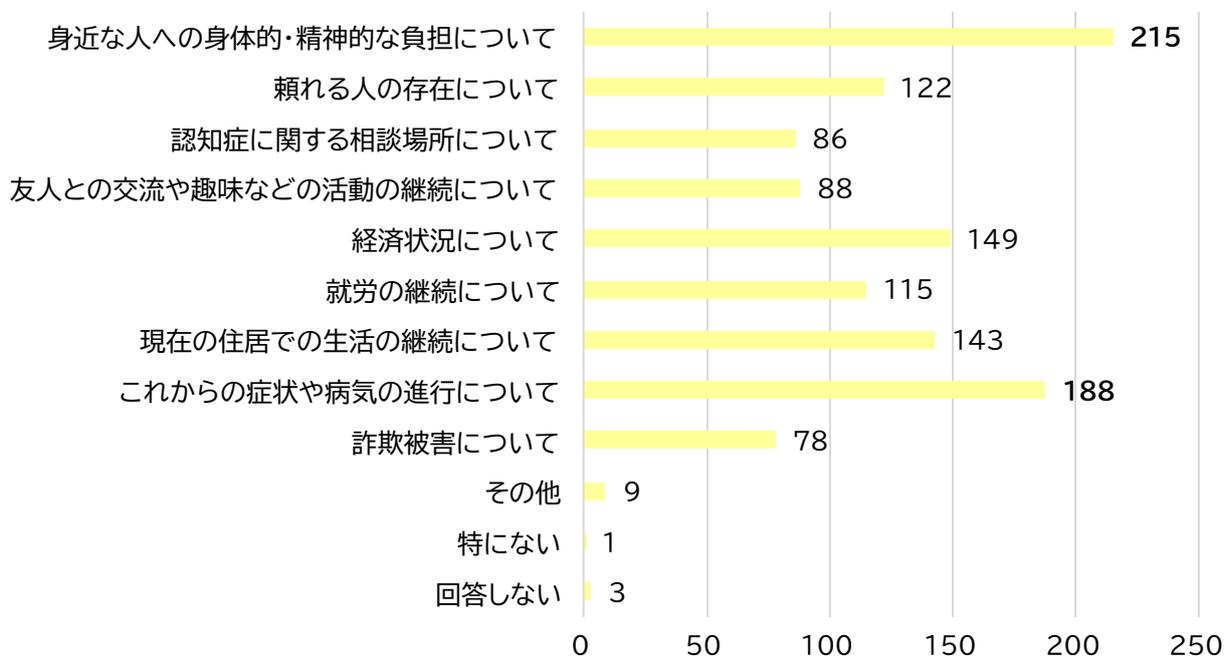
■設問⑰で「できないと思う」と答えた理由(回答数:7)

年代	性別	回答
50代	女性	説得することが難しい。
—	女性	家族の理解が足りない。
30代	女性	傷つけてしまうかも…、もしかしたら違うかも…という気持ちがあって伝えることはできないと思う。
20代	女性	相手を怒らせたなら嫌だし、傷つけてしまうかもしれないから。
60代	—	本人が自覚するのは難しいと思うので言っても聞いてくれないと思うから。
40代	女性	検診で疑いと診断されるなどきっかけがあればするかも。
20代	女性	そこまでは言えない。

設問⑱ もし、あなたや家族などの大切な人が認知症になったら、あなたはどのようなことに心配や不安を感じると思いますか。次のそれぞれの場合について、あてはまるものを全て選択してください。（複数選択可）

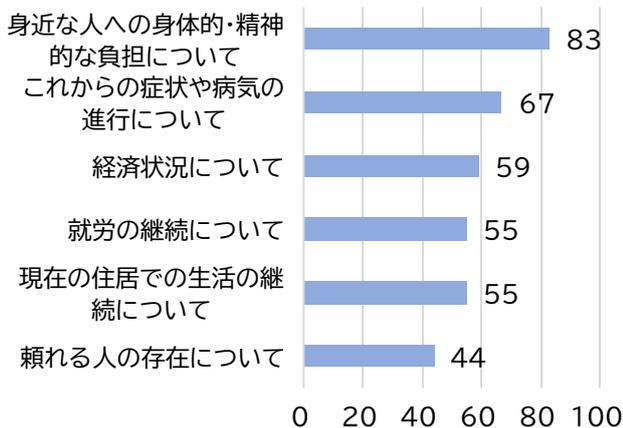
【自分が認知症になったら】

自分が認知症になったとしたとき、どのようなことに不安を感じるかを複数選択可で尋ねたところ、「身近な人への身体的・精神的な負担について」を選択した人が最も多く、215名(87.8%)でした。次いで、「これからの症状や病気の進行について」が188名(76.7%)、「経済状況について」が149名(60.8%)でした。「その他」で寄せられた回答は、「子どものこと」、「周辺住民にご心配やご迷惑などご負担をおかけするようなことはしたくない 判断の能力の低下(金銭の取扱や契約ごとなど) 終活の準備ができていない」、「周りに迷惑をかけているのではないかとという負目から鬱になりそう。」、「火事等の事故」、「どこに相談して良いのかわからない。」、「近くに友達がいない。」でした。

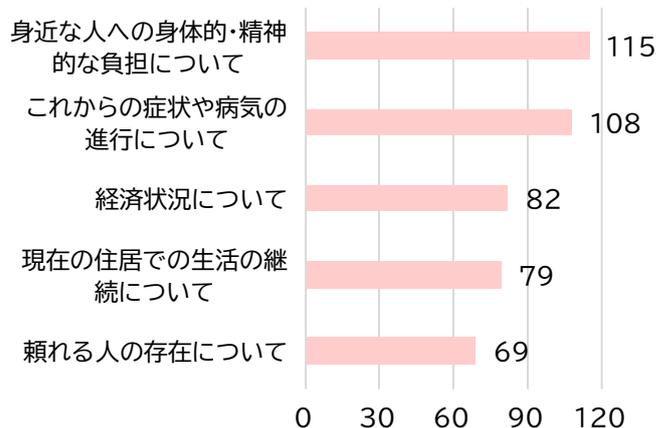


性別、年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

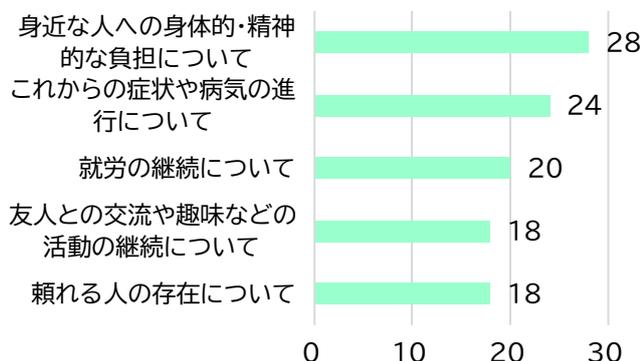
男性 計92名 上位5項目



女性 計135名 上位5項目



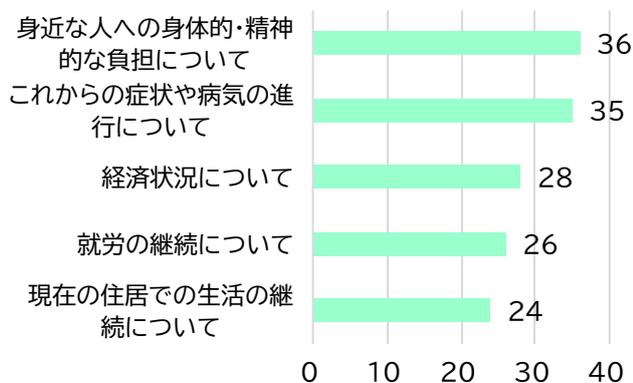
20代 計32名 上位5項目



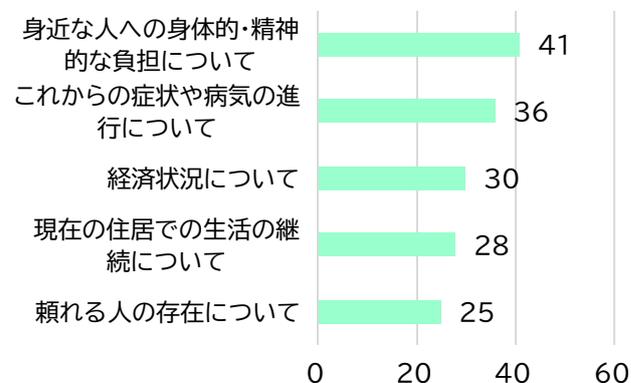
30代 計46名 上位5項目



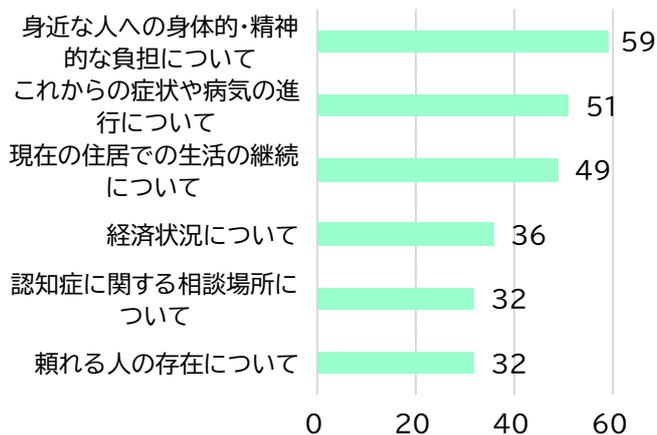
40代 計39名 上位5項目



50代 計46名 上位5項目



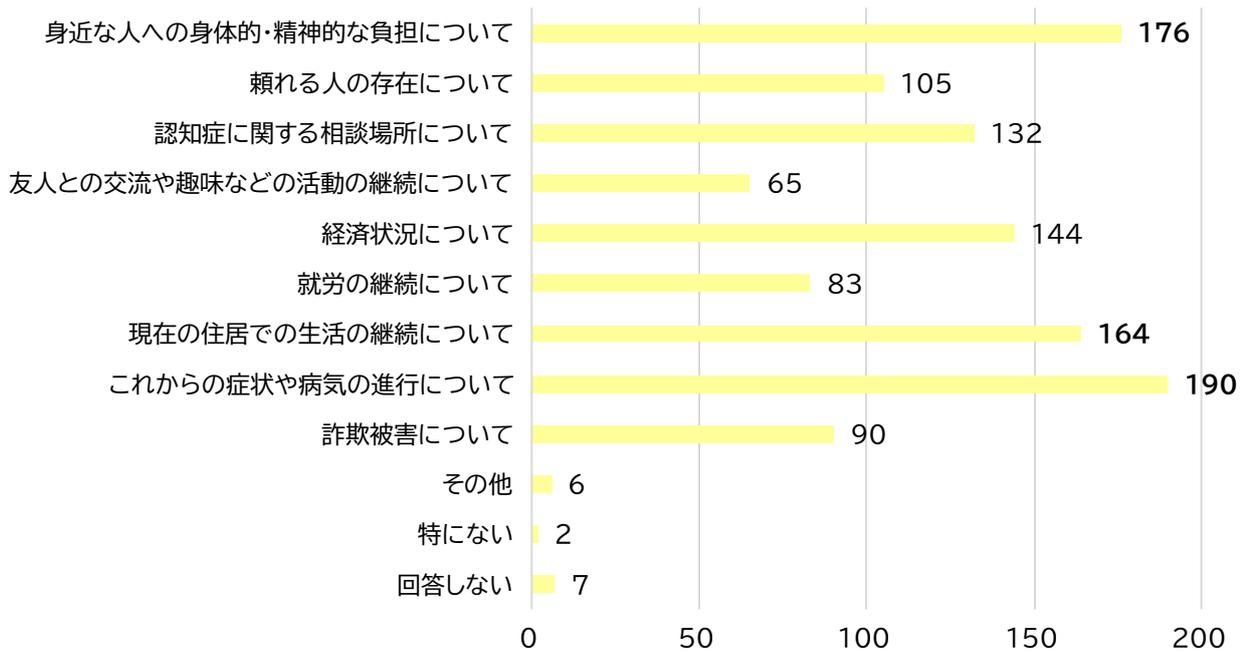
60代 計74名 上位5項目



全ての分類において、「身近な人への身体的・精神的負担について」が最も多く、「これからの症状や病気の進行について」が30代の分類を除く全ての分類で2番目に多い結果となりました。また、「就労の継続について」は、50代、60代では上位5項目に入っていない一方で、20代、30代では3番目に多い項目となっています。

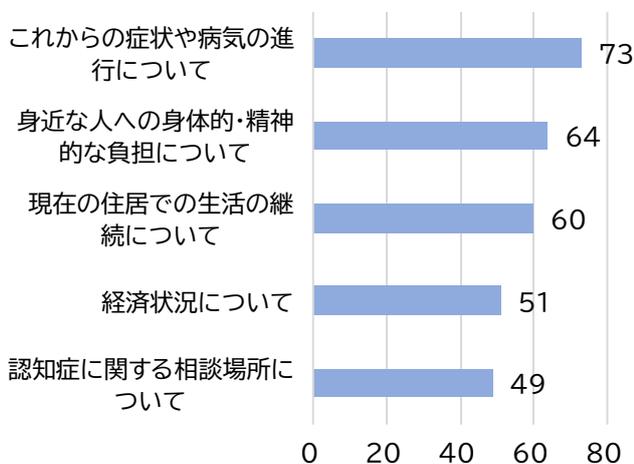
【家族などの大切な人が認知症になったら】

家族などの大切な人が認知症になったとしたとき、(自身のことについて)どのようなことに不安を感じるかを複数選択可で尋ねたところ、「これからの症状や病気の進行について」を選択した人が最も多く、**190名(77.6%)**でした。次いで、「身近な人への身体的・精神的な負担について」が**176名(71.8%)**、「現在の住居での生活の継続について」が**164名(66.9%)**でした。「その他」で寄せられた回答は、「周辺住民にご心配やご迷惑などご負担をおかけするようなことはしたくない」、「相手が認知症だとわかっているにもかかわらず、意思疎通が難しいと感情のコントロールができず、辛くあたってしまうかも。」、「火事等の事故」でした。

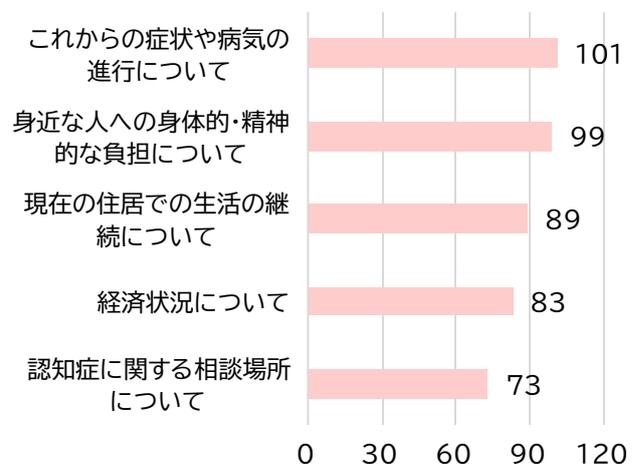


性別、年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

男性 計92名 上位5項目



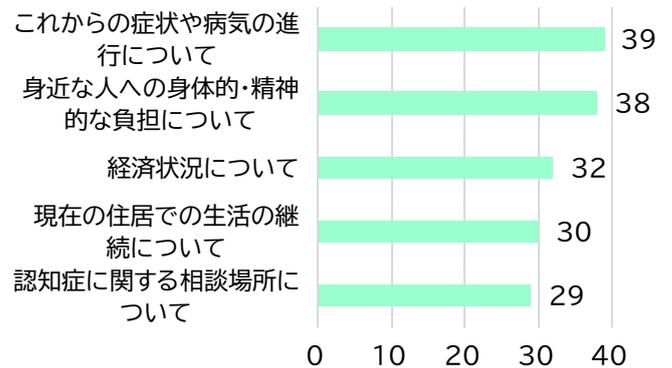
女性 計135名 上位5項目



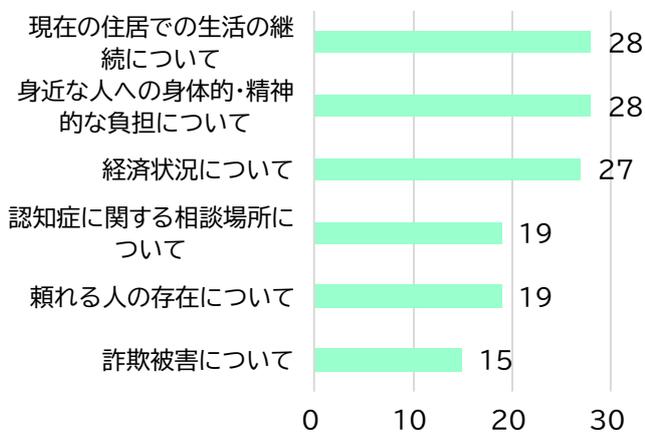
20代 計32名 上位5項目



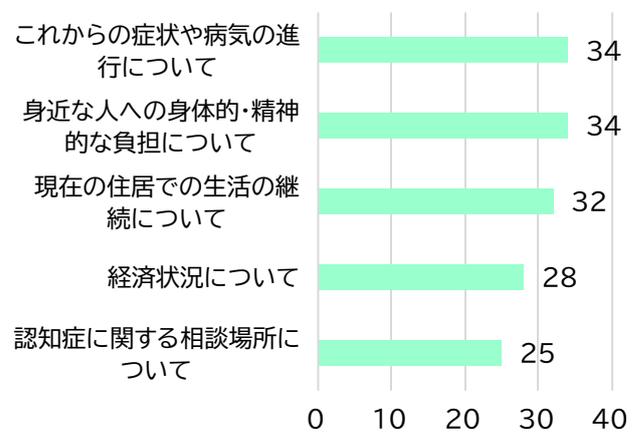
30代 計46名 上位5項目



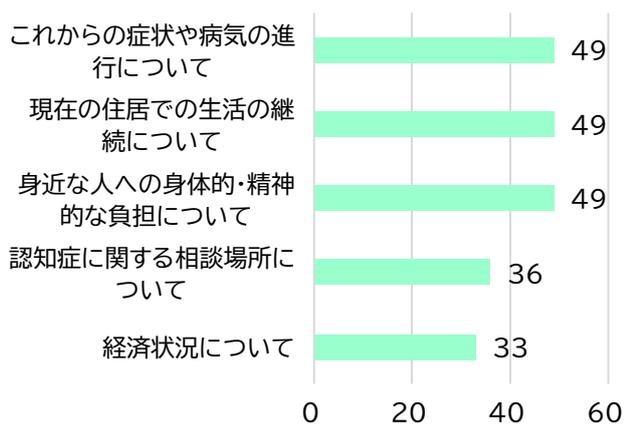
40代 計39名 上位5項目



50代 計46名 上位5項目



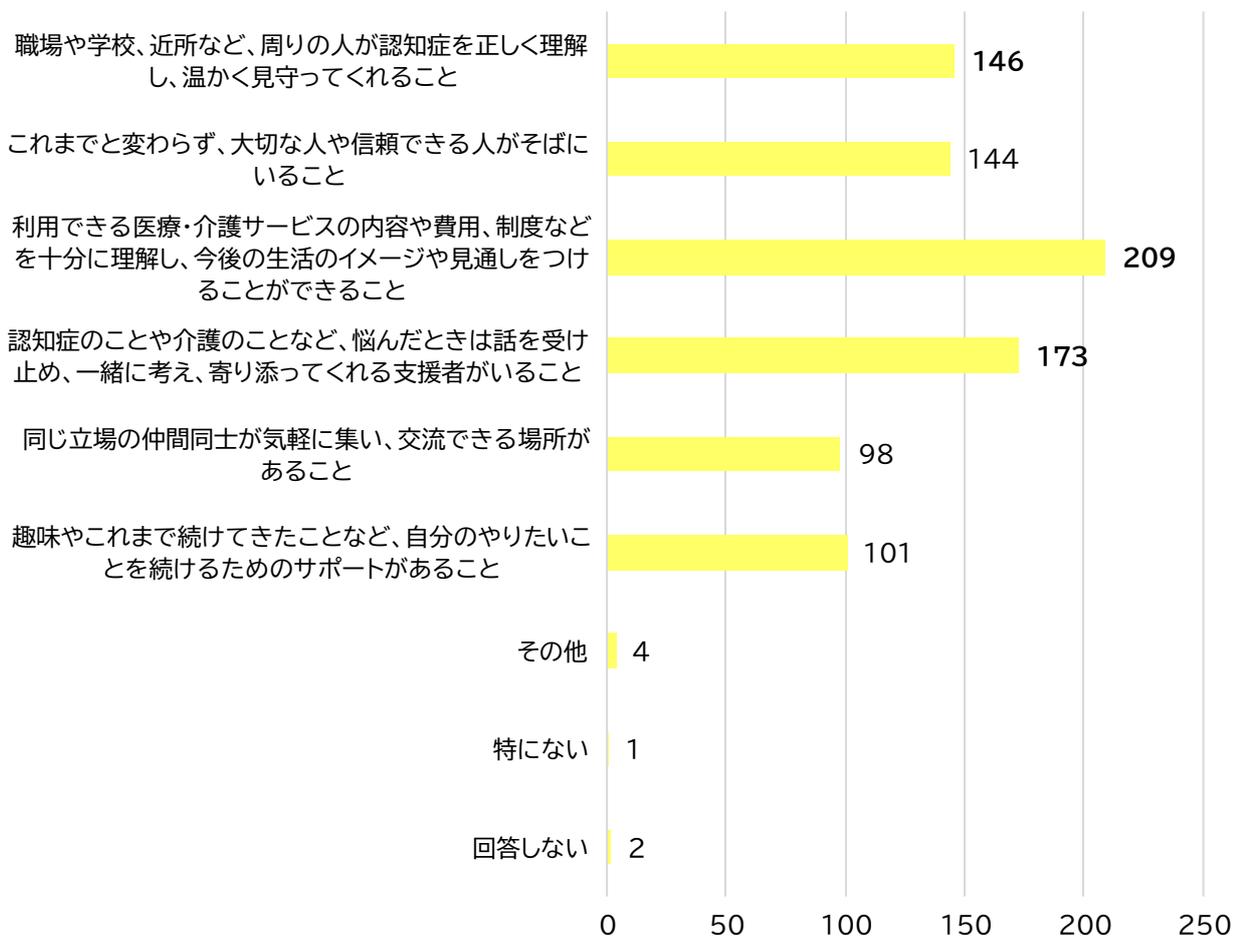
60代 計74名 上位5項目



40代を除く全ての区分で、「これからの症状や病気の進行について」が最も多くなりました(同率1位を含む)。40代、60代では「現在の住居での生活の継続について」が最も多く(同率を含む)、「自分が認知症になったとき」と比較し、年代ごとの回答に差が見られる形となっています。

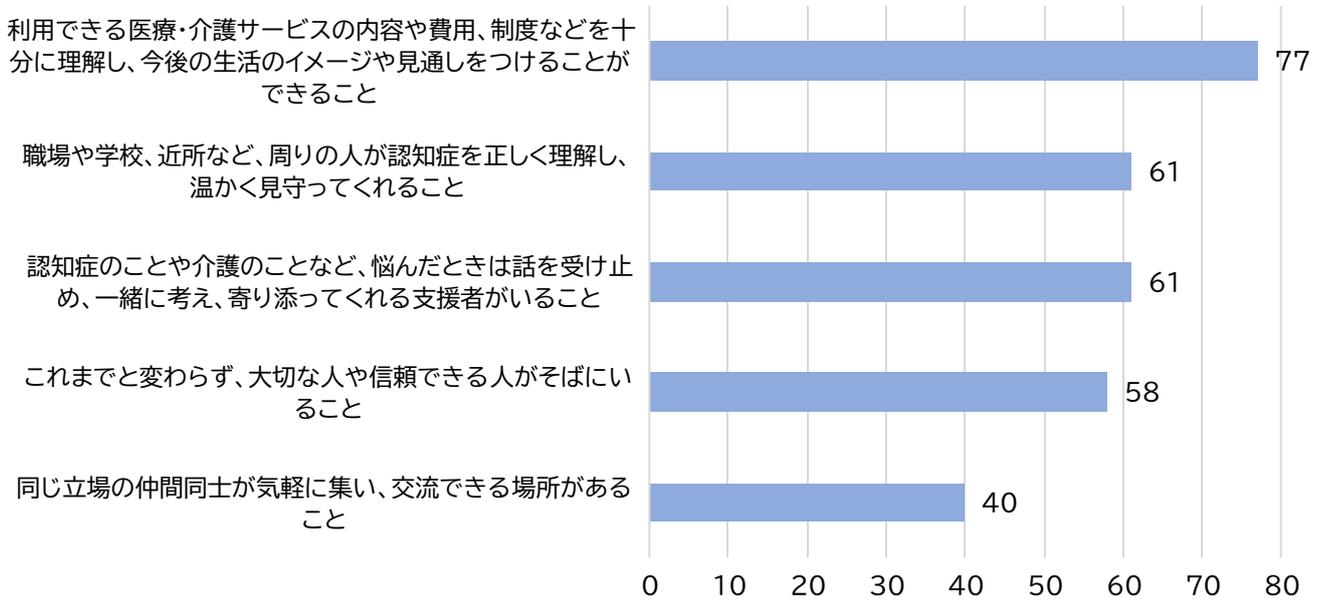
設問⑳ 自分や大切な人が認知症になったとしても、安心して、希望を持って暮らし続けることができるために大切だと思うことを教えてください。（複数選択可）

自分や大切な人が認知症になったとしても、安心して、希望を持って暮らし続けるために大切だと思うことを、複数選択可で尋ねたところ、「利用できる医療・介護サービスの内容や費用、制度などを十分に理解し、今後の生活のイメージや見通しをつけることができること」と回答した人が最も多く 209 名(85.3%)、次いで「認知症のことや介護のことなど、悩んだときには話を受け止め、一緒に考え、寄り添ってくれる支援者がいること」が 173 名(70.6%)、「職場や学校、近所など、周りの人が認知症を正しく理解し、温かく見守ってくれること」が 146 名(59.6%)となりました。

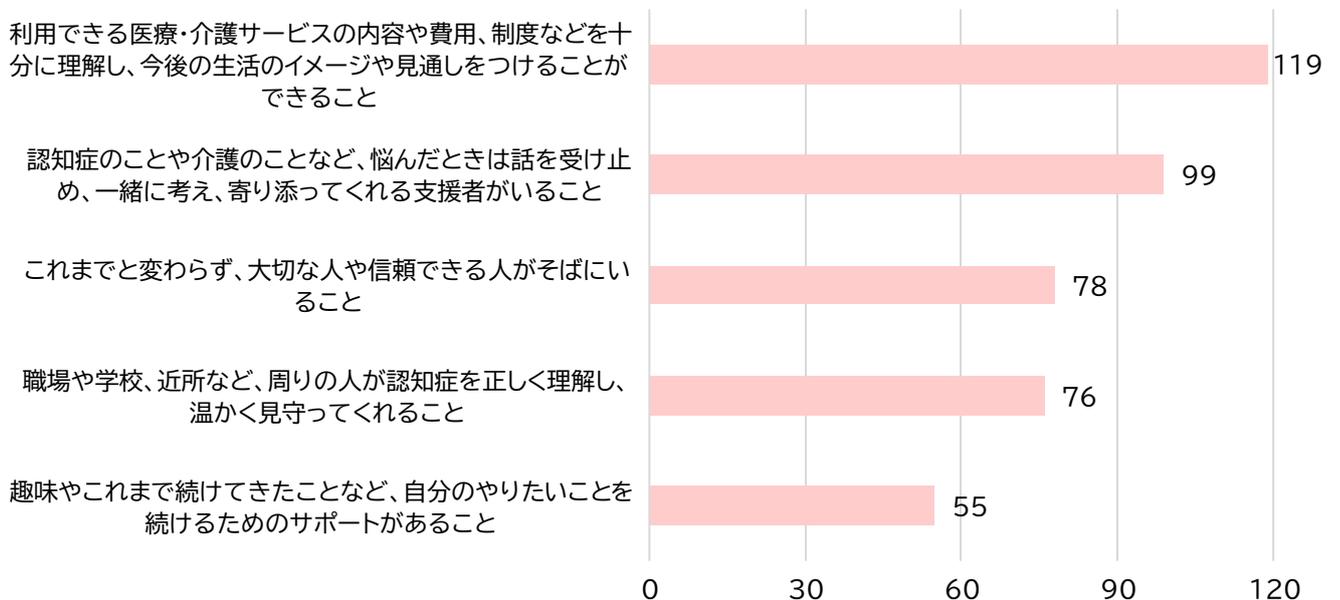


性別、年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

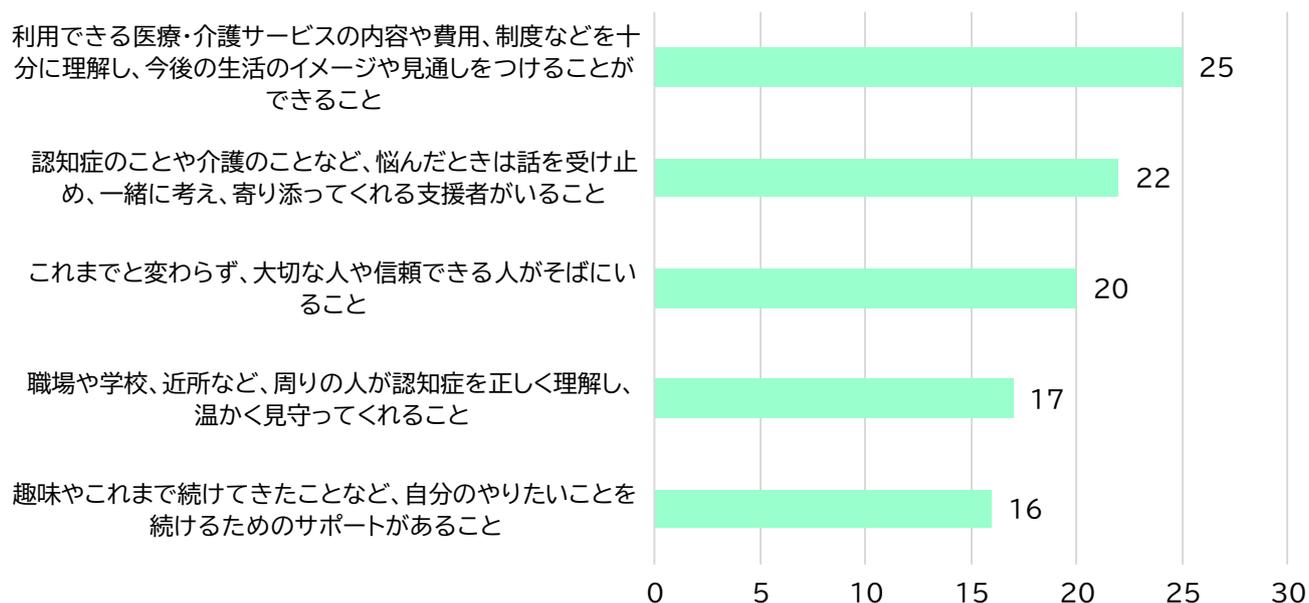
男性 計92名 上位5項目



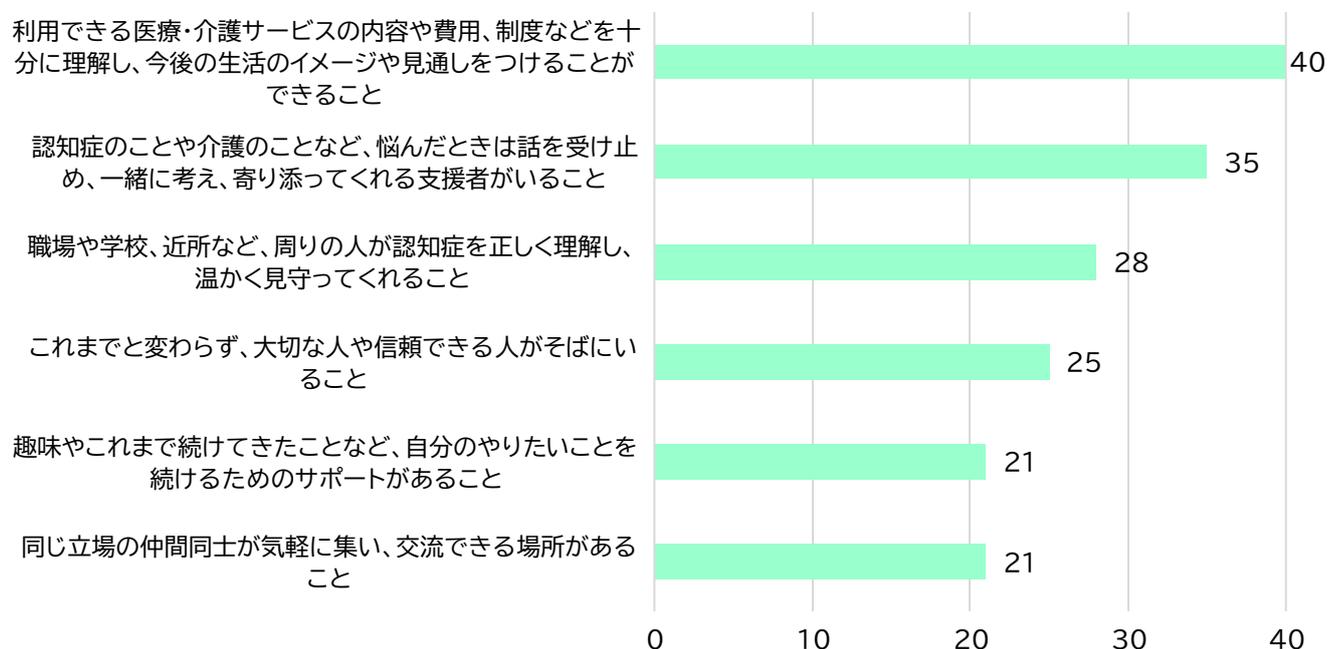
女性 計135名 上位5項目



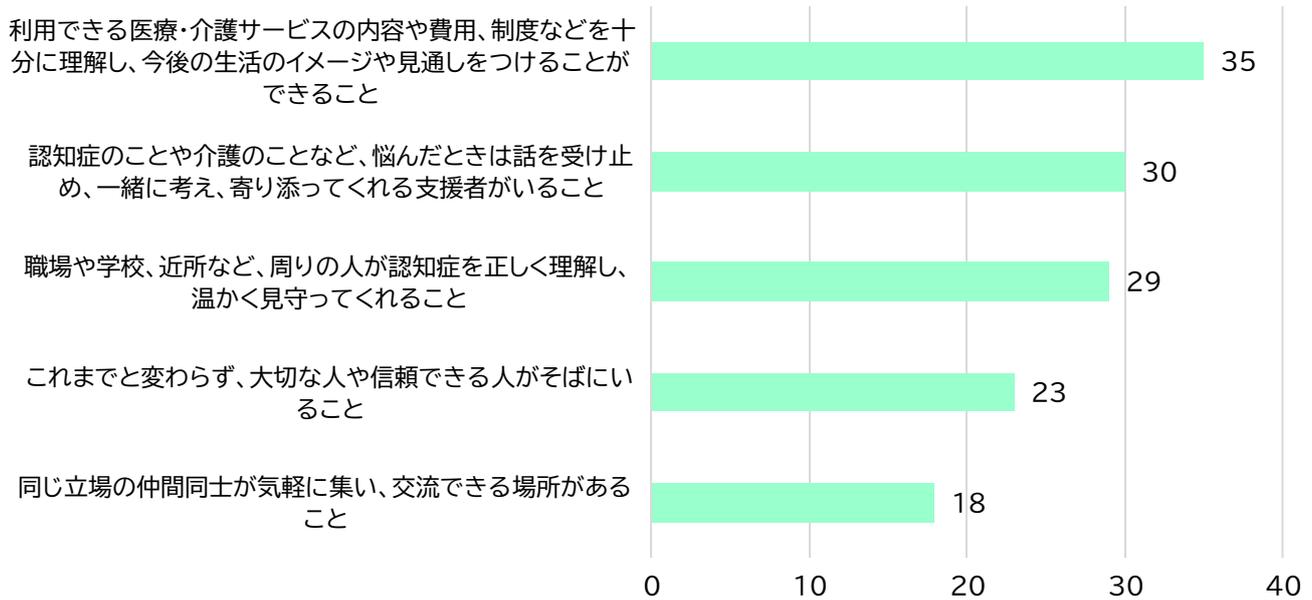
20代 計32名 上位5項目



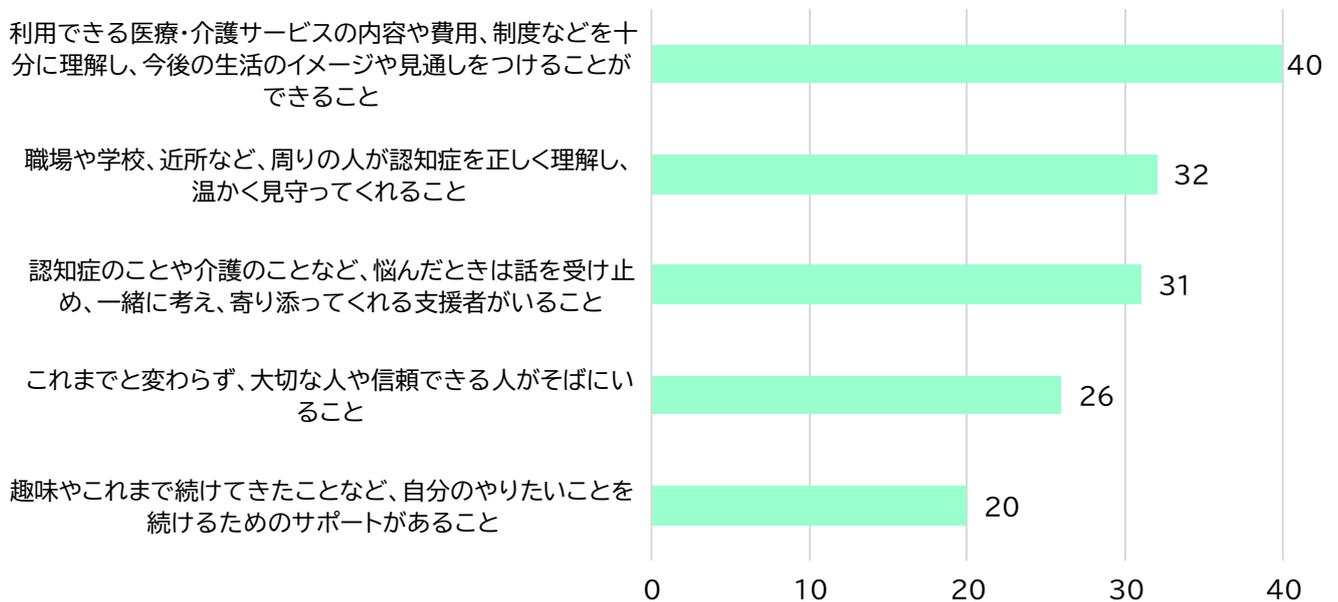
30代 計46名 上位5項目



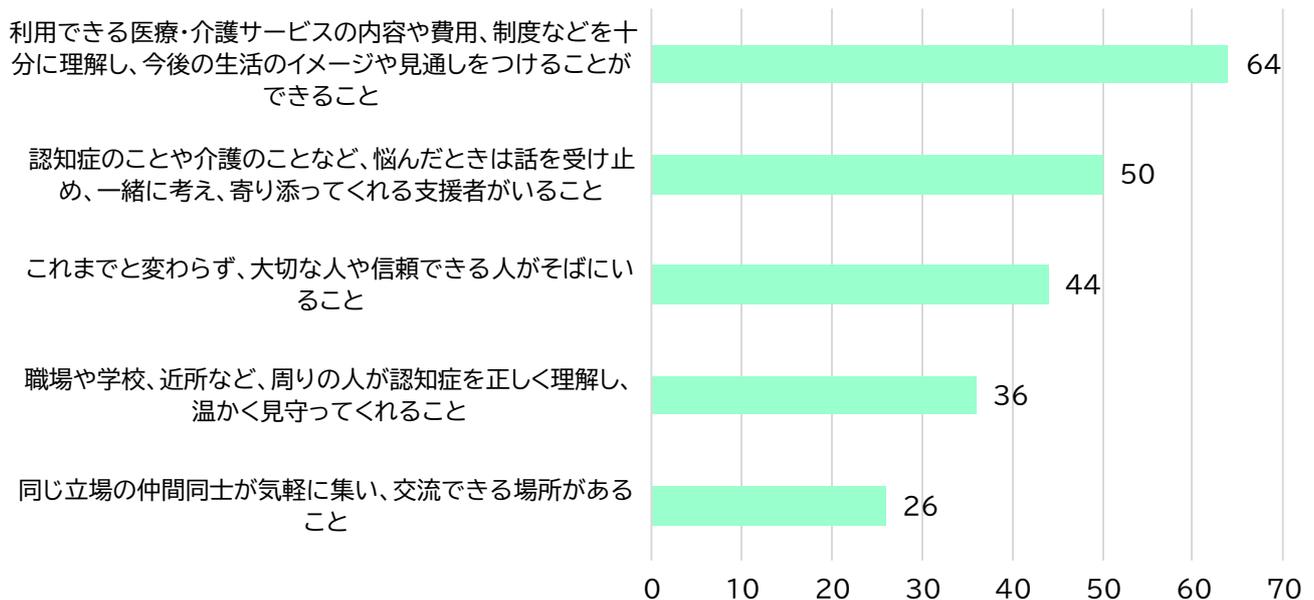
40代 計39名 上位5項目



50代 計46名 上位5項目



60代 計74名 上位5項目

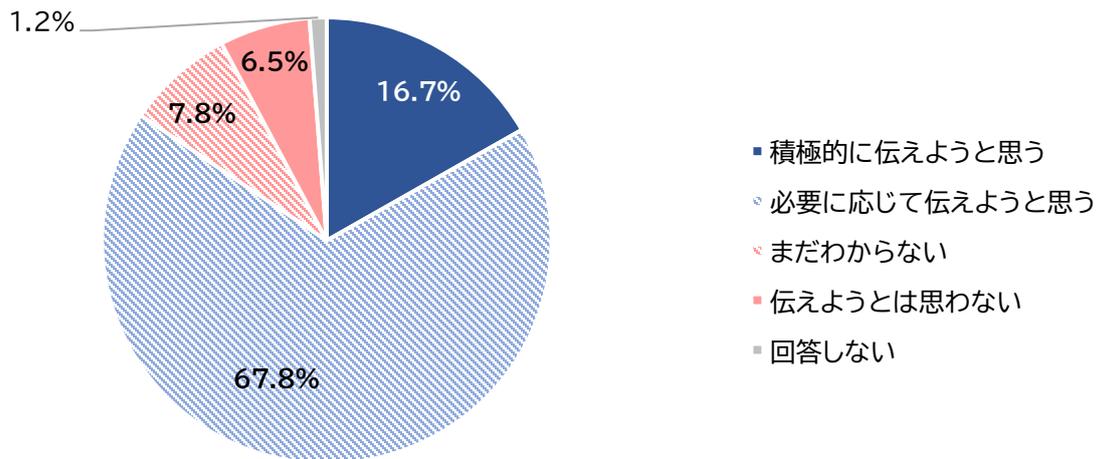


全ての分類において、「利用できる医療・介護サービスの内容や費用、制度などを十分に理解し、今後の生活のイメージや見通しをつけることができること」が最も多い結果となりました。また、「認知症のことや介護のことなど、悩んだときには話を受け止め、一緒に考え、寄り添ってくれる支援者がいること」が全ての分類において2番目もしくは3番目に多くなっています。

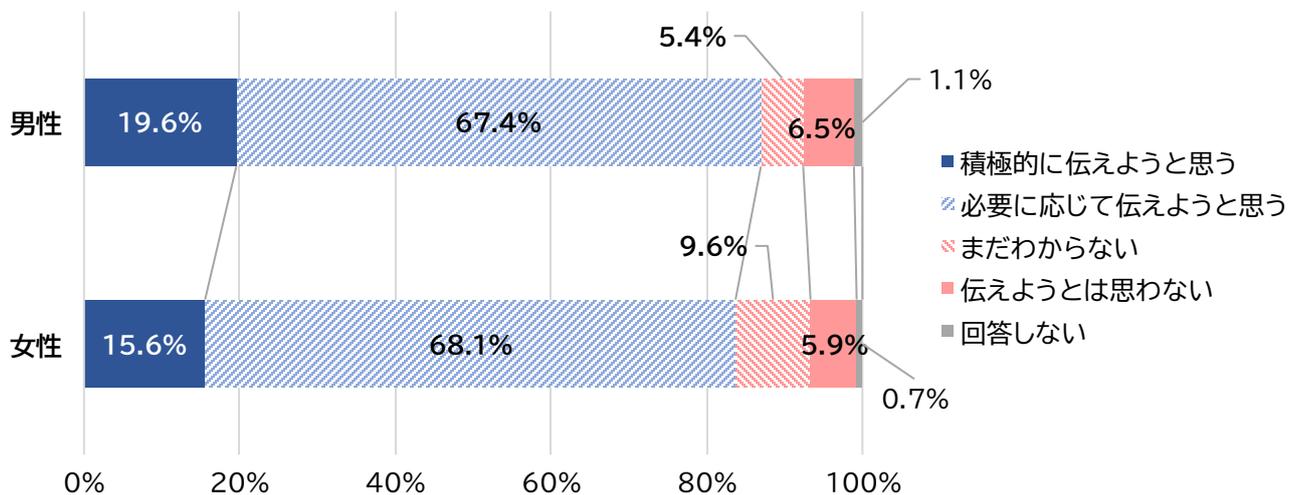
設問⑳ もしあなたが認知症になったら、友人や近隣の人、職場の人に認知症であることを伝えようと思いますか。次のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

【友人に対して】

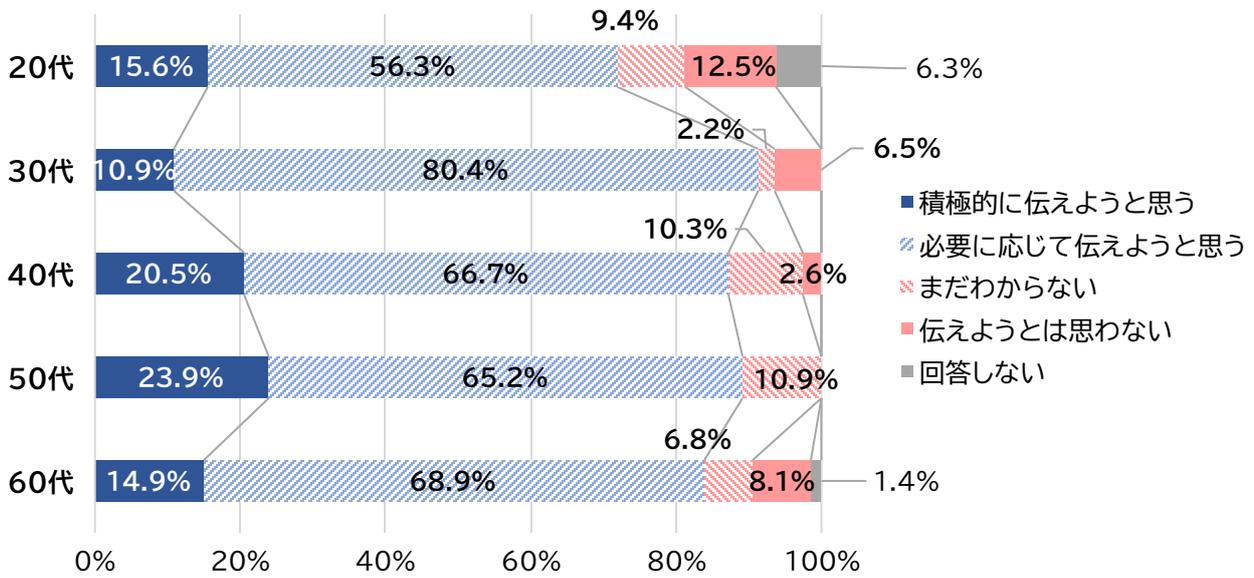
自分が認知症になったとしたとき、友人に対して伝えるかどうかを尋ねたところ、「積極的に伝えようと思う」と回答した人が 41 名(16.7%)、「必要に応じて伝えようと思う」と回答した人が166名(67.8%)、「まだわからない」と回答した人が 19 名(7.8%)、「伝えようとは思わない」と回答した人が16名(6.5%)でした。「回答しない」を選択した人は3名(1.2%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

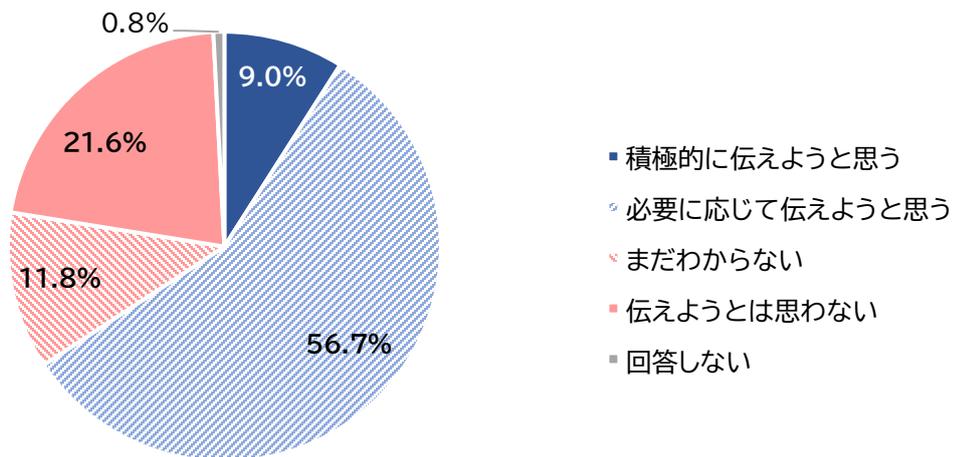


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

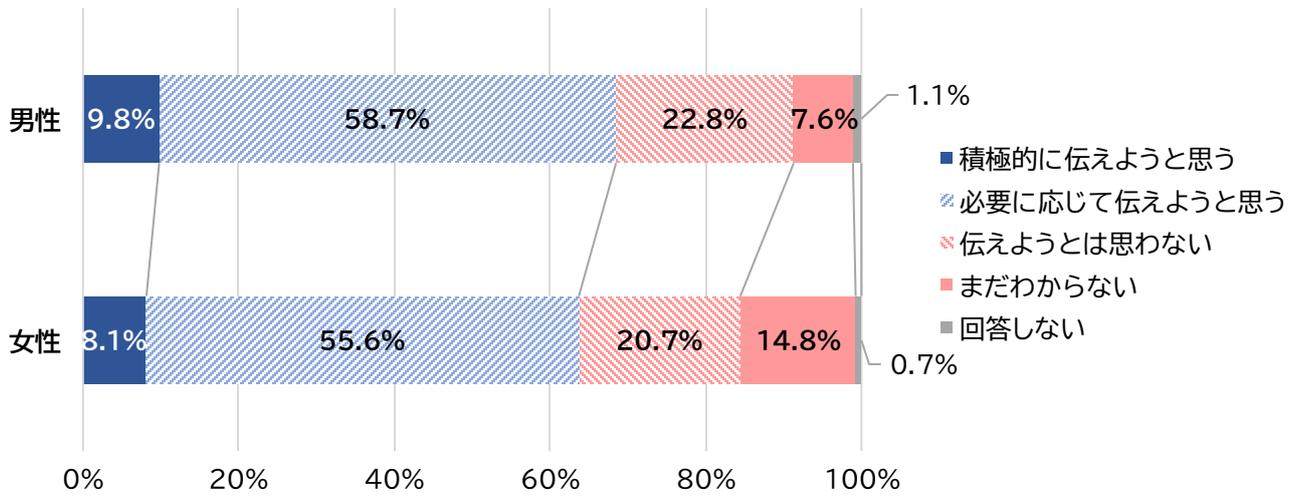


【近隣の人に対して】

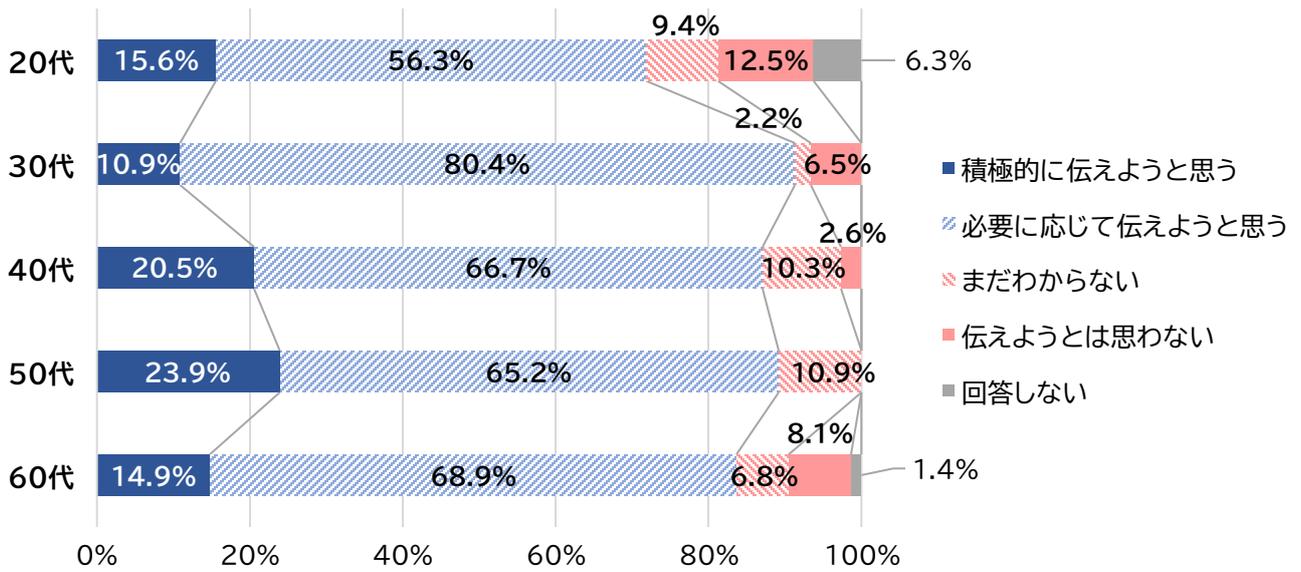
自分が認知症になったとしたとき、近隣の人に対して伝えるかどうかを尋ねたところ、「積極的に伝えようと思う」と回答した人が 22 名(9.0%)、「必要に応じて伝えようと思う」と回答した人が139名(56.7%)、「まだわからない」と回答した人が29 名(11.8%)、「伝えようとは思わない」と回答した人が 53 名(21.6%)でした。「回答しない」を選択した人は 2 名(0.8%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

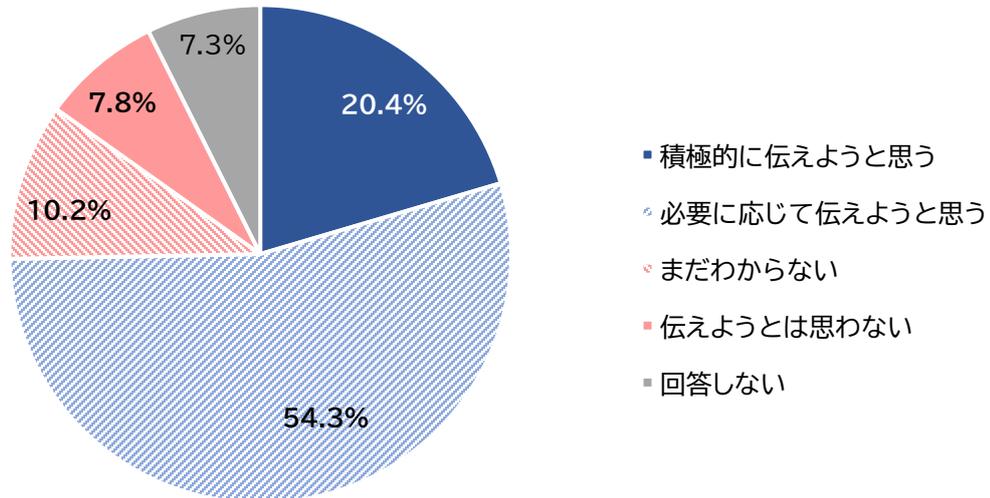


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

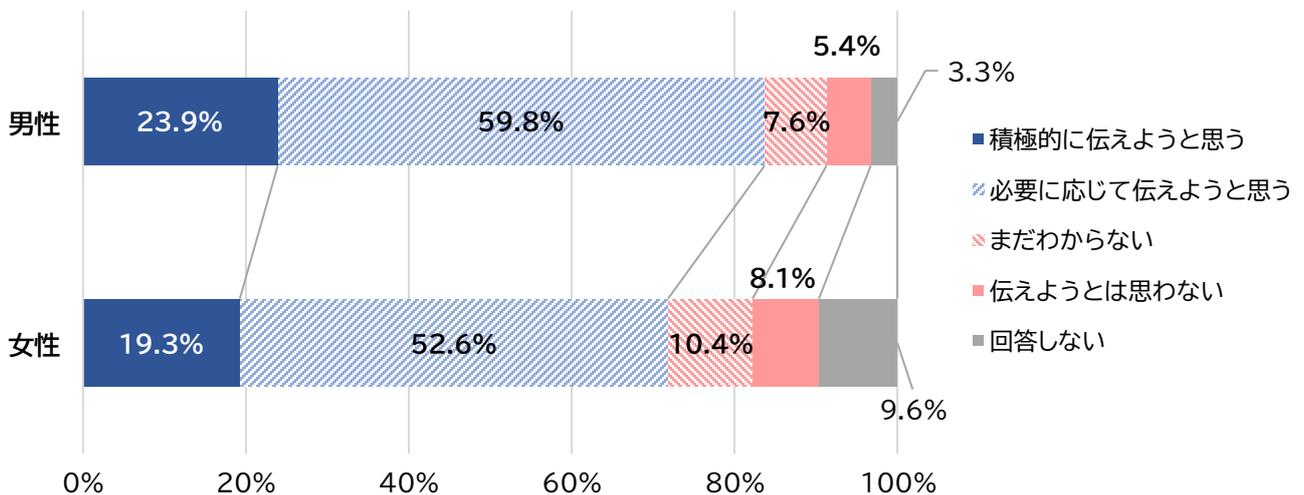


【職場の人に対して】

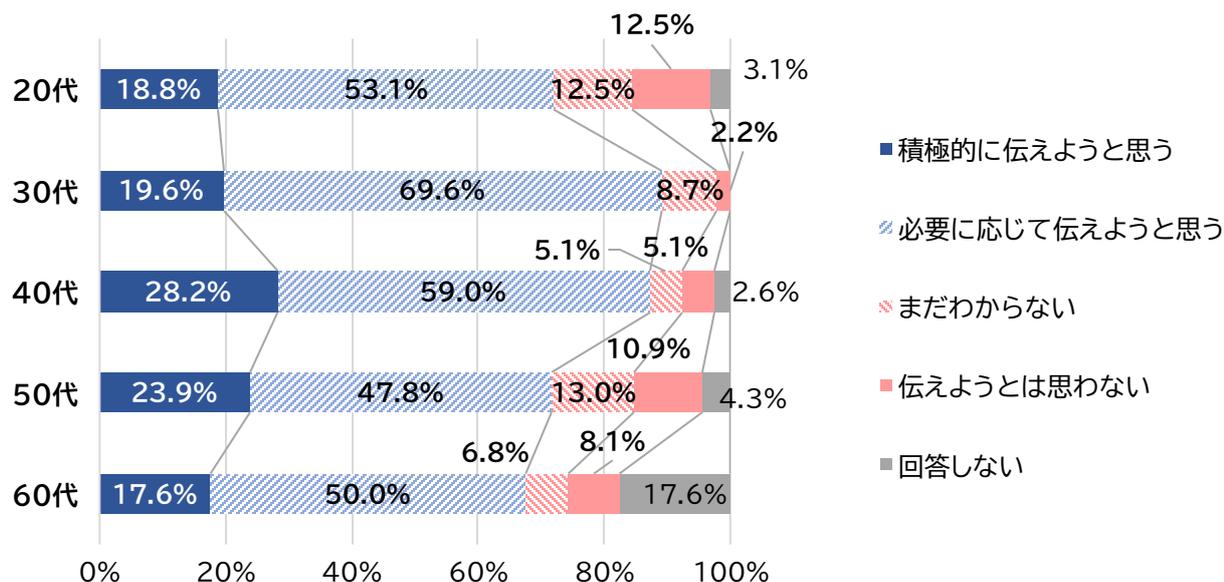
自分が認知症になったとしたとき、職場の人に対して伝えるかどうかを尋ねたところ、「積極的に伝えようと思う」と回答した人が50名(20.4%)、「必要に応じて伝えようと思う」と回答した人が133名(54.3%)、「まだわからない」と回答した人が25名(10.2%)、「伝えようとは思わない」と回答した人が19名(7.8%)でした。「回答しない」を選択した人は18名(7.3%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



設問② 上記(①)の回答の理由を教えてください。(自由記述)

上記の設問①の回答の理由を自由記述で尋ねたところ、118名から回答が得られました。以下、主な回答を掲載します。

※設問①の回答について、併せて記載しています。なお、下記のとおり表現を省略しています。

- ・友人に対して→友人、近隣の人に対して→近隣、職場の人に対して→職場
- ・積極的に伝えようと思う→積極的に、必要に応じて伝えようと思う→必要に応じて
- 伝えようとは思わない→伝えようと思わない

※年代、性別で「回答しない」を選択されている方は、「-」と表記しています。

年代	性別	設問①の回答		
20代	女性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
認知症のせいで迷惑をかける可能性があるということを知っておいてもらったほうが良いから。				
50代	男性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
隠す必要がない。				
40代	女性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
周りもきっと心当たりあると思う。隠すのではなく、積極的に伝えて、理解してもらい、認知症に向き合っていきたい。				
30代	男性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
後発的に認知されるより先に知らせておきたい。				
50代	女性	友人：積極的に	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
自分ができなくなったことの補填をお願いしないといけないので、職場には積極的に。友人には心の支えになってもらいたいので、積極的に。近隣にはお付き合いの程度と災害時のことを考えて、懇意にしている人のみ伝える。				

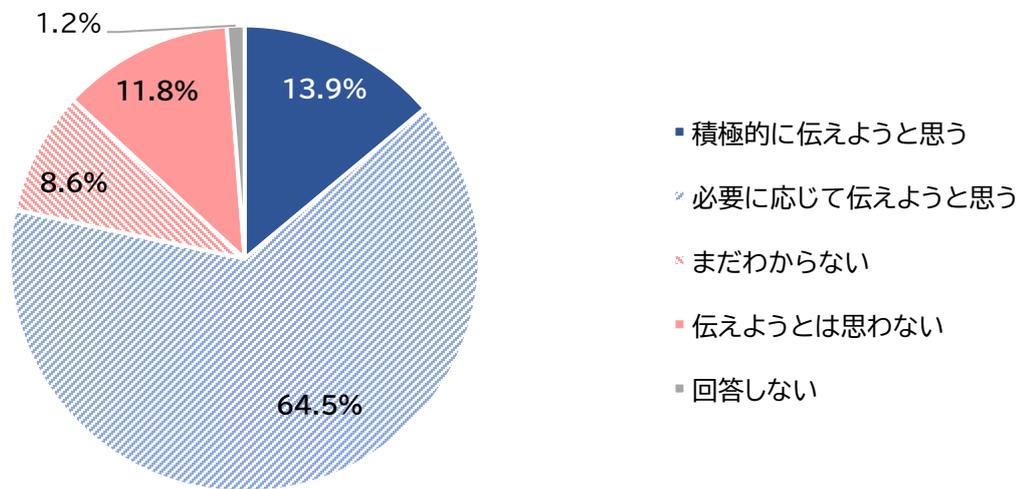
50代	女性	友人：積極的に	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	理解を得ることで、本人も周りも納得してもらえるから。
30代	男性	友人：積極的に	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	病気であることを伝えることで、理解や支援を得やすいため。
40代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に	職場には伝えないと業務に支障が出るから。友人、近隣の人は、必要な範囲で良いと思うから。
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に	職場では伝えないと困るから。友人や近隣の人は関わらなければ言う必要はないと思う。お付き合いの中で必要になったら伝える。
60代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に	就労しているタイミングであれば、職場に迷惑をかけることが出てくる可能性もあり、また、可能な限りサポートしてもらいながら、仕事を社会とのつながりを継続したいと考えるから。
20代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に	職場に対しては迷惑をかけてしまわないように早急に伝えると思うが、そのせいで待遇や対応が変わってしまう(認知症に対する配慮を除く)のではないかという不安はある。
60代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	人間は誰も高齢になっていくと身体が衰えて弱ってくると思います。認知症も脳の衰えだと思います。あえて報告しなくても良いのではないかと思います。その時の状況で伝えた方がいい場合は伝えるべきだと思います。
60代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	認知症を前提に付き合ってもらいたい。
30代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	少なからず迷惑をかけてしまうのであれば、伝えておいた方が良いと思う。
40代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	むやみに人に自分の病気を伝えたいと思わない。
20代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	偏見はあると思うがわかってもらっている方が安心できるから。
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	自分の病名について知ってもらって、協力や支援も受けることもあるだろうし、迷惑をかけるときもあるので、理解を得たいので。
60代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	どのように思われるか気になるが、必要ならやむを得ないため。
50代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	必要以上に伝えることは詐欺被害のリスクが上がるかもしれない。しかし、関わりのある人にはトラブル防止の意味でも伝えた方が良く考える。
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	認知症の理解が難しく、常に認知症だから〇〇したのでは？等、評価が「認知症」ありきになる。できること、できていることの理解まではされないとします。
60代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	症状にもよるが、迷惑をかけない程度には伝える必要があると思うから。
30代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	生活に支障する状態になった場合、周りに迷惑をかけたくないから。
20代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて	積極的に伝えたいとは思わないが、周囲の理解や支援が必要であると考えため、必要に応じて伝えたいと思った。

40代	男性	友人：まだわからない	近隣：まだわからない	職場：まだわからない
認知症であることを相談しても相手が病気のことを理解して配慮してくれるかわからないから。				
60代	女性	友人：まだわからない	近隣：まだわからない	職場：まだわからない
家族か、あるいは介護サービスに頼ると思う。				
40代	男性	友人：まだわからない	近隣：まだわからない	職場：まだわからない
認知症であることを伝えることで社会的なデメリットや制約を受ける可能性があり、慎重にならざるを得ないから。				
—	—	友人：伝えようと思わない	近隣：必要に応じて	職場：伝えようと思わない
積極的に伝えたくない。変に心配されたり干渉されたくない。				
60代	女性	友人：伝えようと思わない	近隣：必要に応じて	職場：回答しない
強いて伝える必要はない。もし知られてしまったら。温かく見守ってほしい。				
30代	男性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
人によって必要性(伝える)が違うから。				
50代	女性	友人：まだわからない	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
認知症のことをあまり知られたくないと思う。ですが、必要があるなら配慮してほしいこともあるので、伝えたいと思う。				
30代	女性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
友人には自分の体験等を伝えることで認知症のことを知ってもらいたいと思うし、職場には迷惑をかける可能性があるのでは伝える必要があると思うが、近隣の人には噂をされるかもしれないので、伝えるのは控えると思う。				
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：伝えようと思わない
恥ずかしい。知られたくない。偏見が怖い。				
50代	男性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：伝えようと思わない
友人に会いたいと思うかどうかかわからないし、近隣の人とは挨拶程度の付き合いだけけれど、職場には過誤があってはならないので積極的に伝えなければならないと思う。				
60代	—	友人：伝えようと思わない	近隣：伝えようと思わない	職場：伝えようと思わない
他人に気を遣わせるだけだから。				
60代	—	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
職場の人に対しては、業務等に支障をきたす可能性を考えて伝えておいた方が良いと思う。友人に対しては、悩みを打ち明けて相談できるようにしたいので伝えておきたい。				
60代	—	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：伝えようと思わない
そこまでの付き合いではない になったら離職すると思う。				
30代	女性	友人：まだわからない	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
誰にでも話せる内容ではない、デリケートな問題に感じるため。				

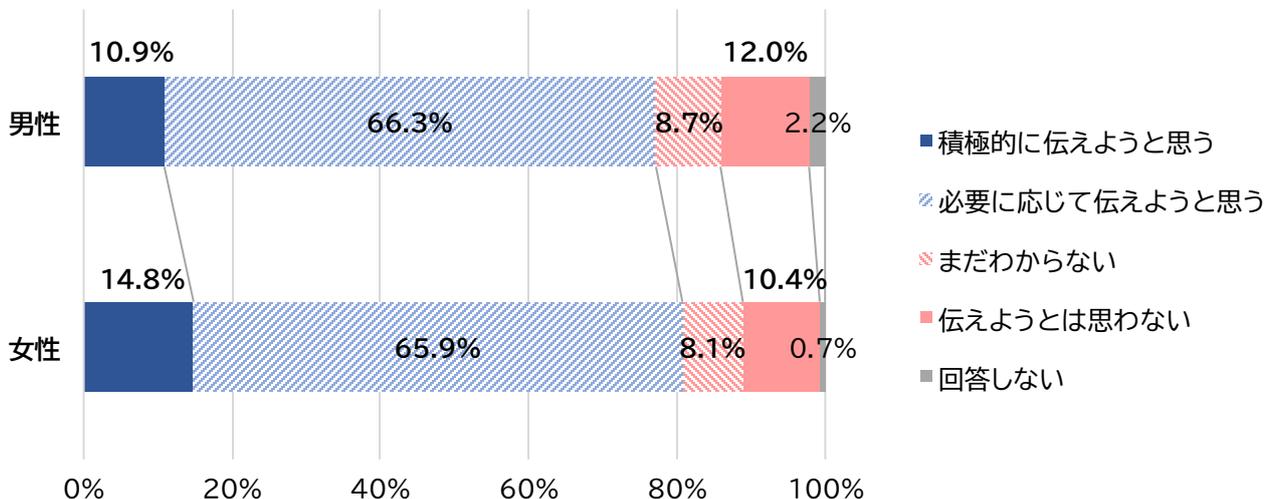
設問③ もしあなたの家族などの身近な人が認知症になったら、友人や近隣の人、職場の人に、家族などの身近な人が認知症であることを伝えようと思いますか。次のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

【友人に対して】

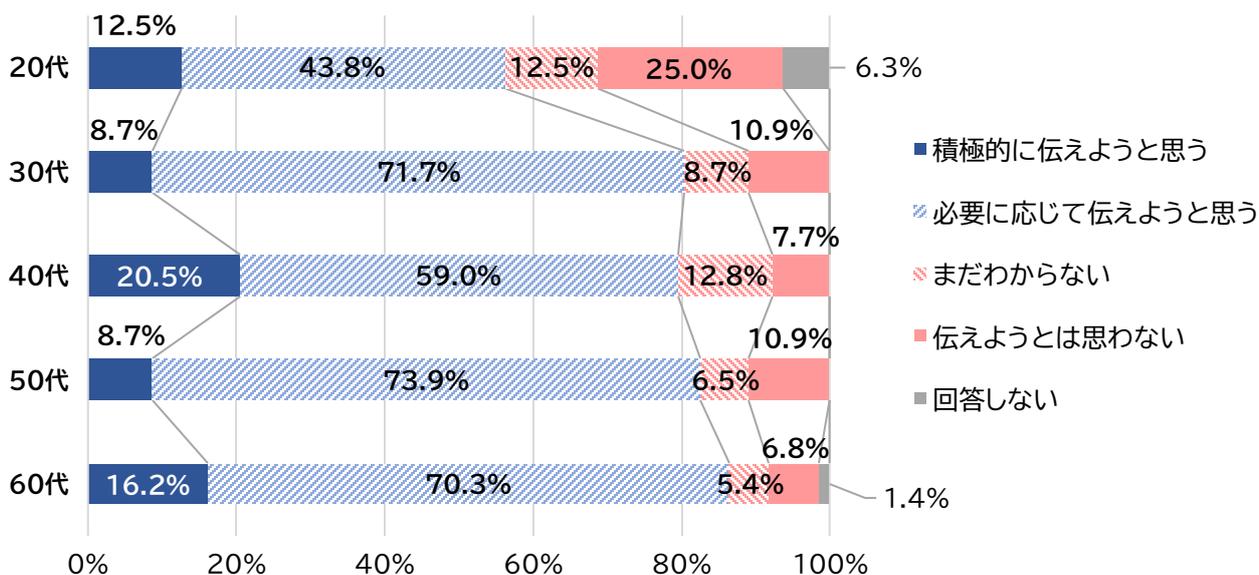
自分の家族などの身近な人が認知症になったとしたとき、友人に対して伝えるかどうかを尋ねたところ、「積極的に伝えようと思う」と回答した人が 34 名(13.9%)、「必要に応じて伝えようと思う」と回答した人が158名(64.5%)、「まだわからない」と回答した人が21名(8.6%)、「伝えようとは思わない」と回答した人が29名(11.8%)でした。「回答しない」を選択した人は3名(1.2%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

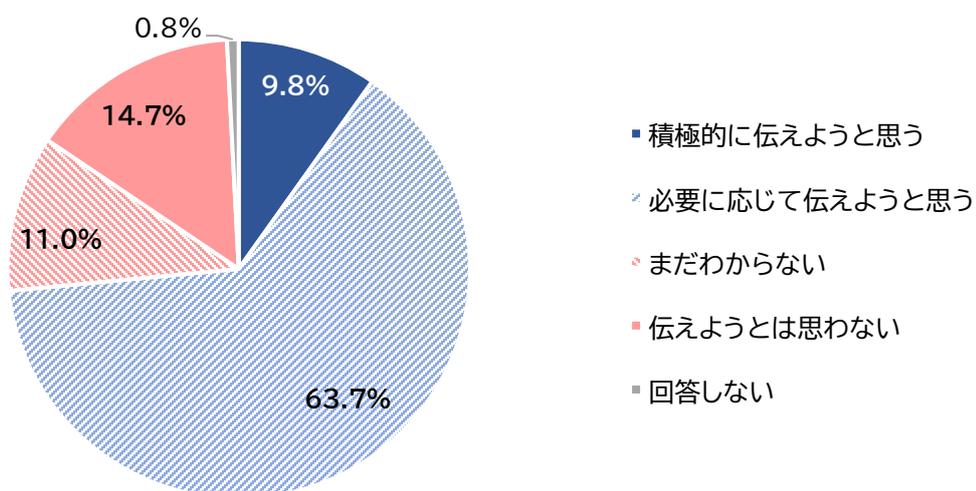


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

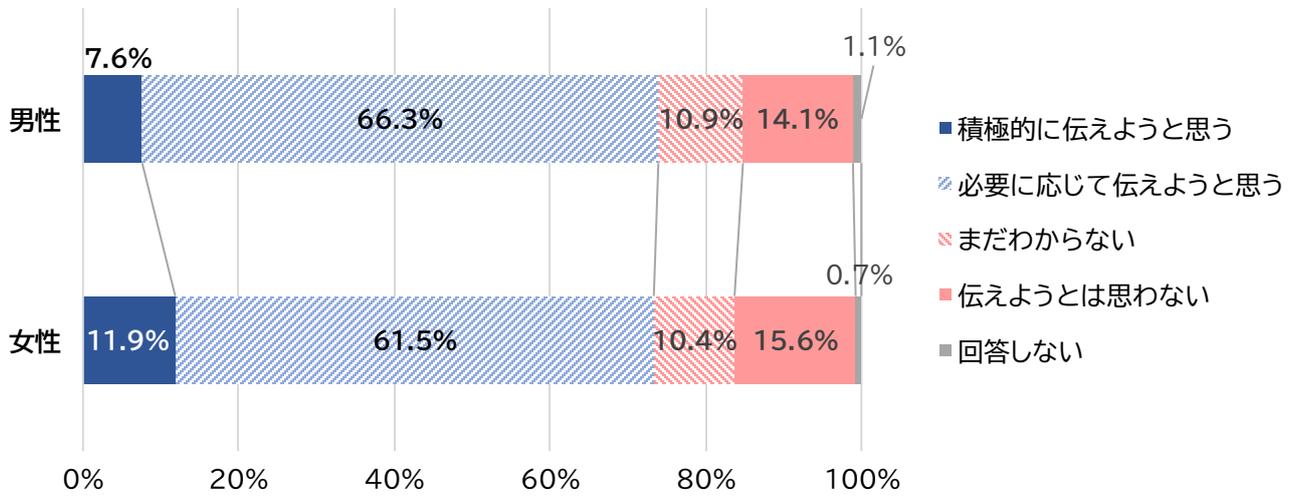


【近隣の人に対して】

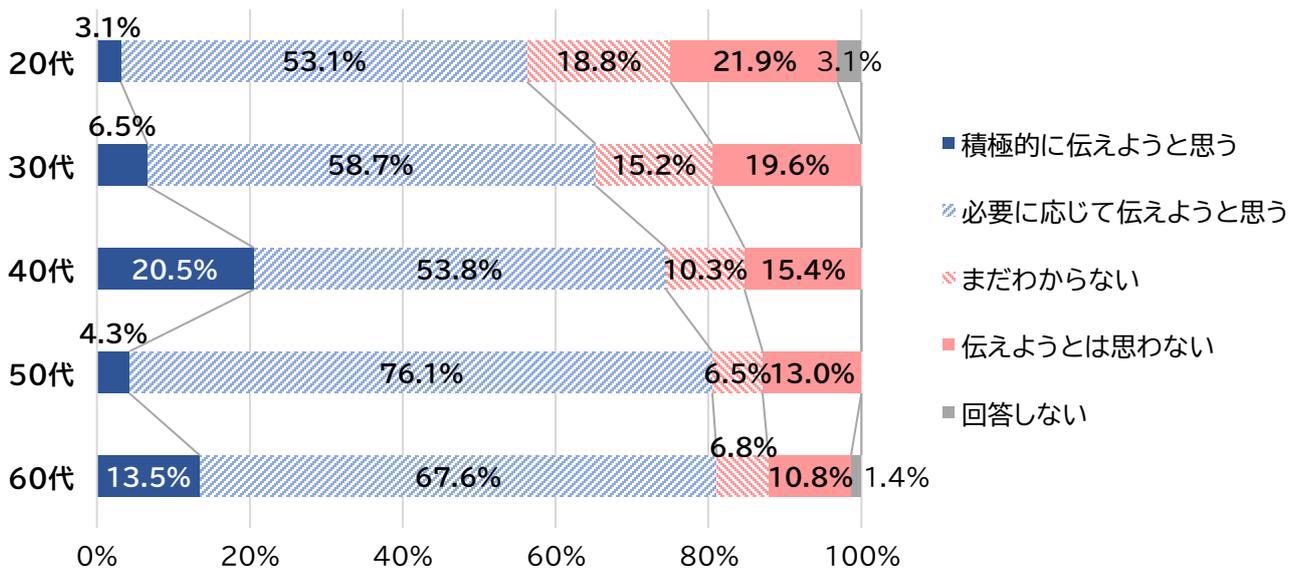
自分の家族などの身近な人が認知症になったとしたとき、近隣の人に対して伝えるかどうかを尋ねたところ、「積極的に伝えようと思う」と回答した人が **24 名(9.8%)**、「必要に応じて伝えようと思う」と回答した人が **156 名(63.7%)**、「まだわからない」と回答した人が **27 名(11.0%)**、「伝えようとは思わない」と回答した人が **36 名(14.7%)**でした。「回答しない」を選択した人は **2 名(0.8%)**でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

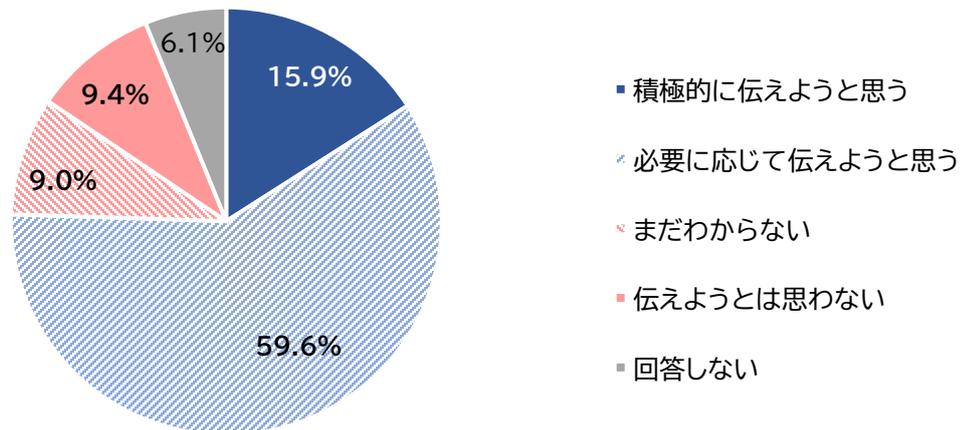


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

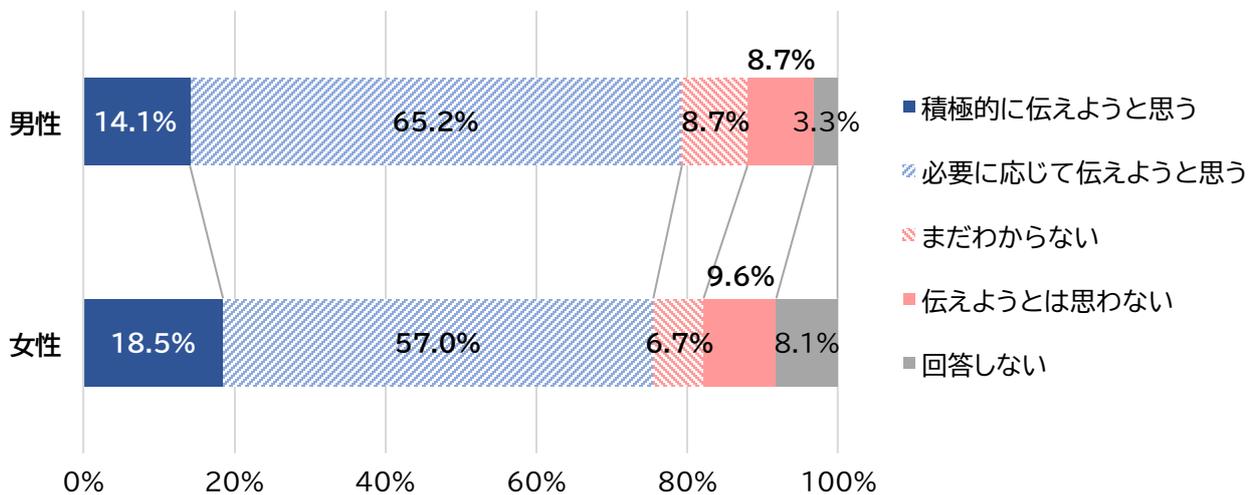


【職場の人に対して】

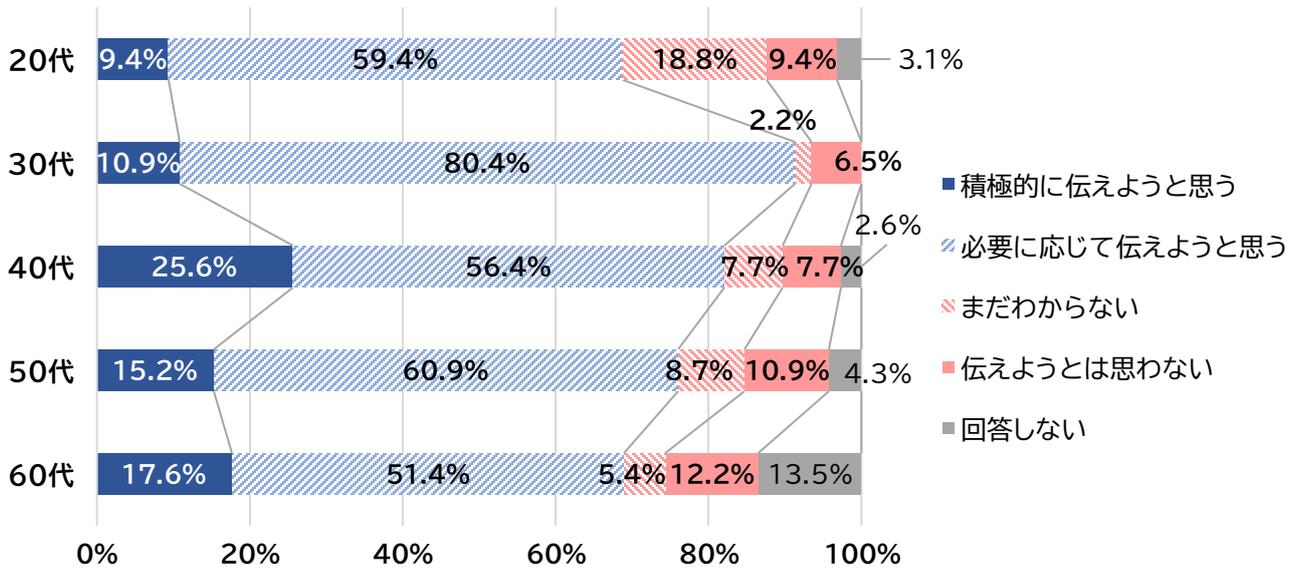
自分の家族などの身近な人が認知症になったとしたとき、職場の人に対して伝えるかどうかを尋ねたところ、「積極的に伝えようと思う」と回答した人が 39 名(15.9%)、「必要に応じて伝えようと思う」と回答した人が146 名(59.6%)、「まだわからない」と回答した人が 22 名(9.0%)、「伝えようとは思わない」と回答した人が 23 名(9.4%)でした。「回答しない」を選択した人は 15 名(6.12%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



設問④ 上記(③)の回答の理由を教えてください。(自由記述)

上記の設問③の回答の理由を自由記述で尋ねたところ、114名から回答が得られました。以下、主な回答を掲載します。

※設問③の回答について、併せて記載しています。なお、下記のとおり表現を省略しています。

- ・友人に対して→友人、近隣の人に対して→近隣、職場の人に対して→職場
- ・積極的に伝えようと思う→積極的に、必要に応じて伝えようと思う→必要に応じて
- 伝えようとは思わない→伝えようと思わない

※年代、性別で「回答しない」を選択されている方は、「-」と表記しています。

年代	性別	設問③の回答		
30代	男性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
周りの方に知っていただいた方が、助けていただけることがあると思うからです。				
30代	女性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
自分のいない時に何かあったら・・・と思うと心配なので、周囲の人には知っていてもらいたい。				
60代	女性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
自身の状況を伝えておくことで、急なでき事に対してのサポートを受けやすいと思われるから。				
60代	男性	友人：積極的に	近隣：積極的に	職場：積極的に
周りの人に理解頂き 対応願いたい。				
-	-	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
様子がおかしいならいつかわかることですし、聞かれたら答えます。仕事関係は伝えないと迷惑をかけてしまうのでわかる範囲で連絡はします。				
40代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
②と同じです。職場には伝えないと業務に支障が出るから。友人、近隣の方は、必要な範囲で良いと思う				

から。				
30代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
②の回答と同じ。自分を理解してもらうためと、迷惑を掛けないため。				
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
仕事に関しては職種にもよるが、初期段階で言わないと迷惑になると思うが近隣に対しては認知症の程度によると思う。その辺はなかなかデリケートな問題になってくるので。				
20代	女性	友人：積極的に	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
介護するにあたって、急な休暇や早退など、必要になってくると思うため、理解を得るために伝えたい。				
60代	女性	友人：積極的に	近隣：必要に応じて	職場：積極的に
家族と関わりのある人達には伝えた方が迷惑をかけずに済むと思うから。				
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
家族の認知症によって、介護などが必要になり私自身の行動に制限がでしてしまうようなことになった時には、必要に応じて知らせたほうが理解が得られると思うから。(職場、友人)				
40代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
自分が認知症の人をサポートしていることを理解してもらうため。また、必要な時に支援してもらうため。				
40代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
積極的に伝える必要はないと思うが、認知症であることを周囲に知っておいてもらった方が良いことも多い。機会をとらえて、伝える必要はあると思う。				
50代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
自身のおかれている状況などをある程度知っておいてもらいたいので。				
30代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
伝えることで、本人または自分にとってメリットがある際に伝える。				
60代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
②に同じ。どのように思われるか気になるが、必要ならやむを得ないため。				
40代	男性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
急に対応が必要な場面も想定されるため。				
40代	女性	友人：必要に応じて	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
家族の状態をわかってくれている方が、何かあった時に話が早い。ちょっとしたサポートが必要な時もあるから。迷子になっていたりした時、近所の方が理解してくれていたら助けてくれたり報告したりしてくれる。				
50代	女性	友人：まだわからない	近隣：まだわからない	職場：まだわからない
その時の状況によるのでわからないです。				
20代	—	友人：まだわからない	近隣：まだわからない	職場：まだわからない
先に個人の意思を確認しておきたいため。				
40代	男性	友人：まだわからない	近隣：まだわからない	職場：まだわからない
家族のこと等はあまり相談しないから。				
40代	女性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
必要であれば家族の病気を伝えるがむやみには情報を出す必要はない。				
20代	女性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
自分自身の生活スタイルが介護等で変わる可能性があるので、自分の場合と同じく、職場の人や友人には正しく理解してもらっていた方が良いと思うため。				
20代	男性	友人：伝えようと思わない	近隣：必要に応じて	職場：必要に応じて
身近な人には伝えたいが、関係が深くない人はどう思われるかわからないので、伝えるのを躊躇する。				

60代	男性	友人：必要に応じて	近隣：伝えようと思わない	職場：伝えようと思わない
基本的には伝えようとは思わないが、友人については必要最低限で伝えるのではないかと思う。				
30代	女性	友人：まだわかならい	近隣：伝えようと思わない	職場：必要に応じて
基本的には伝えようとは思わないが、友人については必要最低限で伝えるのではないかと思う。				
40代	女性	友人：伝えようと思わない	近隣：伝えようと思わない	友人：伝えようと思わない
本人が伝えたくないかもしれないので。				
20代	女性	友人：伝えようと思わない	近隣：伝えようと思わない	友人：伝えようと思わない
当事者にとって失礼な行動だと思う。				
60代	男性	友人：伝えようと思わない	近隣：伝えようと思わない	友人：伝えようと思わない
他人に気を遣わせるだけだから。				

設問⑳ 自らの考えや思いを伝えられなくなったときに備えて、「大切にしていること」や「望む医療やケア(介護など)」について、エンディングノート^{※6}などに記録したり、家族や大切な人と話し合っ^{※7}ておいたりすることは大切だと思いますか。次のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

※⁶ 奈良市では令和3年4月より、エンディングノート「わたしの未来ノート～おもいをあなたに伝えたい～」を作成・発行しています。市役所や地域包括支援センターなどの窓口で配布しているほか、ホームページからもダウンロードしていただけます。

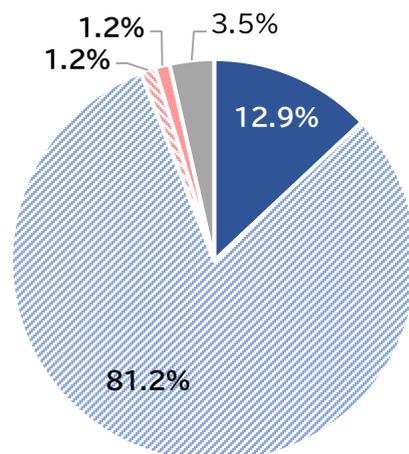
※⁷ 「もしものとき」に備えて、大切にしていることや、どこでどのような医療やケアを望んでいるかなどについて、自分自身で考え、信頼している人たちと話し合い共有することを「人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。

(お詫び)

オンライン調査において、設問⑳の設定に誤りがあり、回答が反映されていない期間がありました。途中で設定を修正し、正常に反映された回答の集計結果を報告いたします。申し訳ございませんでした。

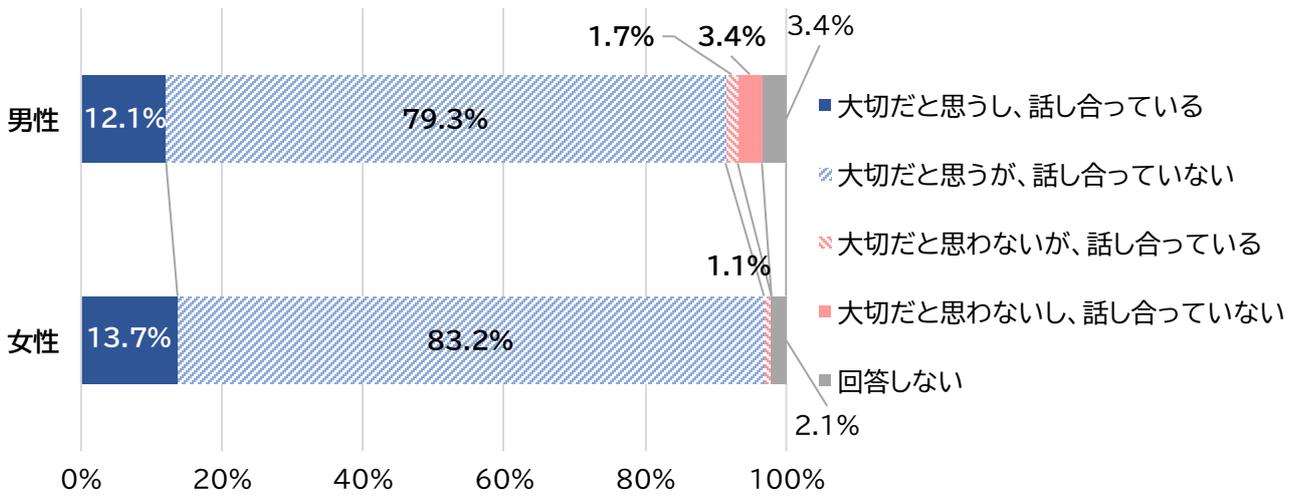
【自分ごと】

自分のことについて、自分の考えや思いを伝えられなくなったときに備えて、「大切にしていること」や「望む医療やケア」について、記録したり話し合っておくことについてどう思うかを尋ねたところ、「大切だと思うし、話し合っている」と回答した人は22名(12.9%)、「大切だと思うが、話し合っていない」と回答した人が138名(81.2%)、「大切だと思わないが、話し合っている」と回答した人が2名(1.2%)、「大切だと思わないし、話し合っていない」と回答した人が2名(1.2%)でした。「回答しない」を選択した人は6名(3.5%)でした。

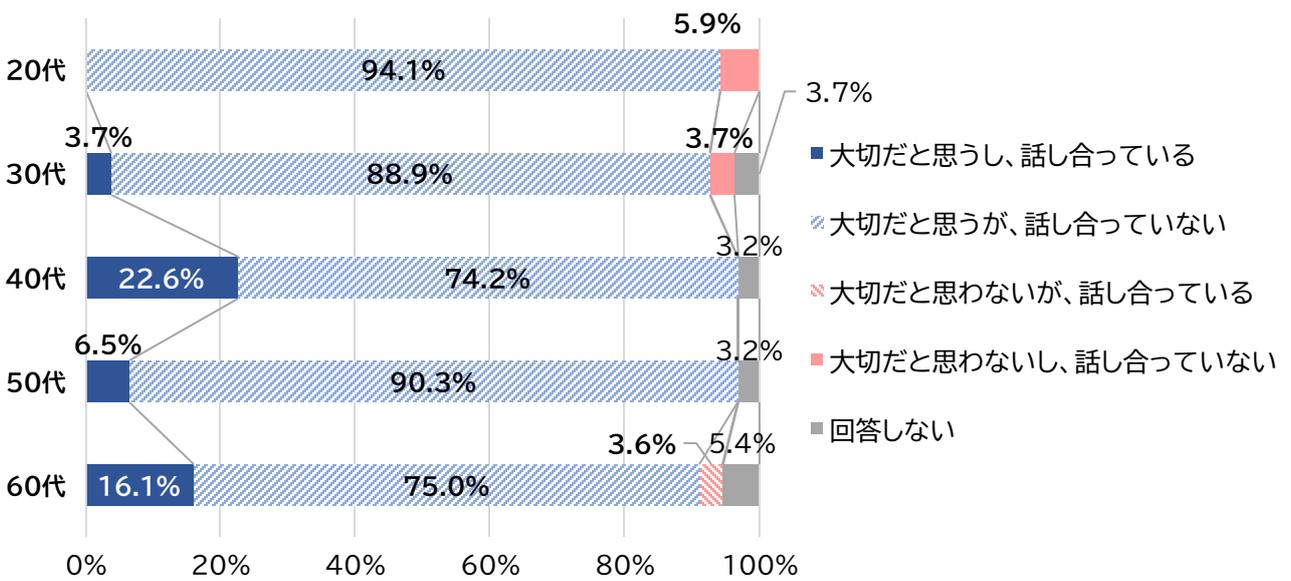


- 大切だと思うし、話し合っている
- 大切だと思うが、話し合っていない
- 大切だと思わないが、話し合っている
- 大切だと思わないし、話し合っていない
- 回答しない

性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

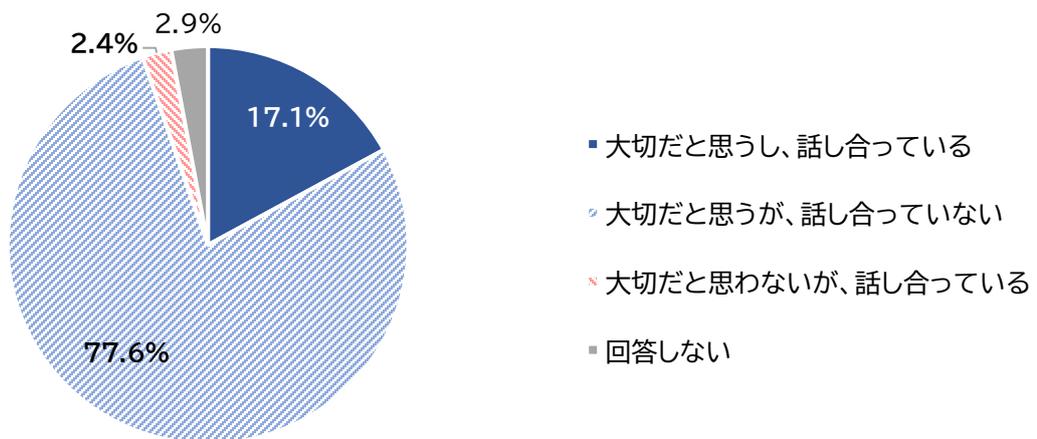


年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

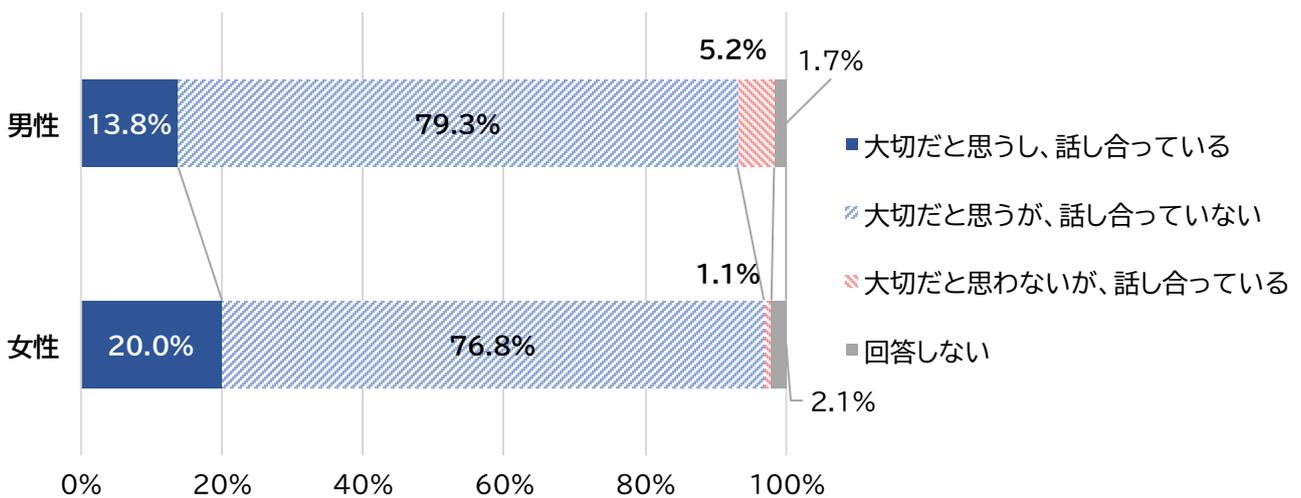


【家族などのこと】

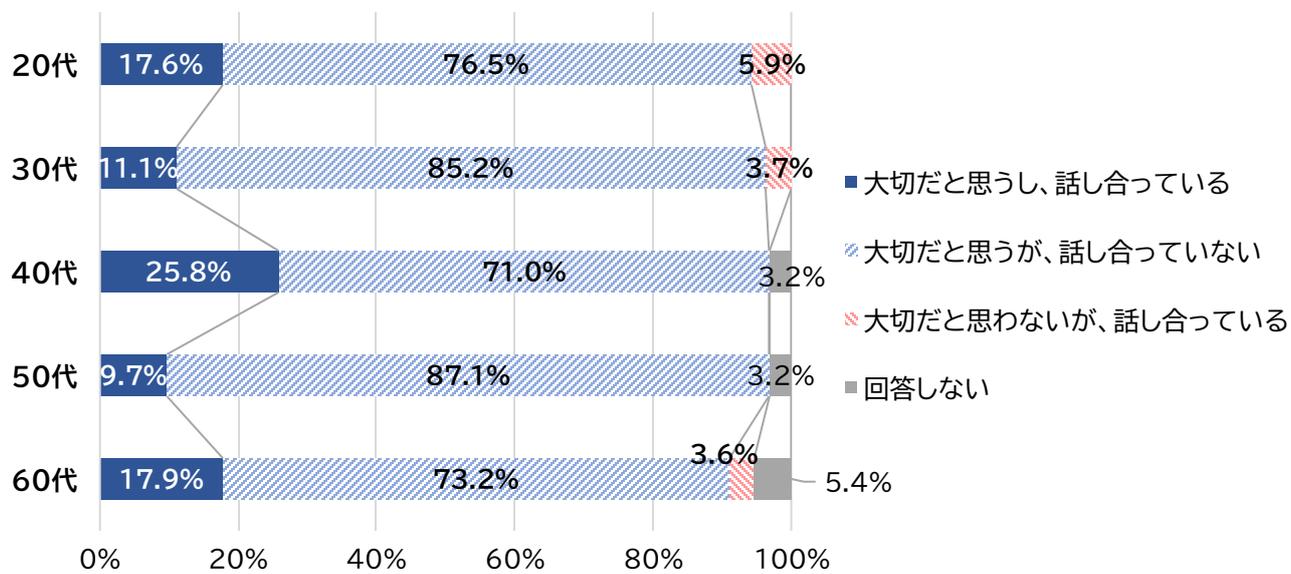
家族などのことについて、家族が自分の考えや思いを伝えられなくなったときに備えて、「大切にしていること」や「望む医療やケア」について、記録したり話し合っておくことについてどう思うかを尋ねたところ、「大切に思うし、話し合っている」と回答した人は29名(17.1%)、「大切に思うが、話し合っていない」と回答した人が132名(77.6%)、「大切に思わないが、話し合っている」と回答した人が4名(2.4%)、「大切に思わないし、話し合っていない」と回答した人はいませんでした。「回答しない」を選択した人は5名(2.9%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



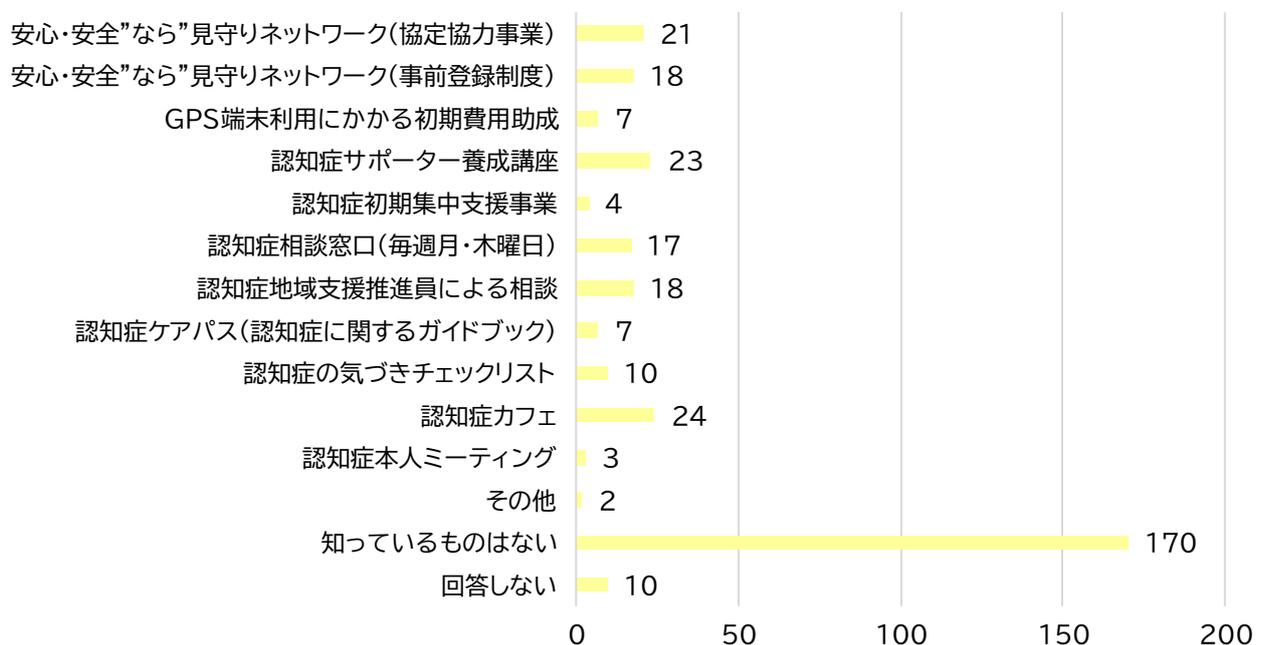
5. 奈良市の認知症に関する取り組みについて

設問②⑥ 奈良市が実施する認知症に関する取り組みのなかで、知っているもの、聞いたことがあるものを選択してください。(複数選択可)

奈良市が実施する認知症に関する取り組みの中で知っているもの、聞いたことがあるものを複数選択可で尋ねたところ、「知っているものはない」と回答した人が最も多く**170名(69.4%)**でした。

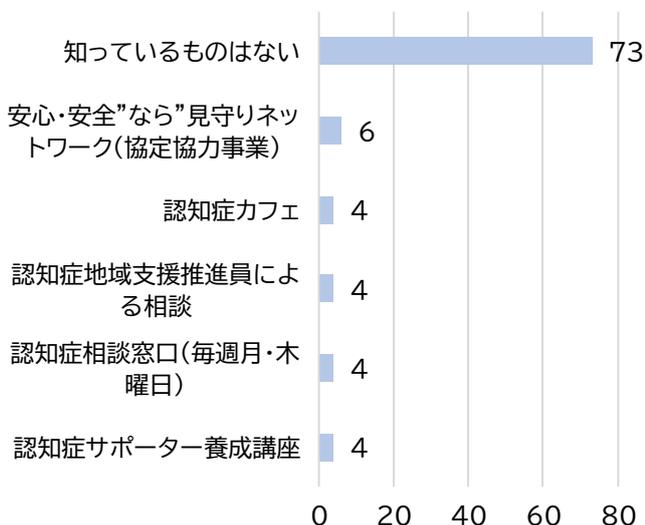
次いで「認知症カフェ」が**24名(9.8%)**、「認知症サポーター養成講座」が**23名(9.4%)**でした。

「その他」を選択した人は2名で、その内容は「見守りネットワークは知っていたが、2種類あることは知らなかった」であった。(1名は記載なし)

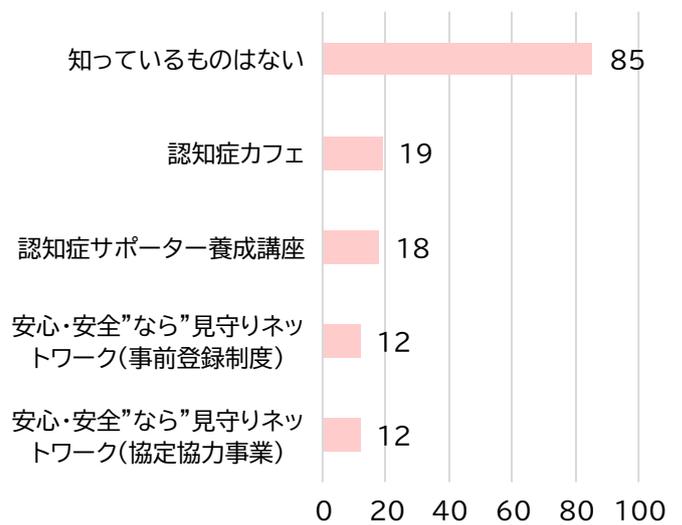


年代、性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。

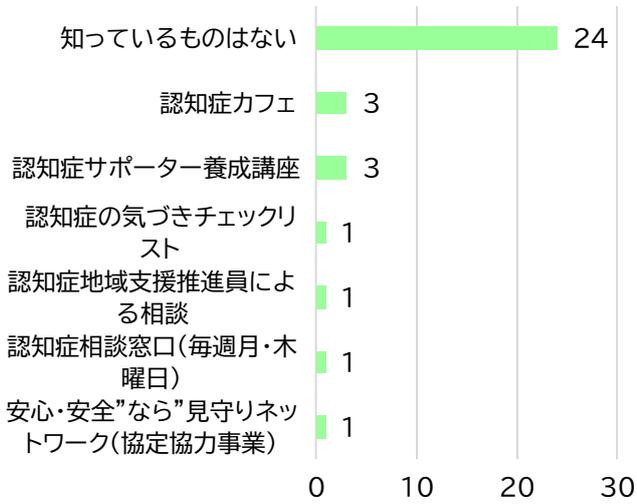
男性 計92名 上位5項目



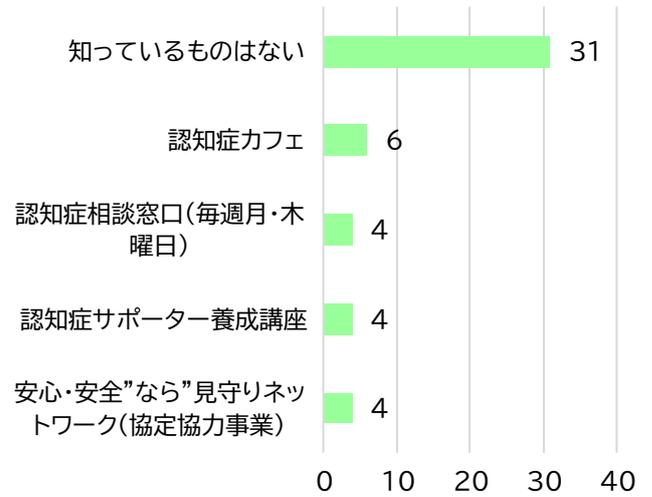
女性 計135名 上位5項目



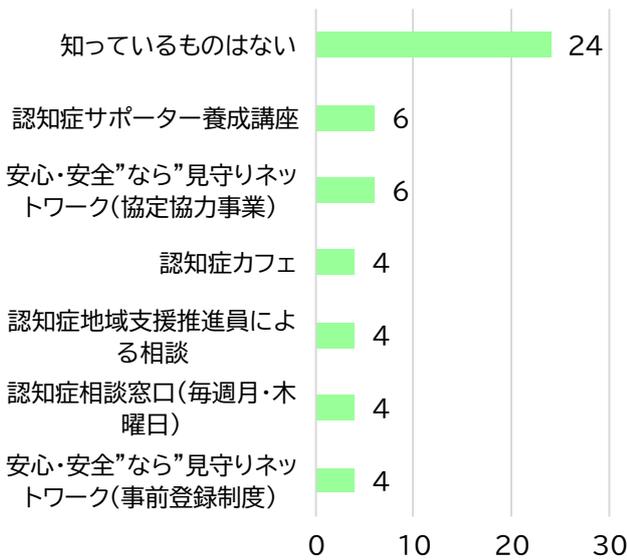
20代 計32名 上位5項目



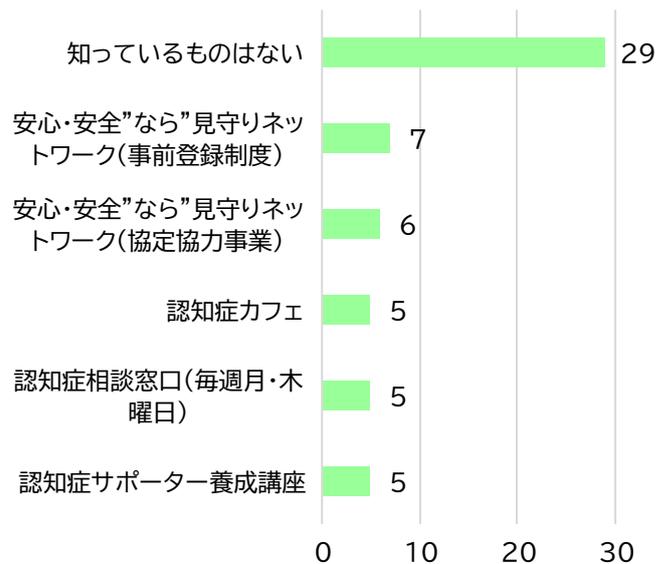
30代 計46名 上位5項目



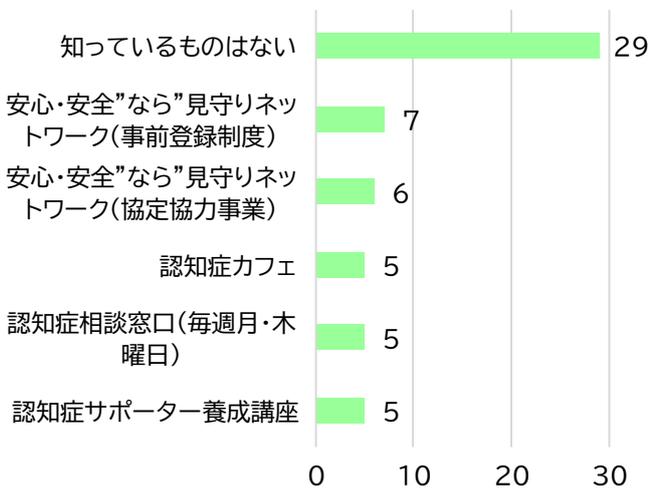
40代 計39名 上位5項目



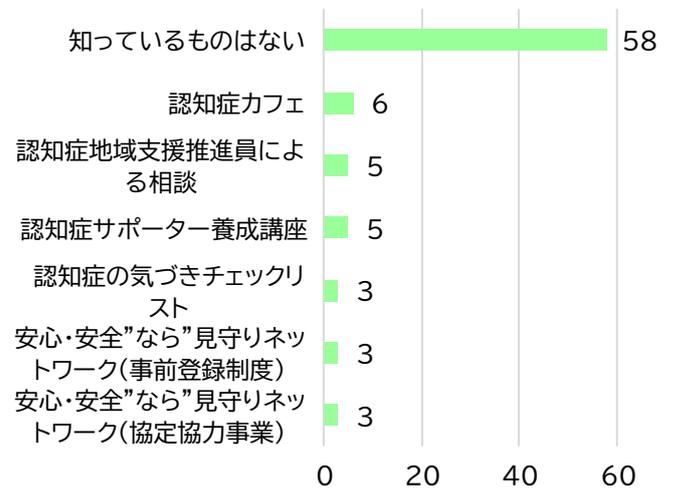
50代 計46名 上位5項目



50代 計46名 上位5項目



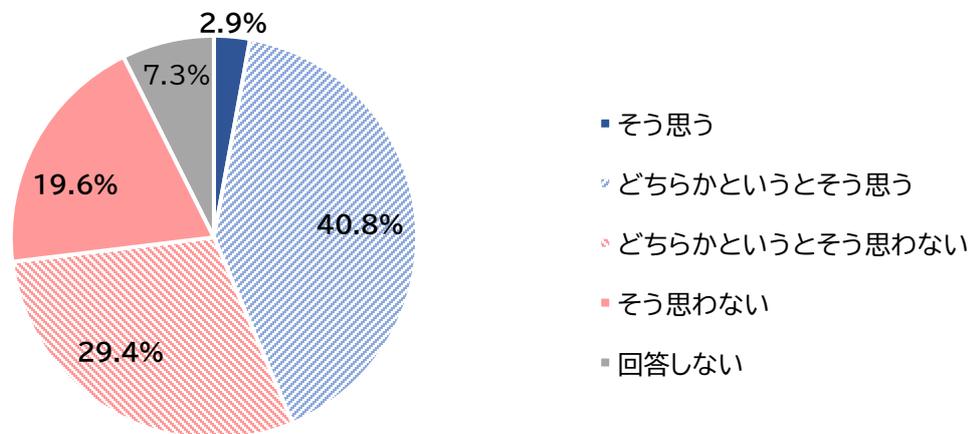
60代 計74名 上位5項目



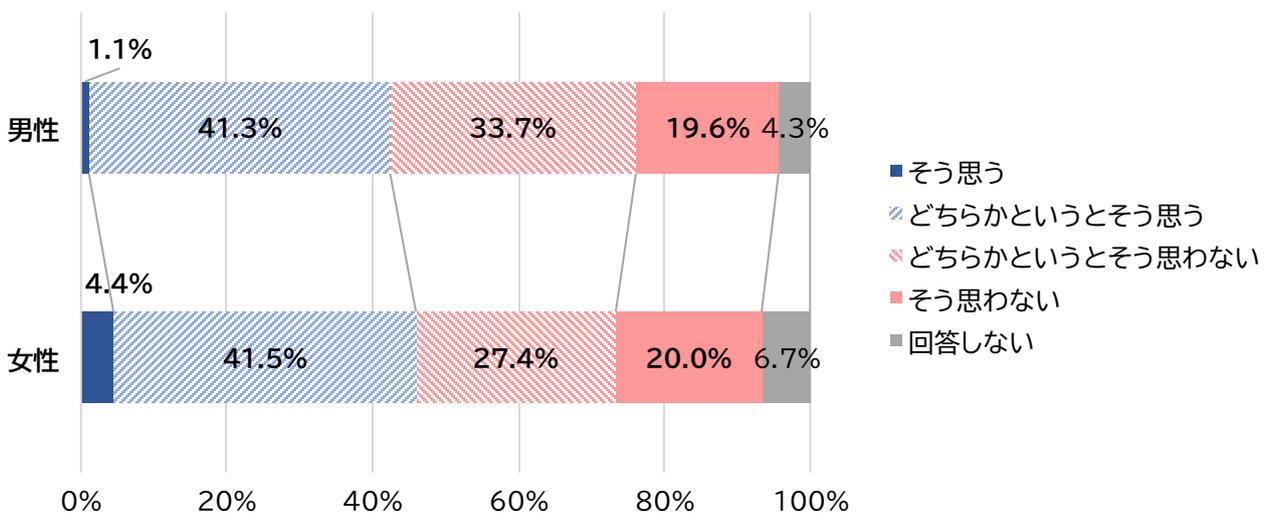
全ての分類において、「知っているものはない」が過半数を超える結果となりました。

設問⑦ 奈良市や地域で実施する認知症に関する講座やイベントに、参加者として参加してみたいと思いますか。あてはまるものを選択してください。

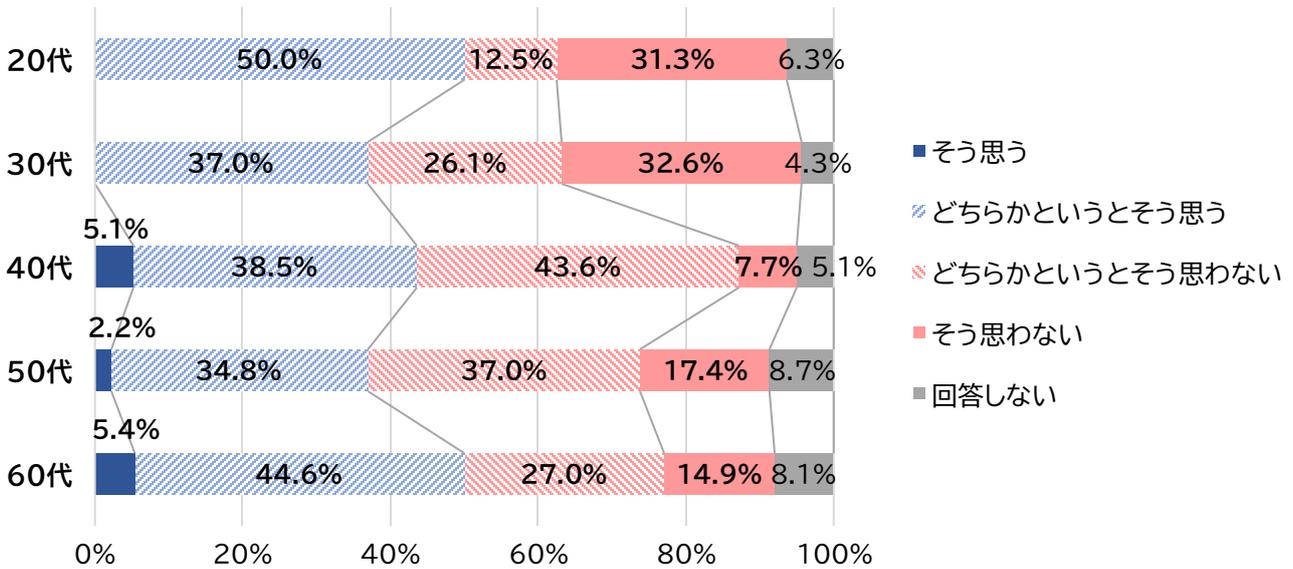
奈良市が地域で実施する認知症に関する講座やイベントに、参加してみたいと思うかどうかを尋ねたところ、「そう思う」と回答した人が7名(2.9%)、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人が100名(40.8%)、「どちらかというと思わない」と回答した人が72名(29.4%)、「そう思わない」と回答した人が48名(19.6%)でした。「回答しない」を選択した人は18名(7.3%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



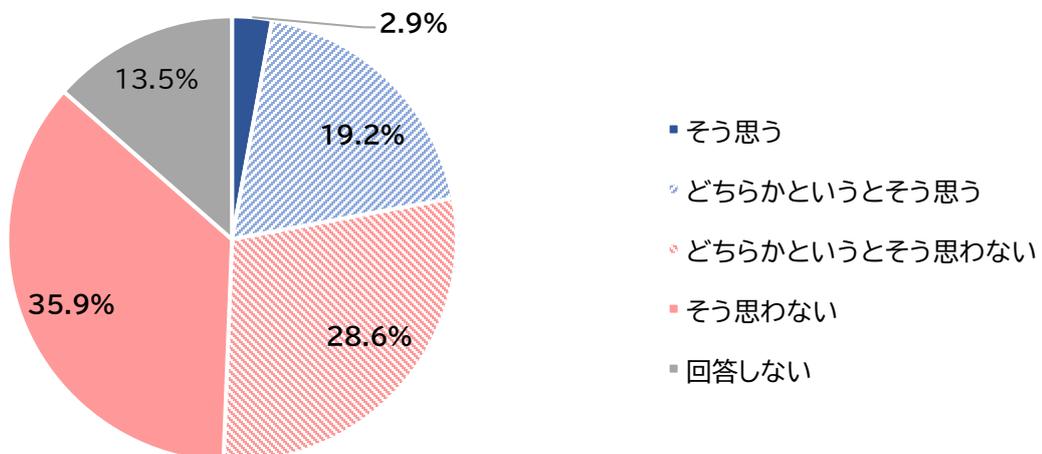
年代ごとの集計結果は下記のグラフのとおりです。



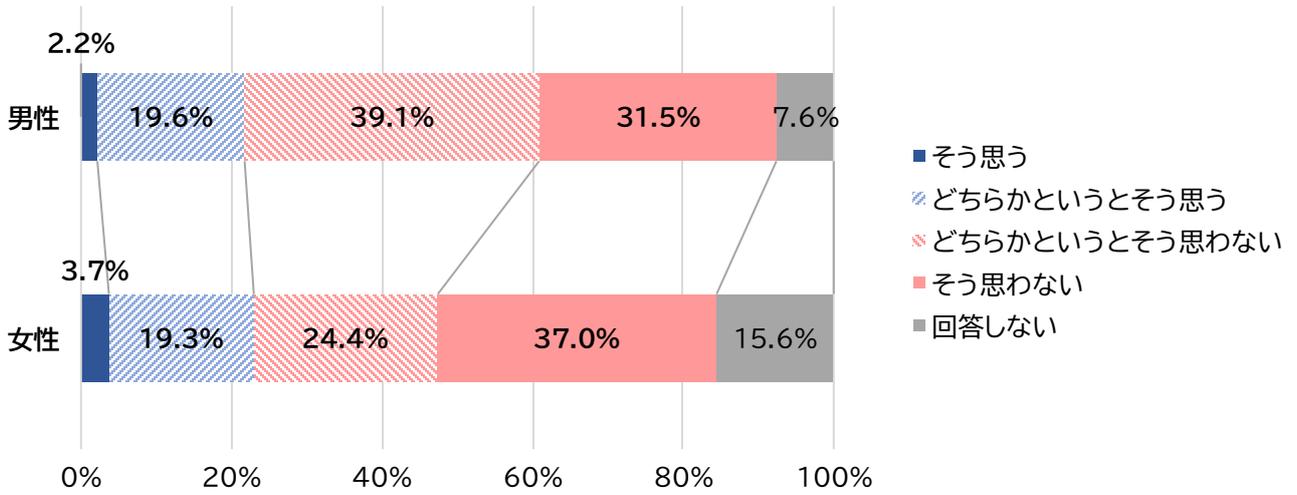
設問⑳ 奈良市や地域が実施する、もしくは実施を検討している認知症に関する取り組みに、企画・運営として参加してみたいと思いますか。次のそれぞれについて、あてはまるものを選択してください。

【市や地域が実施する取り組みへの運営としての参加について(認知症カフェのボランティアなど)】

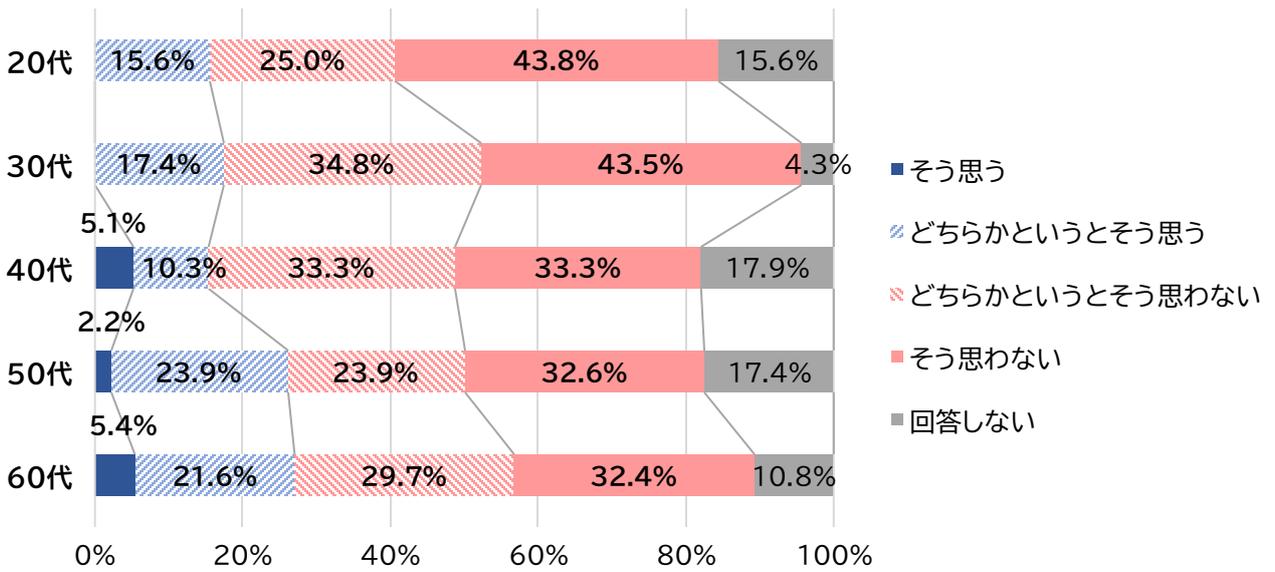
奈良市や地域が実施する取り組みに、運営として参加してみたいと思うかを尋ねたところ、「そう思う」と回答した人が7名(2.9%)、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人が47名(19.2%)、「どちらかというと思わない」と回答した人が70名(28.6%)、「そう思わない」と回答した人が88名(35.9%)でした。「回答しない」を選択した人は33名(13.5%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のとおりです。

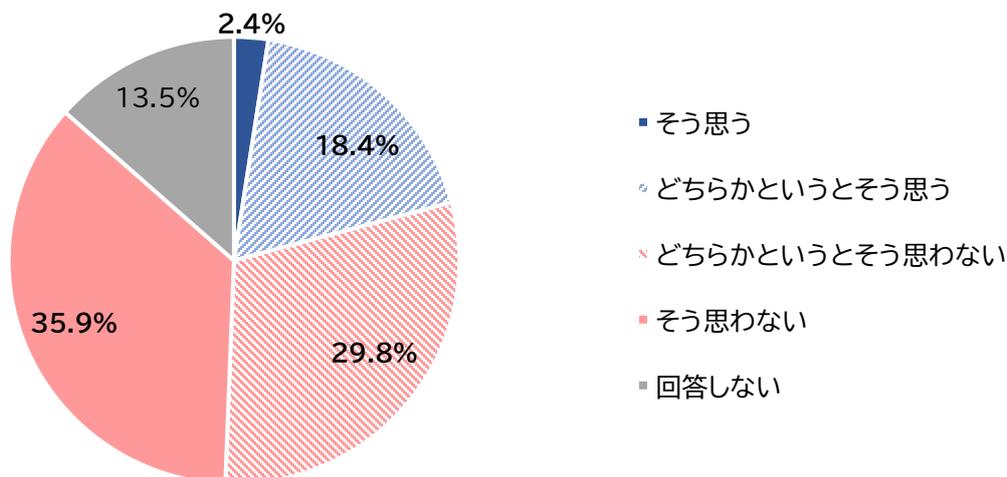


年代ごとの集計結果は下記のとおりです。

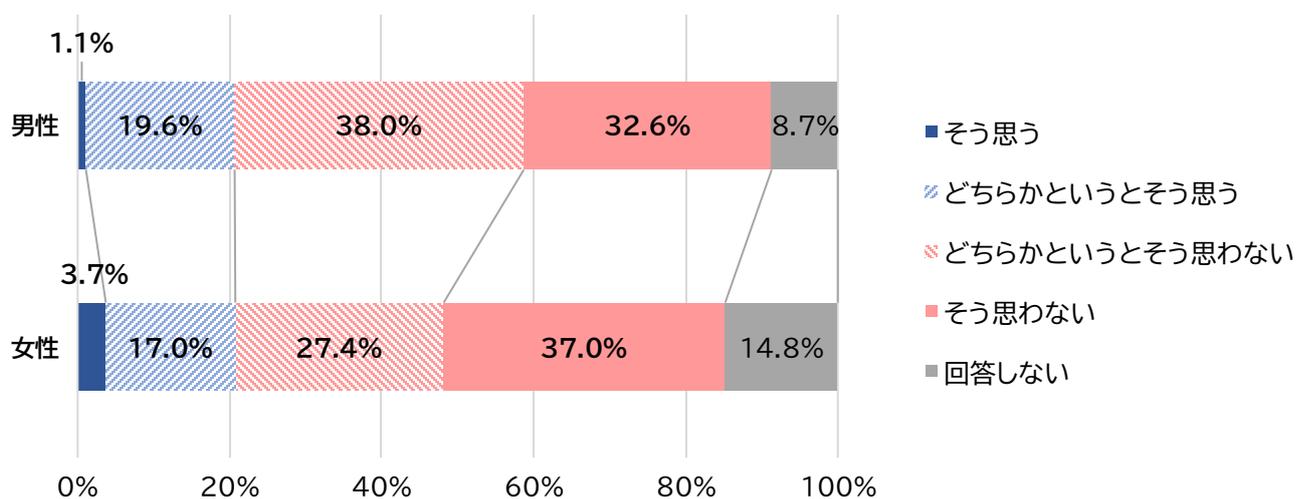


【市や地域が実施を検討する取り組みへの企画段階からの参画について】

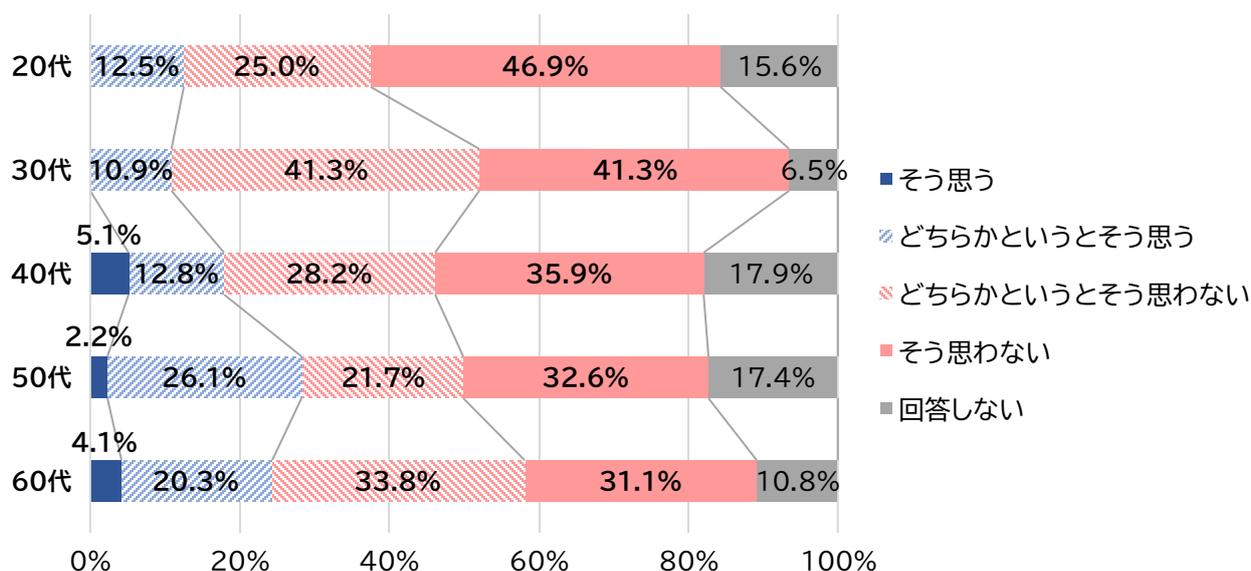
市や地域が実施を検討する取り組みへの企画段階から参画したいと思うかを尋ねたところ、「そう思う」と回答した人が6名(2.4%)、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人が45名(18.4%)、「どちらかというと思わない」と回答した人が73名(29.8%)、「そう思わない」と回答した人が88名(35.9%)でした。「回答しない」を選択した人は33名(13.5%)でした。



性別ごとの集計結果は下記のとおりです。



年代ごとの集計結果は下記のとおりです。



設問⑳ 奈良市の認知症に関する取り組みへのご意見、認知症について感じていること・考えていることなど、何でもご自由にお書きください。（自由記述）

奈良市の認知症に関する取り組みへのご意見、認知症について感じていること・考えていることなどを自由記述で尋ねたところ、81名から回答がありました。いくつかの回答を抜粋して掲載します。

※年代、性別で「回答しない」を選択されている方は、「－」と表記しています。

年代	性別	回答
20代	男性	認知症(あるいは老い)は本当に寂しさと呼ぶものだと感じる。今まで得意だったことができない。できて当たり前だったことができない。読めない、話せない、思考できない。 そういう経験から自尊心の喪失感を招くものだと感じます。
50代	女性	大切な人のことを思い出すことができなくなっても最後まで自分らしく人生を楽しく生きる世の中に、そして政治、自治体になることを望みます。好きなこと、やりたいこと、お金のこと財産のこと、一人一人が生活する、生きていくうえで差別されたり非難されたり自由を奪われることがないようにしてほしいし、とりくみを考えることが大切です。
－	－	家族が認知症の身内を見てあげられない時、介護施設等頼れますが、大人数を抱えている施設は、個々のことまで親身になって見れないと思います。実際、私の身内も一人ぼっちにされている時ありました。けど、お互い姉妹生活があり、施設にお任せするしかできない弱みというところもあり、きつく言えない色々な葛藤がありました。
50代	女性	認知症専門の施設等の充実を望む。
60代	女性	夫の母が亡くなる前に認知症になりました。その当時、私は認知症の理解があまりなかったのです。それで義母に上手に接することができなかつたので、とても後悔しております。家族の方が認知症になると本当に大変とは思いますが、最後まで愛

		情のある接し方ができるようにある程度のゆとり(経済的、精神的)がほしいものです。
30代	男性	知らない取り組みもあったので、市民がどうすれば知れるか広報を進めていただけたらと思います。
50代	男性	現状、あまり考えることができていない。
60代	男性	取り組んでいるというポーズで終わらないよう、実効性のある取り組みをしてほしい。
50代	女性	認知症の家族として介護の仕方が難しいです(要介護5)。どのくらいになると施設に入れたほうが良いのか日々悩んでおります。介護は大変ですが、車イスでもデイサービスに行ったり、友人と会ったり楽しそうにしているところを見ると、ぎりぎりまで在宅でいたほうが良いのかなとかいろいろ考えています。
60代	女性	親も含めて、周りに「認知症」の方がいらっしゃるなかったのですが、TVで「認知症」の方を見たりして、やはり心配、不安になりました。が、今特に行動することもなし…。
30代	女性	・市や地域の取り組みがあっても、やはり家族の負担になるのは確かだと思う。結局は同居、近くに住んでいない限り住み慣れた家で生活していくのは厳しい。 ・ホームなどに入ると症状が悪化するイメージが強い。
40代	男性	具体的に、どういった取り組みを行っているのかまったく知らないなので、積極的に情報発信をしていただけるとありがたい。 特に、認知症の予防についての情報があれば、詳しく知りたいと思う。
50代	女性	①奈良市において、認知症の取り組みをされていると思いますが、なかなか日々の生活において見えてこない状況。(しみんだよりをざっと読む程度) また、講習なども実施されていると思いますが、平日不在の方が多いと思うため、日程の設定にも工夫が求められると思う。 ②がん検診・各種健診受診票の中に、認知症に関するものを含めることはできないか。 医療機関で受診確認をしていただくと、受診者ご本人も行政機関も状況を把握しやすくなるのではないかと費用の問題が発生するが、対象年齢の方に受診票を入れることにより、受診者も気軽に受けやすくなるのではないかと考える。
50代	女性	奈良市の行政が行き届いているとは思えない。動ける職員も少ない中、認知症の取り組みまでできるのか疑問に思う。
20代	女性	いろんな制度やサービスがあることを知らなかった。まだ育児や仕事がある年齢のうちには企画や運営に携わるのが難しいが、家族(親)が認知症になることがあれば相談など利用させてもらいたいと思った。
30代	女性	義父が認知症だったのでとても身近に感じる。デイサービスの方がとても親切にしてくださったのがありがたかった。
60代	女性	認知症と診断される前、つまり認知症予備軍に対しても少し考えた方が良くと思います。これからますます増加して行くので、それも視野に入れて独居老人などのサポートが必要になるのではないかと思います。
30代	男性	認知症をはじめ、生き辛さを持った人が暮らしやすい奈良市になってほしいです。知らないことが多く不安です。96歳の祖母は田舎で一人暮らしをしていましたが認知症を発症しました。同居するもうまくいかず施設入所しました。地域で暮らしたいと常に言っています。
30代	男性	自分にふりかかるとても身近な事なのに、意識が希薄でまだ実感がわかない。協力すること、参加したりすることの大切さもわかりながら、日々に追われ、自分自身の問題としてとらえにくい。
50代	女性	子どもの頃、祖母が認知症でした。今から40年以上も前のことです。 その当時に比べて、認知症に対する考えも変わったのは実感しますが、まだまだ不

		<p>安は尽きません。今回、このような意識調査に関わらせていただいたことをきっかけとし、知識を深め少しでも不安が和らぐような行動ができればいいな、と思います。</p> <p>もちろん、行政にも頑張ってくださいたいです。</p>
40代	女性	<p>自分や家族が認知症になったら…と不安です。今回、このようなアンケートに参加させていただき、認知症に対する(関する)取り組みや支援を少しでも知ることができて良かったです。</p>
30代	男性	<p>行政に様々な取り組みが行われていることを知った。これらの周知がさらに進むことを期待する。数年後、この意識調査を再度行い、計画や施策の効果を確認及び検証してほしい。</p>
40代	女性	<p>認知症について、簡単に知識を身に付けてボランティアできるような安易なことではないように思う。金融機関に勤務しているが、認知症の方との接し方や対応、これからもっと考えていかなければならないと思う。</p>
60代	女性	<p>緊急時の対応(夜間など)の充実。民間サービスでは高額で、内容も限定的。できるだけ、環境を変えずに家族支援で暮らしていくには、「いつでも、どこでも」のサポートが必要だと強く感じている。兄弟が遠方だったり、老々介護であったりすると、「自分しかいない…」と追い詰められ、介護者自身、自分らしい生活が奪われる。</p>
60代	女性	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは認知症についての理解が必要なので、そのための講座に参加できたらと思います。 ・次に市からの取り組んでいる内容の講座があると良い。 ・もし認知症になっても何とかなる、大丈夫と思える市であってほしいと切に思います。
20代	女性	<p>私の周りに認知症の人がいないため、あまり想像がまだできていませんが、これから家族や自分になる可能性があると思うと、相談しやすい場が大事だと感じています。よくスーパーに行くと、認知症カフェの広告が貼っているのを見かけるので、素敵な取り組みだと思いながら拝見していました。</p>
30代	女性	<p>20代、30代などの若い世代にも認知症のことを知ってもらうためのイベントやSNSを使用しての配信などがあっても良いと思う。</p>
30代	女性	<p>高齢者の多い奈良市において、話し合い実現していきたい理想はたくさんあると思いますが、どんなことでも実践してみて少しずつ生活しやすい町にかわっていきといいな～と思います。自分もですが、自分の家族や周りが生きやすいと思えると嬉しいです。認知症の方が過ごしやすい＝どんな人でも、誰でも過ごしやすいと思うので、福祉部の方々、応援しています。お疲れのでませんよう。</p>
50代	女性	<p>自分や家族に認知症の者がいないため、今まであまり意識していませんでした。自分の将来に認知症になった時の心配はありました。奈良市の取り組みについて、ありがたく、少し安心しました。認知症について考える良い機会になりました。</p>
20代	女性	<p>今回の意識調査で初めて知れたこともあった。若いうちから身近に感じておくことで、自分自身や周りの人が患っても対応を検討していけると思う。</p>
30代	女性	<p>認知症の方が車を運転して大きな事故が起きてしまわないか懸念しています。奈良は買い物に行くにも、病院に行くにも、交通手段が基本的に自家用車になるので、お年寄りなかなか免許返納しづらい状況かと思います。免許がなくても生活に困らないような町づくりが大事なのかなと思います。例えば、近隣にスーパーがあって歩いて行けたり、運転の代行サービスなど。</p>
60代	女性	<p>認知症になったら相談するところ教えてほしい。医療、介護どうしたら良いかわからない。</p>
20代	女性	<p>認知症についての理解を多くの人に深めてほしい。認知症の人と近くで接する方は、とくに理解が浅いとよりストレスを感じ、高齢者虐待につながるので、それを防いでほしい。とくに、介護施設に預ける家族が、その施設で虐待や必要なケアが受けられないことを知ったらショックを受けるだけでなく、それは犯罪であるため、</p>

		通報や情報提供があったときは市にしっかりと受け止めてもらい、対応をしっかりととってほしい。
40代	男性	認知症になったご家族の大変さを受け止めて、支援する取り組みを積極的に行ってほしいと思っています。
50代	男性	・家族が認知症かな？と思ったらどうするのか。 ・認知症と言われたらどういう準備が必要で、またどんな事を知っていくべきなのか。 わかりやすく説明した冊子等を各家庭に配布する等して、日常的に知っておけるようにしてほしい。病院へ行くまで何もわからない・・・等がないようにしてもらいたい。
60代	女性	西部公民館など、アクセスの良い場所で認知症についての講座を開いてほしい。予防から施設への入居など、あらゆる悩みに応じた講座を開いていただけると安心できます。今はあらゆる窓口があって、一体どこにどう相談したらいいかわからないので、全て一本化していただけるとありがたい。
40代	男性	本人の意見や人権を尊重した取り組みを期待します。
40代	女性	自分が認知症になってしまったら、どうやって生きていけばいいのか、もし暴れてしまった場合どういう対処の仕方をしてほしいのか。声掛けはどうしたらいいのか、普段の生活はどういう工夫で生活をしていくのか知りたいと思います。
60代	女性	居住している地域の高齢化が、自分も含めて著しいので、健常者と共存できるような取り組みを早く進めてほしいです。
60代	男性	介護職員の増員、待遇改善(予算立て)の優先順位をあげることが必要。
60代	—	取り組みについて、全く知らない。高い住民税を使う見返りは何かも含めてもっと情報発信必要。職員の仕事作りになっていないか心配。このアンケート結果はどのように活用し、公開されるかも全く不明。基礎資料として活用されたかどうか確認のしようもない。
50代	女性	・認知症に対する理解について 地域で見守りする為に、正しく理解していただくため、介護、行政以外の方に対する正しい知識を持っていただくと協力性も向上するのではないかと。 ・将来認知症になっても、生活(本人・家族)に対する不安がないようなシステム構築が必要。 ・不安も高齢者にとっては認知症の進行を加速させていると思います。
30代	女性	まだ認知症を身近に感じておらず奈良市の取り組みなど全く知らなかった。今は子育てで忙しく、勉強する機会や時間もないので落ち着いたら講座やイベントに参加して認知症についてしっかり学びたいと思った。
50代	男性	認知症に対して自治体が取り組んでいることがあるとは知らなかった。隣人が行方不明になることが複数回あり、できればサポートしたいが声をかけづらいこともある。行政サポートが充実し、それが広く認知されるよう希望する。
30代	男性	具体的にどのような活動をしているかわからないので現状についてはコメントできない。その立場になった時、身近に関わる機会があった時に、初めて調べたり、企画への参加を検討すると思う。
50代	女性	奈良市の取り組みを今まで見落としていたのでこれを機会に調べてみようと思った。私自身も高齢の一人暮らしの親がいるので今後の参考にしたい。家族、友人と疎遠で1人で暮らしている方などはどうしても認知症の初期での発見が遅くなるので民生さんなどのように高齢者に定期的に訪問してもらえるのはありがたいと思う。
60代	男性	一人暮らしの高齢者に対する認知症発見からサポートまで積極的に推進してほしい。

20代	男性	医療的サポートはもちろん、社会の偏見の解消や初期認知症患者のメンタルケアにも力を入れてほしい。
50代	女性	対応の第一歩として相談窓口にすぐにたどりつけるように機関の告知方法が大切。
30代	女性	まだ私自身が30代であること、また両親も若く認知症のケアについてまだ他人事を感じるためか、認知症について知る機会が極端に低い環境にいます。今後の備えとして何かあった場合に相談できたり頼れる場所については把握しておけたらとは思いますが、積極的に情報を取りにいかない限りそういった情報に触れる機会がないので、もう少し多世代が自然に認知症についてしれる方法があっても良いのかなと感じました。
40代	女性	長生きはとても良いことありがたいことです。ただ体力や認知症などサポートが必要になってくる人も増えていくということです。行政が積極的に声がけをしてくださるのは良いことだと思います。学校教育でできると良いですね。